

## [授業提案]

キャリア教育の授業提案(2)—<sup>かりあ</sup>歌里亜市立<sup>わだち</sup>轅中学校1年生を対象として—

藤田 晃之	(筑波大学 人間系 教育学域・教授)
迫 将倫	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
大脇 和志	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
早瀬 博典	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
中原 朝陽	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
高野 雅暉	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
江幡 知佳	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
今村 舞	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・2年)
カキモフ バザルン	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
村松 遼太	(人間総合科学研究科 博士後期課程 学校教育学専攻・3年)
小出 和代	(修士課程 教育研究科 スクールリーダーシップ開発専攻・1年)
宮本 慧	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
野田 紘史	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
小牧 叡司	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)

## 1. 授業提案構想に至る経緯

本年2月14日、小学校及び中学校の次期学習指導要領案が公表され、意見公募（パブリック・コメント）の手続が開始された。

当該案によれば次期学習指導要領には新たに「前文」が設けられ、小学校・中学校ともに「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有」することなどを柱とした「社会に開かれた教育課程の実現」が理念として掲げられることになる。このような視点で教育の在り方を捉えれば、「前文」が次のような期待を各学校に向けたことも極めて自然なこととして理解できよう。

一人一人の児童（小）／生徒（中）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

ここでは、キャリア教育への強い期待と、キャリア教育を通して育む「基礎的・汎用的能力」を重視する方向性が示されていると言っても過言ではあるまい。新しい学習指導要領に基づく教育課程を編成する学校においては、子供たち一人一人が、自分のよさや可能性を認識し（＝自己理解能力）、あらゆる他者を価値のある存在として尊重しつつ多様な人々と協働し（＝人間関係形成能力）、様々な社会的変化を乗り越え（＝課題対応能力）、豊かな人生を切り拓き（＝キャリアプランニング能力）、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること（＝社会形成能力）が求められるのである。

また、次期学習指導要領案は、これまで同様に「生きる力を育むことを目指す」という基本方針を示しつつ、次の3点を「偏りなく実現」することを各学校に求めていることも極めて重要であろう（小学

校・中学校ともに総則第1・3)。

- (1)知識及び技能が習得されるようにすること。
- (2)思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- (3)学びに向かう力、人間性等を涵養すること。

学校教育を通して育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に再整理する方向性は、今回の学習指導要領改訂の基本的方針を示した答申（中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」2016（平成28）年12月21日）において次のように示されていた。

- ①「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」、
- ②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」
- ③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

学校教育法第30条第2項が示す「学力の3要素」のうち、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」について継承し、第3要素としての「学習意欲」を「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」へと発展させたことは、「前文」において示された「社会に開かれた教育課程の実現」の理念、及び、キャリア教育への強い期待とも軌を一にするものである。

更に、次期学習指導要領案は、その総則において、小・中学校ともに「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」と、全ての教育活動を通じたキャリア教育の充実を明記していることも特筆に値する（小学校：総則第4・1(4)、中学校：総則第4・1(3)）。現行学習指導要領においては、高等学校においてのみ、学校の教育活動全体を通じた「キャリア教育を推進すること」と示されるにとどまり、義務教育段階の学校における方針は明示的ではなかった。しかし、今回の改訂により小学校から高等学校までの継続的・体系的なキャリア教育の実践方針が揃うことになる。

このような学習指導要領の改訂の動向に鑑み、今回、『筑波大学 キャリア教育学研究』創刊号（2016年3月）に掲載された「キャリア教育の授業提案—歌里亜市立轍中学校2年生を対象として—」に引き続き、人間総合科学研究科博士前期課程教育学専攻で開設する「キャリア教育学特講（7月～8月、月曜日4コマ×5週、2単位科目）」における後半12回（12コマ）分を充て、1年生を対象とした教育活動全体を通じたキャリア教育の実践構想を立案し、その成果をとりまとめることとした。その際、より現実的な構想を練ることができるよう、前回設定した架空の自治体と学校—歌里亜市立轍中学校—の状況をそのまま引き継ぎ、当該状況下において実現可能な授業提案を受講者全員で立案することを試みた。当該架空自治体（歌里亜市）と学校（轍中学校）の詳細な設定内容については創刊号掲載の授業提案に示されたとおりであるが、以下、その概略と「第1学年のキャリア教育の目標」について記す。なお、歌里亜市・轍中に関する記述においては、実際の学校の例に倣い、西暦ではなく元号表記とする。

## 2. 歌里亜市及び轍中学校の設定と1学年のキャリア教育の目標

### （1）歌里亜市・轍地区・轍中学校

## ○ 歌里市

- ・ 平成 17 年、八馬間（やまあい）町、歌里市、轍町の一市二町合併によって成立
- ・ JR が市を東西に横断し、駅は旧歌里市内に 2 駅
- ・ 人口はおよそ 65,000 人

## ○ 轍地区（旧轍町）

- ・ 昭和 50 年代後半の工業団地誘致成功を機に、大規模な農地転換と雑木林の伐採を図った
- ・ いわゆる「旧住民」は地区人口の五分の一ほど
- ・ 地区内の工業団地に勤務する住民、地区北部のショッピングセンターに勤務する住民、南に隣接する外開（とかい）市内の企業に勤める住民が多く見られる

## ○ 轍中学校（通学区：旧轍町）

- ・ 通学区内に小学校 2 校〔轍小学校（1 学年 3 学級）、轍東小学校（1 学年 2 学級）〕
- ・ 1 学年 4 学級（第 1 学年 1～4 組：各学級の生徒数は 32 名（男女同数 16 名ずつ））

## （2）轍中学校におけるキャリア教育の目標（身につけさせたい力）

平成 26 年 12 月 9 日

（\*実際には 2015 年 12 月 9 日作成）

## 轍中キャリア教育目標について

## 1. 本校の現状把握 ＜弱み・強み＞

## 1.1 本校の弱み

## 1.1.1 地域に対する効力感の低さ

- ・ 質問紙調査結果によると…
  - 「近所の人に会ったときはあいさつをしている」  
全国平均：87.3% 轍中 3 年：80.6%
  - 「今住んでいる地域の行事に参加している」  
全国平均：37.7% 轍中 3 年：34.2%

- ・ 轍地区住民の状況を参照すると…

- ◎地区内の工業団地に勤務する住民
  - ◎地区北部のショッピングセンターに勤務する住民
  - ◎南に隣接する外開（とかい）市内の企業に勤める住民
- かつ、いわゆる「旧住民」は地区人口の 1/5 ほど



地域住民の勤務先が多様であり、新しさの中に、旧さもある地域

これらの調査結果及び住民状況を踏まえるならば、轍地区には多様な人々が在住しており、それが原因となって、生徒と地域とのつながりが希薄化していることが推察される。

本校の生徒には、地域に対する自らの効力感が低く、肯定的な認識や愛着にも弱さが見られる。

## 1.1.2 学習内容と自分の将来との乖離

- ・ 質問紙調査結果によると…
  - 「算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」  
全国平均：36.5% 轍中 3 年：34.0%
  - 「将来の夢や希望を持っている」  
全国平均：73.2% 轍中 3 年：68.7%

これらの調査結果を踏まえるならば、生徒の成績や学習態度はおおむね良好であるものの、自身の将来像を描いたり、学習内容を生活の中で活用したりする力が低いことが推察される。

本校の生徒には、学習内容を自分の将来と結びつけることが十分にできていないという弱さがあると言える。

### 1.1.3 継続して物事に取り組む力の弱さ

・質問紙調査結果によると…

●「ものごと最後までやり遂げてうれしかったことがある」

全国平均：93.2% 轍中3年：85.9%（←小学校データ 全国平均：94.5% 轍小：90.0%）

ここから、継続して何かに取り組む経験や集中力を持続させる力の不足が読み取れる。

## 1.2 本校の強み

一般的に、物事の長所及び短所の関係は、表裏一体である。それゆえ、本校の生徒の強みは、弱みに対応して把握することができる。

### 1.2.1 授業にはまじめに取り組む、生徒間関係も教師との関係も安定的

### 1.2.2 多様な学習機会の可能性

1.1.1において、地域住民の多様性に起因する「地域に対する効力感の低さ」が、本校の生徒の弱みであると把握した。しかしながら、地域住民が多様であるということは、裏を返せば、多様な学習機会が存在しているということである。例えば、教科活動において、地域に飛び出し実験・観察を行うことや、教科外活動において、地域住民を巻き込み様々な職業の人からの話を聞くことが想定できる。

このように、本校には、地域住民の多様性ゆえに、多様な学習機会が存在している。

### 1.2.3 キャリア教育環境の整備

1.1.2において、生徒の成績や学習態度はおおむね良好なものの、「学習内容と自分の将来との乖離」が、本校の生徒の弱みであると把握した。しかしながら、生徒の成績や学習態度がおおむね良好であるということは、新たな発想に基づく取組に対する保護者等からの理解が得やすいことを意味する。

生徒指導上対応すべき問題が少ない本校では、キャリア教育を実施するための良好な環境が既に整備されている。

以上の現状把握を踏まえ、本校全体のキャリア教育の目標及び2年生\*の目標を次のように定めた。

## 2. 本校におけるキャリア教育の目標（身につけさせたい力）

- ・学校での学習を日常生活や将来の生活の中で活かそうとし、可能な限り活かすことができる。
- ・将来進むべき方向性についての自分なりの考えをもち、それに基づき、卒業直後の進路を決定することができる。
- ・しなくてはならないこと、すべきことには進んで取り組み、それをやり遂げることができる。
- ・歌里市、とりわけ轍地区の良さや課題を理解し、地域の行事等に積極的に参加することができる。

## 3. 2年生\*のキャリア教育の目標（身につけさせたい力）

- ・学校での学習が生活の中で活かされていることについて関心を持ち、可能な範囲で活かすことができる。
- ・自らの将来について関心を持ち、多様な選択肢や果たすべき役割があることが理解できる
- ・しなくてはならないこと、すべきことの判断を適切にすることができ、それらに計画的・継続的に取り組むことができる。
- ・歌里市、とりわけ轍地区で働いている人々の現状を理解し、職場体験活動等の社会的な活動に積極的に取り組むことができる。

\*創刊号掲載の2年生のキャリア教育の目標をそのまま転載した。

## （3）轍中学校1学年のキャリア教育の目標（身につけさせたい力）

このような設定の下で、1学年のキャリア教育の目標（身につけさせたい力）については、次のように設定すると都合が至った。本稿において示す各教科等の指導案は、以下の学年目標を前提として構

想されたものである。

### ■第1学年のキャリア教育の目標（身につけさせたい力）

- 学校での学習と日常生活や将来とのつながりに気づき、可能な限り活かすことができる。
- 自分の良さや個性に気づき、それに基づいて将来進むべき方向性について自分なりに考えることができる。
- しなくてはならないこと、すべきことに気づき、進んで計画的に取り組むことができる。
- 歌里亜市、とりわけ轍地区で働いている人々について知ることを通して、轍地区の良さや課題に気づくことができる。

### ■設定の意図

第1学年のキャリア教育の目標作成にあたっては、小学校との接続を意識した。自らの将来と現在の学習がつながっていることを発見できるようになるためには、生徒が既習事項の活用を通して「気づく」ことが必要である。そのため、各教科および道徳の指導および評価にあたっては、「気づき」を手掛かりとして既習事項の活用を学習活動に盛り込むとともに、教科間の連携にも配慮する。

二つの小学校区が合流するため、第1学年では、生徒は同質性と異質性へと関心が向きがちである。「自らの良さ」と「自分なりの考え」を意識させるためには、「他人の良さ」「他人の考え」を尊重することが重要である。そのことを踏まえ、指導にあたっては、道徳の時間および特別活動を中心に「自他を尊重する態度」の形成に特段の配慮をする。

第1学年は、部活動など新たな人間関係に直面する中で、地域・学校・家庭などの集団の一員としての役割を理解させる。第2学年において目指される「計画的・継続的に取り組むことができる」段階へ向けて第1学年では、「積極性」を重視する。

小学校段階では、生活科・社会科を通して地域の人々の役割について理解を深めてきた。第1学年では歌里亜市へと焦点を絞るうえで、校区の広がりをつまえた「総合的な学習の時間」を核として指導を展開する。校区の違いは、「地域の良さや課題」への関心に大きな影響を与えうる。そのため、各教科および総合的な学習の指導にあたっては「地域」を題材として知識・理解の幅を広げるよう配慮する。

（文責：藤田 晃之）

## 平成28年度 歌里亜市立轍中学校第1学年 キャリア教育年間指導計画

## ◎第1学年のキャリア教育の目標（身につけさせたい力）

- 学校での学習と日常生活や将来とのつながりに気づき、可能な限り活かすことができる。
- 自分の良さや個性に気づき、それらに基づいて将来進むべき方向性について自分なりに考えることができる。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
教科	国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 技術・家庭 外国語			<b>【社会(歴史的分野)】日本列島の誕生と大陸との交流</b> 縄文時代の大規模な集落遺跡として注目されている三内丸山遺跡を取り上げ、当該遺跡のクリ林から当時の人々が持続可能な森林開発を行っていたことを学ぶことを通して、持続可能な社会を築いていくという現代的な課題を認識させ、その解決の糸口が歴史に隠されていることに気付かせる。	<b>【外国語(英語)】私の好きなこと</b> 1年生のキャリア教育の目標のうち「自他の良さや個性に気づき、それに基づいて将来進むべき方向性について自分なりに考えることができる」に焦点を当て、他者とのコミュニケーション活動を通して、自己理解や他者理解を深め、お互いに尊重しあう態度を育成する。特に、自己紹介の発表では、今まで相手が知らなかったプラスワンの情報を用いて、自分をアピールできるよう工夫させる。		<b>【技術・家庭科(技術分野)】ハタケは自然の工場??</b> 目的や条件に応じた栽培計画を立て、合理的に栽培または飼育ができるようにするとともに、成長の変化をとらえ、育成する生物に応じて適切な対応を工夫することを通してキャリアプランニング能力の基礎を培う。また、生物育成に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深めさせるとともに、生物の育成を通して自らのモニタリングとコンディショニングのスキルを身につけさせ、課題対応能力を高める。
	道徳	相互理解、寛容傾聴スキルを身につけるソーシャルスキルトレーニングを用いた道徳教育					
総合的な学習の時間		轍地区の防犯・防災マップを作ろう 自分が住んでいる所/自身の通学路について地図(マップ)に纏めよう → マップに防犯要素・防犯対策/防災要素・防災対策について盛り込んでいこう → 「発信」に向けて準備しよう → 防犯・防災マップを「発信」しよう					轍地区の
特別活動	学校行事	新入生歓迎会 部活動集会		体育祭	球技大会		
	学級活動	・学級組織づくり、係・委員会活動の目標の設定 ・クラスメイトを知ろう、学級目標、個人目標の設定	・この1か月の振り返り ・体育祭に向けて	・体育祭の振り返り	・係・委員会活動の振り返り ・夏休みに向けて		・夏休みの振り返り ・合唱祭に向けて どうして勉強をするの？ 「勉強をしたくない」仮想人物を設定し、その人物の将来の生活と学校での学びとの関連性について考えさせる。

- しなくてはならないこと、すべきことに気づき、進んで計画的に取り組むことができる。
- 歌里亜市、とりわけ轍地区で働いている人々について知ることを通して、轍地区の良さや課題に気づくことができる。

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
<b>【社会(地理的分野)】 アフリカ州ーチョコレート のふるさとー</b> 単元の総まとめとして、 アフリカ州の地理的・歴史 的な問題に端を発する児 童奴隷問題と、その解決 に向けての取り組みを通じ て、持続可能な開発とフェア トレードという現代的課 題について学習する。	<b>【理科】音の性質</b> 音を物理現象として理解 することに限定せず、そう した音の性質と自らの生 活や社会との関連性に気 付かせる。また、グループ 実験の中に、本校のキャリ ア教育課題でもある「自らの すべきことへの気づき」 を促す工夫をしていき たい。	<b>【音楽】郷土の民謡に 親しもう「歌里亜節」</b> 12 月の地域交流コン サートに参加するため、 歌里亜節保存会の方々の 協力を得て、歌里亜 節について学び、歌う練 習をする。これを通して 自分の住む地域の良さに 気づかせ、歌里亜市 および轍地区に住む異 世代の人々とのコミュニ ケーションへの積極性を 育む。	<b>【国語】読書に親しむ</b> 文章中で語られてい る著者・筆者の考えに触 れ、自分自身の考えとの 相違を見出し、ものの見 方や考え方を広げるこ とを通して、学校での学 習が日常の生活にも活 かすことができることを 意識させる。読書が実 用的であり、実際の生 活の中で活かすことが できるものであること に気づかせ、読書習慣 を定着させる。		
<b>【数学】資料の散らばり と代表値</b> 実際に技術・家庭科に おいてナスを栽培・収 穫した際のデータを題 材としつつ、PPDAC サイクルに基づく統計 的な知識や能力を活用 した統計的課題解決に 焦点を当て、グルー プ学習・全体発表など を通して学習する。	<b>【美術】記憶に残るシン ボルマーク</b> 12 月の地域交流音楽 コンサートのシンボルマ ークをデザインするこ とを通して、自分の暮 らす地域社会にはいろ んな背景や条件を持 った人々がいること を理解し、自分が地 域社会に伝えたい内 容、伝えるあり方につ いて考えさせる。	<b>【保健体育】ストレス への対処と心の健康</b> ストレスが心と体に影 響を与えることを学 ぶことを通して、中 学生期の悩みにつ いての理解を深め ると共に、自分に合 ったストレスへの対 処方法に気づかせる。			
			<b>向上心、個性の伸長:世界に一つ だけの花、自分らしく生きるとは？</b>  1 年生のキャリア教育の目標のうち「自分の良 さや個性に気づき、それに基づいて将来進む べき方向性について自分なりに考えることが できる」に焦点を当て、自分らしく生きる とはどういうことかについて、クラスメイト の考えを尊重しながら、自分の考えをも つことができるようにさせる。その際、国語 「読書に親しむ」との関連を図れるよう工 夫する。		<b>集団生活の向上、役 割、責任</b> 係・委員会活動の振り返り
観光マップを作ろう					
<b>合唱祭</b>	<b>校外学習</b>	<b>新入生1日体験入学 地域交流コンサート</b>			<b>卒業生を送る会</b>
<b>・校外学習に向けて</b>  <b>・合唱祭の振り返り</b>	<b>・校外学習の振り返り</b>	<b>・私の大切にしたいこと</b>  <b>・地域の行事を支える人びと</b>	<b>・地域の行事のインタビュー</b>	<b>・卒業生を送る会に向けて</b>	<b>・自分を知ろう</b> <b>1 年生の振り返り</b> 自身のこれまでの足跡を振り返ることで、計 画的に学習等に取り組む態度を育てるとも に、自身の活動を継続的に振り返る活動 を通して、長期的な資料として本題材で 作成した記録を活用することができるよ うにする。

## 国語科指導案

轍中学校 教諭 迫 将倫

### 〔轍中学校 1 年生 国語科におけるキャリア教育〕

生徒にとって、中学一年という学年はそれまでに経験したことのない大きな環境の変化を感じる学年であるといえる。こうした環境の変化は、生徒のキャリアを意識したときに決してこの時期に限ったものではなくその後の人生の中で幾度となくあることだろう。こうした眼前に現れる困難な問題をどのように乗り越えていくか、その助けとなる能力を中学三年間の国語科の授業の中で身につけさせたい。そのために、第一学年では「読書習慣の定着」を具体的な教科の目標として掲げる。

本校のキャリア教育の目標には、「学校での学習を日常生活や将来の生活の中で活かそうとし、可能な限り活かすことができる」という項目がある。国語科の学習というのは、これまで、文学教材の解釈を重視し多くの時間を割いてきた。しかし、平成二十年度版の「国語科改訂の要点」として、「言語活動の充実」や「読書活動の充実」が挙げられ、国語科教育がそれまでの文学教育的立場から、言語の教育という立場へとシフトする動きが強まってきていることが窺える。

これまで国語科教育の中で教えられてきた文学の細かな表現を読み深めるための方法というのは、国語学研究に依拠したもので、日常の生活における「読み」とは少なからず性質の異なるものであった。こうした学習者の知識や技能よりも教材の価値を重視した学習の方法が、結果として、受験終了後に学校で学んできたものがこぼれ落ちていってしまう「知の剥落」を招いてきたのではないか。そうした知識ではなく、実際に言語を使用し、言語に対する意識を高め、言語感覚を高めていく中で、学習者が主体的に身に付けていく知識や技能こそ、学習者が社会に出た時に必要とされる言語の力であると考え。

第一学年の国語科の目標として掲げた「読書習慣の定着」は、このような言語の力をつけさせるために欠かすことのできないものである。本を読むということの一つの側面は、書字情報をもとに対話する行為である。本の著者との対話することで、現在自分が抱えている問題や将来抱えるかもしれない問題に対して自分の考えを深めることができる。読書量と言語能力（語彙力や文章理解力）には相関関係があることが既に複数の国内外の研究で明らかにされており、言語の教育という意味においての国語科教育の学習習慣として読書は効果的であるといえる。このことから、読書習慣の定着は学習指導要領改訂の重要な視点の一つである「学習意欲の向上や学習習慣の確立」に資することができる。と考える。

轍小学校中学校における「全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙調査）」結果のうち全国平均を下回った項目の中に、「読書は好きだ」という項目があり、本校生徒の読書に対する意識が全国的に、また、歌里市市内の中でも比較的低い状況にあるということが分かった。こうした状況の改善を図り、生徒が自ら本を手取るようになるためには、読書がただ娯楽のためのものではなく、実用的であり、実際の生活の中で活かせるということに気づかせる必要がある。

以上の理由から、今回は「読書に親しむ」という主題単元を選定した。本単元は、光村図書の年間指導計画案の中では、一時間で取り扱うべきものとされているが、今回は上記で述べてきたような読書活動の充実を図るため、二時間分の授業を行う。本単元で重視するのは、読書によって生徒が抱える身近な問題の解決を図ろうとする意識を形成することであるため、今回は、クラス目標の達成を課題とした。

#### 1. 授業実践の日時：平成 28 年 12 月 20 日（火曜日）2 次限



2. 学級：轍中学校 1 年 1 組 32 名（男子 16 名、女子 16 名）

3. 教科書：光村図書「国語 1」

4. 単元名：「読書に親しむ」

## 5. 単元の目標

### （1）本単元の目標・ねらい

- ①文章を読み、ものの見方や考え方を広げることができるようになること。
- ②様々な読書の目的があることに気づき、目的に合わせた読書ができるようになること。
- ③本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身につけ、目的に応じて必要な情報を読み取ることができるようになること。

### （2）本単元とキャリア教育との接点

- ①文章を読むことで、生徒は自分のものとは異なるものの見方や考え方に出会う。文章中で語られている著者・筆者の考えに触れることで、自分自身の考えとの相違を見出し、結果として生徒自身のものの見方や考え方を広げることにつながる。こうした普遍的な読書の役割に気づかせることで、学校での学習が日常生活の中においても活かすことができることを意識することとなる。こうした意識の形成によって、生徒が主体的に学校での学習にとりくむことができるようになる。
- ②本単元では、ノンフィクションのある人物について書かれた文章を主たる教材としている。この文章を読むことの目的について考えさせることで、様々な読書の目的があることに気づかせる。目的に合わせた読書を行うことで、読書がただ娯楽のためのものではなく、実用的であり、実際の生活の中で活かすことができるものであることに気づかせることができる。これにより、自ら習慣的に本を手に取りようになり、読書習慣を定着させることができる。
- ③本単元では特に、情報を読み取るための読書の方法を、二時間目の授業では身に付けさせようとしている。生徒にとって身近な問題を解決するために、どのような情報が必要であるかを考えさせ、収集させ、読み取らせることができるようになれば、生徒の読書の幅は広がっていく。読書によって何らかの問題を解決したという経験は、読書に対する印象を向上させ、自ずと生徒が本を読む機会は増えていく。

## 6. 単元全体の指導計画

時数	単元名	主な学習内容
1 時間	「桜守三代」	① 文章を通読し、内容を把握する。 ② クラス全体で、文章中で取り上げられた人物の職業観について話し合う。
1 時間	「読書案内」 (本時)	① 教科書で紹介されている図書の内、図書室で読めるものをブックトークで紹介する。 ② グループで、クラス目標を達成する上での課題を考え、その課題を解決するために必要な情報について話し合う。 ③ 情報を図書館の本から探し出す。

## 7. 本時の指導

## (1) 本時の目標

- ①目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てること。
- ②本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取る能力を身に付けさせること。

## (2) 展開

時間	学習過程	学習活動	指導上の留意点
10分	導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間中に図書館に移動しておくようにさせる。</li> <li>前時の学習の振り返りをさせる。</li> <li>「目的に合わせた読書」をテーマにしてブックトークをし、図書館にある本をいくつか紹介しながら、目的に合わせた読書（情報読書や娯楽読書など）の方法と本の選び方を紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読んで得られたことを共有し読書にはそれぞれ目的があることに気づかせる。</li> <li>ブックトークの中で目的に合わせた読書の例や、情報を効率よく読み取るために本のどこに注目するかを紹介し展開につなげる。</li> </ul>
35分	展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回は身近な課題の例としてクラス目標を扱うものの、この経験を自分自身の課題解決に活かすことを説明する。</li> <li>クラス目標を達成する上での課題をグループで話し合わせる。</li> <li>グループでその課題を乗り越えるために必要な情報を具体的に考えさせる。</li> <li>図書館内の図書から必要な情報を収集させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題が明確に決まるまでは、教師は干渉しないようにして。</li> <li>課題から具体的な情報を導き出す技術的な場面においてはそれぞれのグループでの話し合いに積極的に介入する。</li> <li>早く終わったグループから図書を探し始めてよいこととし、話し合いの時間の短縮をはかる。</li> <li>図書を探す手助けをする。</li> <li>本授業の目標は、課題から情報収集までの過程を生徒に実体験させることにあるので、実際に情報を見つけられなくとも良いこととし、時間が来たら活動を切る</li> </ul>
5分	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を振り返らせ、収集した情報の概要を一つの班に発表させる。</li> <li>本時の自己評価を行わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が行った活動は目的に合わせた読書であったことを確認し、冬休み期間中の読書を促すようにする。</li> <li>自己評価を次の授業で提出するよう説明する。</li> </ul>

## ワークシート

名前（ ）

クラス目標「和を以て貴しとなす」

## クラス目標設定の背景

人と人との「和」を大切にすることで、中学校に入ってはじめて出会う友達との仲を深め、はじめて取り組む行事を学級が一丸となって乗り切ることが可能となる。それにより、学級の全員が楽しい一年間を過ごすことができる。

① クラス目標を達成するための課題は何か。

--

② どのような情報が必要か。

--

③ 自分の学習の評価（今回の経験で自分ができたことこれからしたいことを具体的に）


## 8. 本時の評価について

本時の評価は、生徒自身に行わせる。この評価方法を選択した理由は、本時の学習が、生徒個人の活動を主としている為である。国語科教育研究の中では、評価の方法として三つの類型があるとされており、それぞれ「学習の評価」「学習のための評価」「学習としての評価」と呼ばれている。この中の「学習としての評価」というのは、学習者が自分自身の学習活動を評価するものであり、自身の活動を振り返り、次回以降の学習に活かすことができるようになる学習効果が期待される。本時の授業は、学習者自身による学習が主であり、それぞれの活動の内容が多様化することに鑑みて、「学習としての評価」を評価方法として選択する。自己評価の形式は、文章でまとめる形とし、自身の経験を文章で表現する書く力をつけさせる。

### 〔追録〕指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

院生という立場に立ち返って意見を述べると、キャリア教育の視点が国語科教育にもたらすものは、「普遍性・汎用性」だと考えている。教科の枠を越えて、学校教育の枠を越えて、学習者が社会に出たときに、自立したときに必要な力をつけさせることが求められている。学習者のキャリアを意識したときに初めて、国語科教育が潜在的に持ち続けてきた「普遍性・汎用性」に光が当てられ、国語科の授業の中で何を教えるべきかがはっきりと浮かび上がってくるのである。

今回はそうした背景から、読書に注目した。読書は楽しくて難しい。様々な感情を抱かせる読書という活動が、楽しくて難しい人生の中で困難な問題を乗り越えるときに大きな役割を担ってくれるはずである。読書の中でも、今回は情報読書を学習活動として取り上げた。分厚い難しそうな本に出会った時、その本を一冊丸々読みこなすには非常に労力を要するものだ。しかし、その本の中で自分が知りたい情報のみを探し出すというのは、ノウハウさえわかっているならば難しいことではない。

本を最初から一ページずつめくっていくことだけが、読書の方法ではないということを生徒が知りさえすれば、読書の持つ自由さに気づかせることさえできれば、生徒が本を手取る機会は格段に増加していくのではないかと考える。

(人間総合科学研究科博士前期課程 教育学専攻 1年 迫 将倫)

## 社会科指導案

轍中学校 教諭 大脇 和志  
早瀬 博典

## 〔轍中学校1年生 社会科におけるキャリア教育〕

中学校社会科の学習指導要領においては、「広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察」する事や、「公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」事が目標とされる。これらを念頭に置いた上で、キャリア教育を社会科で実践する為に重要な事として、次の三点が考えられる。

第一に、現代社会と自分の生活とのかかわりについて考えさせる事である。資料や教材から学び取った事が自分の生活にどのように関わっているのかに気付き、より良い社会を実現する為に自分が出来る事について主体的に考える事は、「社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察」する事と関連する。

第二に、社会生活の様々な仕組みや現代社会の課題について理解し、自分の将来と結びつけて活用させる事である。各分野における学習内容を絵に描いた餅で終わらせるのではなく、社会の仕組みについて説明したり、課題を発見・解決する為に活用したりする事は、将来の社会生活を営む上で必要な能力であり、「公民としての基礎的教養を培う」為に重要であると考えられる。

第三に、過去や現在の人々の生活に目を向け、国内外の産業の種類や内容、課題などについて理解する事である。過去から今に繋がる人々の営みに目を向け、自分たちの生活を支える産業の構造と意義について学ぶ事で、「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」事に繋がると考えられる。

今回中学校1年生を対象に提示する指導案は、歴史が第一、第二、地理が第一、第三の点を重視している。また、本校第1学年の社会科は、以下のような年間計画のもとで行うことを「教科部会」にて決定した。

表 轍中学校第1学年社会科 年間計画

4月	世界の姿 ／世界各地の人々の生活と環境	11月	中世の日本
6月	歴史の流れをとらえよう ／古代までの日本	12月	世界のさまざまな地域の調査
9月	世界の諸地域／アフリカ州	1月	中世の日本（続き）
		3月	近世の日本（～桃山文化）

表中の下線で示した大単元について、歴史的分野について大脇が「古代までの日本」より、「日本列島の誕生と大陸との交流」を担当し、地理的分野は「世界の諸地域」より、「アフリカ州」を早瀬が担当して、それぞれ指導案を作成した。

## 〔地理的分野（担当：早瀬）〕

1. 授業実践の日時：平成28年10月7日（金曜日）2時限
2. 学級：轍中学校1年3組32名（男子16名、女子16名）
3. 教科書：東京書籍、平成28年度用「新編 新しい社会〔地理〕」
4. 単元名「アフリカ州ーチョコレートのあるさーとー」

## 5. 単元の目標・ねらい

## （1）本単元の目標・ねらい

- アフリカの国々の地理的事情や文化特色に興味を持ち、日本との関係について積極的に調べ、考えようとする。（社会的事象への関心・意欲・態度）
- アフリカの国々の経済的・文化的な課題について、自分の生活と結びつけながら、多面的・多角的に考察することができる。（社会的な思考・判断）
- アフリカの国々についての資料や映像から、アフリカの国々が抱える問題を政治・産業・社会の面からまとめることができる。（資料活用・表現の技能・表現）
- ガーナとコートジボワールのカカオ農場が抱える問題と、その背景にあるアフリカ州の地理的特色や社会問題との関連について理解することができる。（社会的事象についての知識・理解）

## （2）本単元とキャリア教育との接点

本単元では、中学校学習指導要領における地理的分野の目標の一つである「日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色や地域の課題をとらえさせる」事と、キャリア教育の目標との関連を考え、中学校地理における世界の諸地域に位置付けられるアフリカ州についての学習を選定した。

アフリカ州における指導目標には、「地域的特色と課題を多面的・多角的に考察し、その成果をさまざまな手法で表現させる」ことが挙げられている。従って、アフリカ州の地域的特色や産業を理解するだけに留まらず、生徒達にとって身近なお菓子であるチョコレートについての学びを通じて、日本の歌里市に住む自分の生活と、遠いアフリカの地との繋がりを実感させることが重要であると考え。

また、アフリカ州について学ぶにあたっては、中学校三年生の歴史的分野でのアフリカ州の植民地化や、同じく三年生の公民的分野における、貧困と途上国の子どもの人権についての問題等、地歴公の社会科3分野との関わりを意識した、広がりのある学習やカリキュラム構成が必要である。その為、まずアフリカ州の自然環境や産業、歴史的背景等の基礎的な内容を前半の二時間で定着させた上で、三時間目は都市化の進展や地域統合に伴う社会的諸問題について学習する。そして四時間目は、前時までの学習と公民的分野との繋がりを意識して、カカオ農園の児童奴隷問題に注目し、フェアトレードや公正を求める人々と企業の活動について理解を深める学習を行う。以上のような内容の学習単元を提案したい。

本時の展開(第4/4時)では、単元の総まとめとして、アフリカ州の地理的・歴史的な問題に端を発する児童奴隷問題について学び、その解決に向けての取り組みを通じて、持続可能な開発とフェアトレードという現代的課題について学習する。生徒達が興味・関心を持って学習できるように、映像やチョコレート等の教材を活用して、知的好奇心を喚起することを心掛けたい。また、生徒が教材や資料から得た情報を主体的に解釈させ、生徒達なりにアフリカの社会問題に対してどのような行動を起こせるのかを、仲間と協力して考える場面をつくりたい。このような学習活動を行うことで、轍中学校一年生のキ

キャリア教育で目指される「学校での学習と日常生活や将来とのつながりに気づき、可能な限り活かすことができる」、「自分の良さや個性に気づき、それに基づいて将来進むべき方向性について自分なりに考えることができる」という二つの目標と結びついた社会科の授業になり得ると考える。

## 6. 単元全体の指導計画

時	学習内容・活動	◎評価基準
1 習 得	○アフリカ州の導入 ・事前学習とアンケートをもとに、アフリカ州について知っていることを発表し合う。 ・これから学習する単元の概略について把握する。 ○アフリカ州の基礎理解 ・アフリカ州の主要国の国名と位置、自然地名を白地図にまとめる。 ・アフリカ州の歴史を概観し、現代のアフリカの諸問題への関連を考察する。	◎アフリカに対して関心を高め、地理的事象を捉えようと努力している。(社会的事象への関心・意欲・態度)
2 習 得	○アフリカ州の産業 ・アフリカ諸国の人々の生活に注目し、農業の様子や鉱産資源の状況を確認する。 ・アフリカ州の主要国の経済状況・貿易の様子から、産業に偏りがあることに気づき、モノカルチャー経済について学習する。	◎アフリカ諸国の経済基盤が脆弱な理由を調査する上で適切な資料を選択し、活用している。(資料活用の技能・表現)
3 習 得	○アフリカ州の社会的課題 ・ガーナとコートジボワールの場所について確認する。 ・カカオを生産している国と周辺のアフリカ各国とを比較し、都市化の進展や地域統合に伴う格差の拡大に注目する。 ○児童労働問題についての理解 スライドと映像教材から、チョコレートの製造工程を確認し、児童労働が行われていることを知り、感想を記述する。	◎ガーナとコートジボワールのカカオ農場が抱える問題と、その背景にあるアフリカ州の地理的特色や社会問題を結び付けて理解することができる(社会的事象についての知識・理解)
4 本 時 活 用	○アフリカ州の児童奴隷問題の解決に向けて ・児童奴隷問題について学習する。 ・映像教材から、企業や個人の活動を学び、持続可能な社会に向けた社会的な動向を捉える。 ・日本の企業のフェアトレードを通じた支援を知り、今後の支援のあり方について、自分なりに考え、表現する。	◎ガーナとコートジボワールの児童奴隷問題と、その解決に向けた企業のフェアトレードについて理解し、自分の生活と結び付けて考えることができる(社会的な思考・判断)

## 7. 本時の指導

### (1) 本時の目標・ねらい

○ カカオ農園で働く児童奴隷問題について理解し、それを解決する為の方法について考え、自分の言

葉で述べることができる。(社会的事象についての知識・理解)

- 持続可能な社会の実現のため、どのような事ができるかについて考えることができる。(社会的事象への関心・意欲・態度)

## (2) 本時の学習

	学習内容	主な発問と予想される生徒の反応	教師の支援と評価 (◎)
導入	1. カカオ農園における児童奴隷と、その背景について学習する。	○スライドには何と書いてあるだろうか。 ・ slave children、児童奴隷。  ○なぜこの現代において、奴隷と呼ばれるような子どもたちが存在しているのだろうか。 ・ カカオの価格が先進国で勝手に決められている ・ 前時までに学習したアフリカ州の産業や地理的特徴を再確認する。	児童奴隷についての生徒の知識・関心を引き出す(スライド1)。  カカオが不当に安い価格で買い取られてしまう事実に触れる(スライド2)。
どうすれば児童奴隷として働かされている子どもたちを救えるだろう			
展開	2. DVD映像 <sup>1</sup> を鑑賞し、気付いたことをノートに記入する。	○子どもたちを助けるヒントになるかもしれない映像を見て、気付いたことをノートに記入しよう。	◎主発問について、主体的に考え、ノートがとれているか。
	3. 児童奴隷問題に関する年表を見て、解決に向けた取り組みについて知る。	○ハーキン・エンゲル議定書 <sup>2</sup> で問題が解決しなかったのはなぜだろうか。 ・ 議定書の内容が守られなかった ・ 企業が無視をした	映像の中で、企業がハーキン・エンゲル議定書を無視したことに注目する(スライド3)。
	4. 企業の持続可能な社会に向けての取り組みについて考える。	○なぜ企業の態度が変化したのだろうか。 ・ トニー氏のような人の活動 ・ 持続可能な社会を目指す社会的潮流 ・ 人権意識の高まり  ○持続可能な社会を実現するには何が必要だろうか ・ 社会問題について知ること ・ 消費者の意識の問題	森永のフェアトレードチョコと箱を配布し、企業の態度が変化した背景にある持続可能な社会を目指す社会的潮流に気付かせる。  企業を動かすにはどのような行動が必要か考える。 フェアトレードについて説明する(スライド4)。
	5. 子どもたちを救	○どうすれば児童奴隷として働かされて	ワークシートを配布する。



	う方法について、班で話し合い、意見を発表する。	いる子どもたちを救えるのだろう。自分たちには何ができるだろうか。 ・フェアトレード ・人権意識をもつ ・消費者としての行動	ノートやスライドを手がかりに話し合い活動を行う。 人権や消費者といった言葉に注目させる。
まとめ	6. 今後自分たちがどのような行動をしたいか考え、ワークシートに記入する。	○授業を受ける前の自分の考えを振り返りながら、今後自分が行いたい取り組みについてまとめてみよう	◎持続可能な社会を実現する為に自分ができることについて考えることができるか。

### (3) 本時の資料

#### [スライド資料]

スライド 1

**この記事に映っているのは、誰？**



出典: BBC NEWS (2001) <http://www.bbc.com/news>

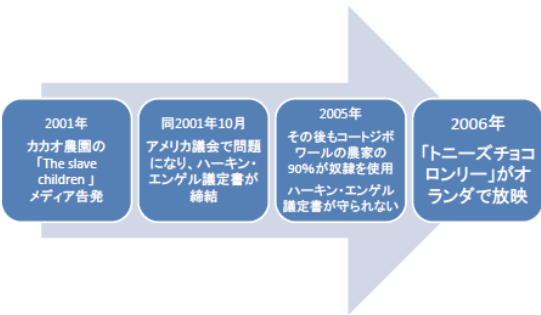
スライド 2

**カカオの貿易や価格の仕組み**



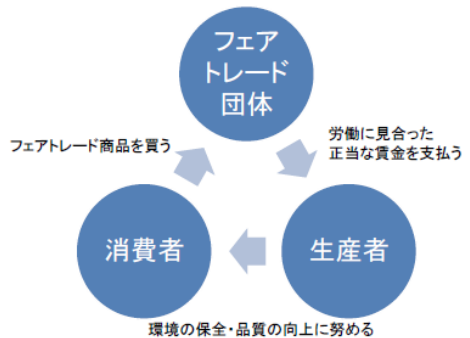
スライド 3

**児童奴隷問題に関する年表**



スライド 4

**フェアトレードの仕組み**



【ワークシート】

「アフリカ州の児童奴隷問題の解決に向けて」を受けて

年 組 名前 \_\_\_\_\_ 班

○ノートにまとめたことや、グループで話し合ったことを書いてみよう。



○今日の授業を受けて、これから自分が行いたいことについて書いてみよう。



## 8. 本時の評価

○学習課題について資料を基に主体的に解釈し、考察した結果をノートに書き込むことができたか。

(資料活用の技能・表現)

○グループ学習を通して、学習課題に対する自分の考えを深めることができたか。

(社会的な思考・判断)

### 【註】

- 1 NGO 団体「ACE」が貸し出している映像 DVD『トニーズ・チョコロンリー(Tony's Chocolonely)』を映像教材として鑑賞する。25 分のうち、10 分程度に編集して使用することを想定している。本 DVD のあらすじは以下の通りである。西アフリカのカカオ生産国で奴隷売買が行われていることを新聞記事で知った Teun van de Keuken (テウン・ファン・カエウクン：愛称トニー) は、児童奴隷の実態を世間に広めるため、「児童奴隷によって栽培されたカカオが原料のチョコレートを食べた罪」で自身を告訴する。しかし、訴えは検察に不起訴処分とされてしまう。トニーは諦めず、大手チョコレート製造会社に話を持ちかけるなど、児童奴隷を介在させないチョコレートビジネス (=100% slavery-free) を目指し、ついには自ら「奴隷労働のない」チョコレートを作成する。詳細については以下の URL を参照。

([http://www.nikkeibp.co.jp/style/biz/feature/world/070509\\_chocolonely/index1.html](http://www.nikkeibp.co.jp/style/biz/feature/world/070509_chocolonely/index1.html)、2016 年 8 月 20 日最終アクセス)

- 2 2000 年代の欧米では、カカオ産業の児童労働について注目が集まっており、2001 年 10 月に、米国のトム・ハーキン上院議員とエリオット・エンゲル下院議員の提案を受けて締結されたのが、「ハーキン・エンゲル議定書」である。その内容は、菓子製造業界および世界カカオ財団とその加盟企業が、カカオおよびカカオ製品の生産過程における最悪の形態の児童労働の撤廃に取り組むことであった。本議定書は、2010 年 9 月にその実行に向けて、新たな行動枠組みが採択されるなど、カカオ産業の児童労働解決に向けた取り組みの国際的背景として重要である。中村・山形(2013)が詳しい。

### 【参考文献】

キャロル・オフ著 北村陽子訳(2007)『チョコレートの真実』英治出版

中村まり・山形辰史(2013)『児童労働撤廃に向けて—今、私たちにできること—』アジア経済研究所

“世界の子どもを児童労働から守る NGO ACE[エース]”, <<http://acejapan.org/>>2016 年 8 月 20 日最終アクセス

### 【追録】指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

筆者が地理的分野において重要視したのは、日本とアフリカ州という空間的に遠い両国を結び付けて学習し、アフリカ州の社会問題について自分ごととして主体的に考えさせる事である。その為、資料や教材から読み取った情報を単純に暗記するだけではなく、日常生活や自分の将来との結び付きに気付き、将来を見据えてどのような行動ができるのかを考え、行動をするために他者と協力する場面を提供する学習活動を重視した。このように、本単元は、生徒が「学ぶ意義」を実感するキャリア教育であると同時に、当事者性に焦点を当てた社会科授業である。

また、アフリカ州について学ぶにあたっては、地理的分野でのアフリカ州の自然環境や産業について

の知識・理解のみに留まらず、歴史的分野でのアフリカ州の植民地化と先進国との関係性や、公民的分野における公正な社会を目指す為の貧困問題についての学習との繋がり、すなわち地歴公の社会科3分野との関わりを意識した広がりのあるカリキュラム構成が重要である。本単元はこれらを踏まえ、単元の前半三時間ではアフリカ州の位置や産業といった基礎的な知識について理解し、まとめの四時間目に、アフリカ州の産業を取巻く児童奴隷という社会問題に踏み込んでいく構成である。アフリカ州の地理的特徴と歴史、そして社会的課題を相互に関連させて学習することで、「生きた知識」として生徒達に定着させることができると考える。

チョコレートを架け橋に、アフリカ州の問題が日本に住む自分の生活と地続きである現実を実感させ、フェアトレードや消費者意識といった、社会の形成者としての「生き方」と直結する内容を取り扱う授業を展開することで、生徒達に自分の「生き方」について考えさせる契機になり得ると考える。

(人間総合科学研究科博士前期課程 教育学専攻 1年 早瀬 博典)

## 〔歴史的分野（担当：大脇）〕

1. 授業実践の日時：平成28年6月22日（水曜日） 2時限
2. 学級：轍中学校1年1組32名（男子16名、女子16名）
3. 教科書：東京書籍 平成28年度用『新編 新しい社会 歴史』
4. 単元名：日本列島の誕生と大陸との交流

## 5. 単元の目標・ねらい

## （1）本単元の目標・ねらい

- 考古学や民俗学などの研究成果に関心を持ち、古代までの日本列島の人々の生活の様子について意欲的に追究できる。【社会的事象への関心・意欲・態度】
- 縄文文化と弥生文化の違いなどについて比較考察し、その過程や結果を適切に表現できる。【社会的な思考・判断・表現】
- 古代の日本列島と東アジアとの関わりを、文献や実物教材などを活用して捉えることができる。【資料活用の技能】
- 農耕の広まりによる人々の生活の変化や、国家が形成されていったあらましを理解できる。【社会的事象についての知識・理解】

## （2）本単元とキャリア教育との接点

本単元は、学習指導要領の内容（2）のアを承けて、「日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷による統一と東アジアとのかかわりなど」を学習することを通して、我が国でどのように国家が形成されていったのかを学習させる。『中学校学習指導要領解説 社会編』によれば、古代までの日本においては、「農耕・牧畜が始まって文明がおこり国家が形成されていったという世界の動きの中で、特に東アジアと深いかかわりをもちながら、農耕の広まりによる生活の変化、国家の形成と発展、天皇・貴族による政治の展開、文化の発展などの動きがみられた」とされる。なお、「世界の古代文明や宗教のおこり」については、東京書籍の教科書に準じて別単元として扱う。

本単元をキャリア教育として実践することの意義は、歴史の学習が今や将来の私たちの日常生活と深く結び付いていることを、中学校での歴史学習の最初の段階で伝えることにある。これは「学校での学習と日常生活や将来とのつながりに気づく」かせようとする本校第1学年のキャリア教育の目標にも対応するものである。

本時の展開（第2/3時）にて取り扱うのは、日本列島の人々の生活である。縄文時代から弥生時代への移行は、一般には稲作や金属器の伝来によるとされる。授業の前半では縄文時代と弥生時代の暮らしを生徒たちに比較させることで、稲作を契機として人々の生活がどのように変化したのかを捉えさせる。比較の学習活動に際しては、文献や実物教材などから根拠を明らかにして意見を述べる、他者の意見を聞く、グループでの意見を集約する、といったペアワークの活動を通して、諸資料から歴史的事象を析出して、当時の生活の状況を解釈することを生徒に促したい。

授業の後半では、縄文時代の大規模な集落遺跡として注目されている三内丸山遺跡を取り上げ、そこで暮らした人々がクリを栽培していた痕跡を考古学の研究成果を示しながら紹介する。そして人々の自然環境とのかかわり方に焦点を当て、メソポタミアの畑作による砂漠化など自然資源を持続的に扱ってこなかった人類史が環境破壊の問題の引き起こしてきたことに気づくことで、三内丸山の持続可能な森林資源の利用とを対比させ、日本列島の農耕文化が「持続可能な社会」という未来の社会像を考えるにあたって、示唆に富んでいることに気づかせたい。

以上のような授業を通して、本時においてはキャリア教育が育成を目指す「課題解決力」の育成も念頭におきながら、歴史的事象を自分の言葉でまとめ、解釈し、現代的な課題に照らしてより良い社会の在り方について考える力を育てる指導を心掛けたい。

## 6. 単元全体の指導計画

	学習内容・学習指導	学習目標と評価規準
1	<b>日本列島の誕生・国々の形成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本列島の形成を気候の変化などの関連から理解する。</li> <li>農耕の始まりからムラやクニが形成されていく過程のあらましを、東アジアとの関わりを通して捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな遺物や遺跡の発掘などから、古代の歴史への関心を持つことができる。 【関心・意欲・態度】</li> <li>中国の文献などから、日本列島における国のおこりを理解できる。【知識・理解】</li> </ul>
2 (本時)	<b>縄文文化と弥生文化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>縄文時代と弥生時代の人々の生活の様子を比較しながら具体的に理解する。</li> <li>人々の暮らしと自然環境との関わりに注目して、持続可能な開発のあり方について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考古学や民俗学などの成果から古代の人々の生活を考察し、表現することができる。 【思考・判断・表現】</li> <li>さまざまな文献や実物教材から、日本列島での人々の生活の特色について捉えることができる。【技能】</li> </ul>
3	<b>大王の時代</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>大和地方を中心に国内が統一されたことを、古墳の広まりを通して理解する。</li> <li>さまざまな資料を通して、日本と中国・朝鮮半島との交流について気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大和政権の国内統一の過程を、古墳の分布や鉄剣などの資料を通して捉えることができる。【技能】</li> <li>遺物や遺跡などの具体的な資料を通して、古墳文化の特色を理解できる。【知識・理解】</li> </ul>

## 7. 本時の指導

## (1) 本時の目標・ねらい

- 考古学や民俗学などの成果から古代の人々の生活を考察し、表現することができる。  
【思考・判断・表現】
- さまざまな文献や実物教材から、日本列島での人々の生活の特色について捉えることができる。  
【技能】

## (2) 展開

	学習内容・学習指導	指導上の留意点 (○)、評価 (☆) キャリア教育の視点 (◎)
導入	<b>● 前時までの復習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本列島の誕生から国々の誕生の流れ、世界の文明の発展のあらましを再確認する。</li> </ul>	○前時までの学習、小学校での歴史学習とのつながりに気づかせる。
展開 1	<b>● 縄文文化と弥生文化</b> <div>縄文時代と弥生時代の人々の生活はどのような違いがあるだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 32～35 頁の文章や図像などから、人々の生活の違いを探してみる。</li> <li>それぞれの時代の人々の生活の様子をノートに表にしてまとめ、比較をする。</li> <li>数人の生徒に発表してもらいながら、黒板上の表を完成させる。</li> </ul>	☆資料から事実にもとづいた理由を導くことができるか、机間指導を行い確認する。  ○生徒の意見を黒板上に表にしてまとめ、後にノートに整理させる。

展開 2	●三内丸山遺跡が語る「縄文」	
	縄文時代の大規模集落での定住生活は、なぜ可能だったのだろうか。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三内丸山遺跡の規模の大きさを知る。</li> <li>・VTR<sup>1</sup>を視聴し、三内丸山遺跡ではクリの栽培が計画的に行われていたことに気づく。</li> </ul>	○考古学研究の方法についての補足資料 <sup>2</sup> を配布する。
	人々は自然にどのように働きかけながら暮らしてきたのだろうか。	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メソポタミア文明の土壌流出による砂漠化の事例から地形の急激な変化は環境を破壊することを理解する。</li> <li>・日本で広まった水田稲作は畑作等に比べれば土壌の流出が少ないことを理解する。</li> <li>・一千年以上続いた三内丸山遺跡のクリ林から、当時の人々が持続可能な森林開発を行っていたことに気づく。</li> </ul>	<p>○メソポタミアの砂漠化の事例は、世界の古代文明の学習の際に伏線を張っておく。</p> <p>○日本の水田稲作については、小学5年生の農業の学習とも関連づけながら紹介する。</p> <p>◎地球環境問題などへの高まりから、持続可能な社会の形成が現代の大きな課題となっていることに気づかせる。</p>
	<p>●持続可能な社会を築くために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちが持続可能な社会を築いていくにあたっての教訓として、歴史を学習することの意義を自分なりにまとめる。</li> <li>・前後左右でペアを作り、生徒同士で意見を交換する。</li> </ul>	<p>◎持続可能な社会を築いていくという現代的な課題を認識し、その解決の糸口が歴史に隠されていることに気付かせる。</p> <p>☆授業用ノートを提出させ、授業後生徒の記述から本時の評価を行う。</p>

## 8. 本時の評価について

- 考古学や民俗学などの成果から古代の人々の生活を考察し、表現することができたか、授業中の話し合い活動の様子やノートの記述などから評価する。【思考・判断・表現】
- さまざまな文献や実物教材から、日本列島での人々の生活の特色について捉えることができたか、授業中の話し合い活動やノートの記述、定期考査における資料活用に関する問題などから評価する。【技能】

### 【註】

<sup>1</sup> NHK スペシャル アジア巨大遺跡 第4集 縄文 奇跡の大集落 ～1万年 持続の秘密～（2015年11月8日放送）の13～17分頃（4分間程度）を生徒に見せる。放送内容については以下のURLを参照されたい（<http://www6.nhk.or.jp/special/detail/index.html?aid=20151108>、2016年8月14日最終アクセス）。当該部分のVTRは、三内丸山遺跡でクリの栽培が行われていたのではないかとする研究成果を紹介したものである。遺跡からは大量のクリの化石が出土している。クリは処理せずに食べることができた、縄文時代の人々の貴重な食料であった。考古学研究は、当時堆積した土の中に含まれる花粉を調査し、約6000年前までであったブナ・ミズナラ花粉の量が激減し、代わってクリ花粉が増加した時期が、集落の形成期と一致していることを明らかにした。調査の詳しい内容については、例えば吉川ほか（2006）などを参照されたい。

<sup>2</sup> 玉田（2009, pp. 128-131）の抜粋と、その補足解説を入れたもの。三内丸山遺跡から出土したクリのDNA分析をしたところ、きわめてよく揃ったDNAの型の分布であったことから、人による品種改良をとまなう栽培が行われていた可能性が高いとする研究結果の紹介などがある。末尾には、縄

文人は「周囲の自然に積極的に働きかけ、有用なものを選択的に残すなどして自らに有利な環境をつくり出していた」、「それは弥生時代以降の水田開発のように地形の改変をとめない、環境も変化させるようなものではなく、あくまでも自然の恵みを生かしたものであった」という記述もある (p. 132)。

#### 【文献一覧】

- ・ 玉田芳英 (2009) 「縄文農耕の起源を求めて」 玉田芳英 (編) 『史跡で読む日本の歴史 1 列島文化のはじまり』 吉川弘文館、121-133 頁
- ・ 吉川正伸／鈴木茂／辻誠一郎／後藤香奈子／村田泰輔 (2006) 「三内丸山遺跡の植生史と人の活動」 辻誠一郎／能城修一 (編) 『三内丸山遺跡の生態系史』 (『植生史研究』 特別第 2 号) 日本植生史学会、49-82 頁

#### 【追録】 指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

東京書籍の歴史的分野の教科書は、最後の単元として「持続可能な社会に向けて」(262-263 頁) を設けている。歴史学習の序盤で「持続可能性」について考えたことが、歴史学習を締めくくるにあたって生徒たちの脳裏に「轍」(わだち) となって甦ってくれば…という思いで、今回この指導案を作成した。

本時の授業の後半では、三内丸山における計画的な採集生活の痕跡が語る縄文集落の持続性を紹介することで、縄文時代から弥生時代への単線的発展のイメージを揺さぶることを試みている。更に世界の古代文明の単元で学習済である、農耕・牧畜による土壌流出が砂漠化をもたらした先例と、森を残して自然の恵みを生かした生活を営んでいた三内丸山の縄文人の生活とを対比させることで、現代的な課題である環境問題を乗り越えていくためにも、自然資源を持続的に活用するという視点が重要であることに気づかせようとしている。

歴史を学ぶ意味として、「先人の轍を踏まぬように」とか、「過去の教訓を」とか、失敗に学ぶことがよく強調される。しかし歴史から学ぶことは悪いことばかりではない。これから私たちが目指す社会へのヒントも隠されている。自然を人間の支配下にあるものとして土地を切り開いてきた人類は、地球規模での環境問題の深刻化により、漸く過ちに気づくに至った。しかしそれを反面教師として肝に銘じよというだけではキャリア教育にはならない。土地を活かし、自然を持続的に活用していた縄文人から、未来の社会のビジョンを描くヒントを得ようとするのが大切であろう。よりキャリア教育にひきつけるなら、未来の自分(私たち、あるいは社会でもよい)を考えるヒントは、今までの自分(私たち/社会)のあり方=歴史にある、ということに気づくということである。そうなれば、歴史学習は意味のない事象の暗記ではなくなるであろう。キャリア教育の視点を加え、未来をポジティブに志向する歴史学習が今後より必要になってくるのではないだろうか。

(人間総合科学研究科 博士前期課程教育学専攻 1年 大脇 和志)



## 数学科指導案

轍中学校 教諭 中原 朝陽

## 【轍中学校1年生 数学科におけるキャリア教育】

全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙調査）の結果より、轍中学校の生徒は、数学の授業で学習したことを日常生活の中で活用しようとしていないことが明らかになった。そこで、1年生数学科としては、1年生のキャリア教育の目標（身につけさせたい力）の1つである「学校での学習と日常生活や将来とのつながりに気づき、可能な限り活かすことができる。」に焦点を当てて、指導を行うこととする。

TIMSS や PISA の調査結果からは、基礎的・基本的な技能の定着や知識の理解、数学的に解釈する力や表現する力の育成を目指した指導を充実すること等の諸課題が指摘されている。その中でも、特に、日常生活と関連付けた指導の充実を図り、数学について有用性を実感する機会を持たせることは重要視されている。これは、TIMSS における質問紙調査の結果として明らかになっている、児童生徒の学習意欲の低さ等の課題が存在するためである。

そのため、近年、数学科においては、数学における学習と生徒の日常生活を結びつけるような学習場面を目指す動きが見られる。その中でも、統計領域では、そうした学習場面の設定が非常に重要とされており、注目されている今日的な教育である。

知識基盤社会といわれる現代社会では、収集したデータの傾向を正しく捉え、合理的で的確な意思決定を行う能力の重要性は高まっている。そのような意思決定をするためには、統計的な知識や能力を用いて課題解決を行う、統計的課題解決が不可欠である。同時に、統計的課題解決のプロセスとして設定された、課題を正しく捉え（Problem）、仮説の検証に必要なデータや統計資料を考え計画し（Plan）、必要な資料を集め整理し（Data）、表やグラフにまとめ分析し（Analysis）、資料の特徴を的確に読み取り（Conclusion）、意思決定に生かすという PPDAC サイクル<sup>1</sup>が統計領域において重要度を増している。

現代の社会を生きる子供たちにとって、統計的な知識や能力を身に付けておくことは必須のことと考えられ、また、PPDAC サイクルに基づく、統計的な知識や能力を活用した統計的課題解決を中心とする活動が必要であると考えられる。これらは、キャリア教育における汎用的能力における「課題対応能力」と通じるものがあると考えられる。

さらに、中等教育段階の数学科は、学習する事柄がどこで役立つのか分かりにくいと指摘されるが、統計領域については、教科書において、その点は分かりやすく記述されているため、数学における学習に対する意欲を高めることなどにもつながるのではないかと考えられている<sup>2</sup>。

しかし、教科書にのみに依拠した学習場面の設定では、限界があると考えられる。それは、教科書には、統計的な知識や能力を教えるための課題が中心的に取り上げられており、PPDAC サイクルに基づく、統計的な知識や能力を活用した統計的課題解決を行うことを目的とした課題が少ないからである。そのため、数学の教科書のみに依拠するのではなく、他教科との連携といったキャリア教育の視点を取り入れた学習場面の設定が有効であると考えられる。

<sup>1</sup>総務省(2016), 生徒のための統計活用～基礎編～,

〈[http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000425144.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000425144.pdf)〉(最終閲覧日, 2016/7/31)。

<sup>2</sup>「統計学習の指導のために(先生向け)」, 統計教育に携わる方へ(文部科学省初等中等教育局視官 長尾 篤志), 〈<http://www.stat.go.jp/teacher/c3index.htm#middle>〉(最終閲覧日, 2016/7/31)

1. 授業実践の日時：平成 28 年 10 月 14 日（金）第 5 時限
2. 学級：轍中学校 1 年 3 組 32 名（男子 16 名、女子 16 名）
3. 教科書：「新しい数学 1」<sup>3</sup> 東京書籍
4. 単元名：7 章 資料の散らばりと代表値

## 5. 本単元について

### (1) 本単元の目標・ねらい

生徒は、小学校で棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ及び帯グラフを学習し、度数分布を表やグラフに表したり、資料の平均やちらばりを調べるなどの活動を通して、統計的に考察したり表現したりしてきている。特に、第 5 学年では測定値の平均値について学習し、第 6 学年では資料の平均や柱状グラフを基に統計的に考察したり表現したりすることを学習している。

本単元では、これらの学習の上に立って、目的に応じた、適切で能率的な資料の集め方や合理的な処理の仕方が重要であることを理解できるようにする。さらに、ヒストグラムや代表値などについて理解し、それらを用いて、資料の傾向をとらえ、その結果を基に説明することができるようにすることがねらいである<sup>4</sup>。

### (2) 本単元とキャリア教育との接点

現代の社会を生きる子供たちにとって、統計的な知識や能力を身に付けておくことは必須のことと考えられ、また、PPDAC サイクルに基づく、統計的な知識や能力を活用した統計的課題解決を中心とする活動が必要であると考えられる。この PPDAC サイクルは次のようなステップで進む。

**Problem**：問題を理解・明確化し、その問題に答えるためにどうすべきか考える。

**Plan**：測定すべきものは何かを考え、設計・記録・収集の方法を考える。

**Data**：データの収集・管理・クリーニングを行う。

**Analysis**：データを分類し、表やグラフを作成し、パターンを見つけ、仮説を立てる。

**Conclusion**：解釈したり、結論付けたり、新しい考えを出したり、コミュニケーションをとったりする。

この PPDAC サイクルのステップの順に進んでいくことが統計的課題解決の自然な流れになる点、また、名前の通りサイクルとして機能する点は重要である。例えば、分析が不十分であれば、PPDAC サイクルを繰り返すことにより、分析はより高度化・精密化されていくのである。

また、轍中学校の生徒の課題として、数学の授業で学習したことを日常生活の中で活用しようとしていないこと挙げられる。そのため、実際に日常生活におけるデータの傾向を把握し、それに基づいて意思決定を行う活動を積極的に取り入れていくべきであることが分かる。それには、数学の教科書のみには依拠するのではなく、他教科との連携といったキャリア教育の視点を取り入れた学習場面の設定が有効であると考えられる。

こうした背景から、本時では、実際に技術科においてナスを栽培・収穫した際のデータを題材として、「ナスのプランター栽培について考えよう」というテーマで授業を行う。授業では、さらに、言語活動を取り入れたいと考えている。まず、班において、自分の考察を他者が納得できるように説明する等の活動を行い、より明確で合理的な考察へと深化させていく。そして、これらの考察を総合し、グループで検討したことをクラス全体で発表し、共有する活動を通して、同じデータでも処理の仕方によって様々な解釈ができることを知り、互いの説明や、根拠とした事柄のよさの理解を深めさせたいと考える。

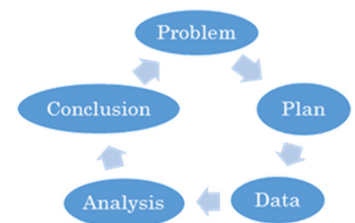


図 1: PPDAC サイクル

<sup>3</sup>藤井斉亮他(2015)。「新しい数学 1」．東京書籍．

<sup>4</sup>文部科学省(2008)，中学校学習指導要領解説 数学編，教育出版．

## 6. 単元全体の指導計画

1 節：資料の散らばりと代表値（8 時間）

1：度数の分布（3 時間）

2：範囲と代表値（2 時間）

3：資料の活用（3 時間）

2 節：近似値と有効数字（1 時間）

1：近似値（0.5 時間）

2：有効数字（0.5 時間）

単元のまとめ（2 時間） ※本時は 2/2 時間

（全 11 時間）<sup>5</sup>

## 7. 本時の指導

### （1）本時の主題

「ナスのプランター栽培について考えよう」

### （2）本時の目標・ねらい

目的に応じて資料を整理し、ヒストグラムや代表値（平均値、中央値、最頻値）などから資料の傾向を読み取り、意思決定を行い、自分の考えを説明することができる。

### （3）主題について

当該クラスの生徒は、技術科の授業において、ナスの栽培をしており、今月の初めに収穫したばかりである。技術科の授業では、花の摘み方や肥料の与え方、整枝、プランターに植える苗の本数に違いをすることで、いくつかのパターンの栽培の環境を意図的に設定し、ナスの育ち方を観察した。

その結果、花の摘み方や肥料の与え方、整枝による実のなり方への影響については、技術科において扱ったが、プランターに植える苗の本数による影響については、扱っていない。

そこで、数学科では、収穫したナスのデータを用いて、プランターに植える苗の本数による実のなり方への影響について考えることとした。データに関しては、プランターに植える苗の本数に焦点を当てたものを用いることにする。これは、プランターに植える苗の本数は、1 本、3 本、5 本、7 本と 4 パターン存在し、これ以外に条件を踏まえることは、生徒のレベルに適していないと考えたからである。

また、すべてのプランターの用土の表面積は 2400 cm<sup>2</sup>（縦 30 cm×横 80 cm）であることを共通の条件として明示する。それは、ナスの栽培が技術科の中でも農業分野の学習のため、プランターの用土の表面積を単位量とし、収穫量を考えることは重要であるからである。

前時では、主題について何が課題なのかを捉え（Problem）、仮説を立て、検証に必要なデータを考え（Plan）、収穫したナスのデータ（Data）をコンピュータを用いて、度数分布表とヒストグラムに表した（Analysis）。前時の最後に、クラス全体でまとめた度数分布表とヒストグラムは、以下の通りである。

以上を踏まえ、本時では、以下の度数分布表やヒストグラム（Analysis）から、データの傾向を把握し（conclusion）、目的に応じて資料を整理した上で、合理的に意思決定を行い、自分の考えを他の人に説明する活動を行う。

<sup>5</sup>東京書籍(2012)における、年間指導計画の例をもとに、16 時間ある予備時間のうち 1 時間を加えるかたちで作成した。

東京書籍(2012), 「新しい数学」指導計画作成資料, 年間指導計画 学習指導計画と評価規準,  
<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/chu24/keikaku/> (最終閲覧日, 2016/7/31)

表1：ナスの収穫データ

1組のナスの収穫データ				
重さ(g) 以上 未 満	1本	3本	5本	7本
個数	個数	個数	個数	個数
0～25	0	0	3	9
25～50	0	0	11	18
50～75	0	0	20	3
75～100	0	6	25	17
100～125	6	15	29	14
125～150	8	27	22	6
150～175	12	30	5	3
175～200	2	8	0	0
合計	28	86	115	70

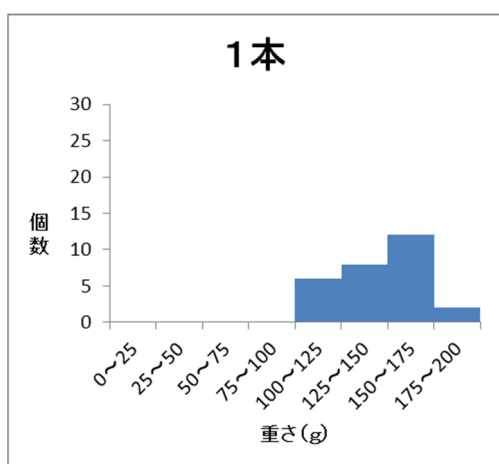


図2：苗が1本の場合

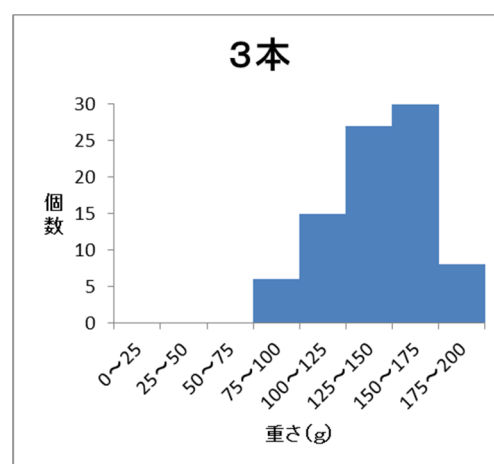


図3：苗が3本の場合

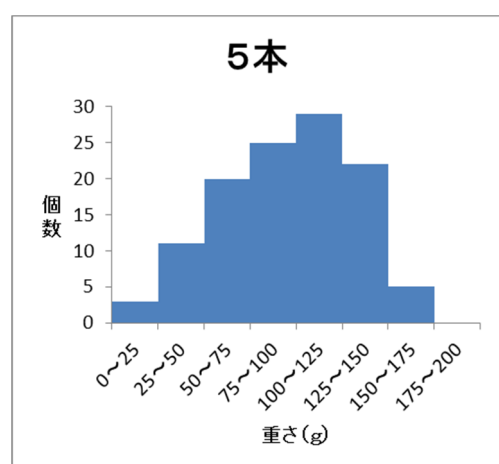


図4：苗が5本の場合

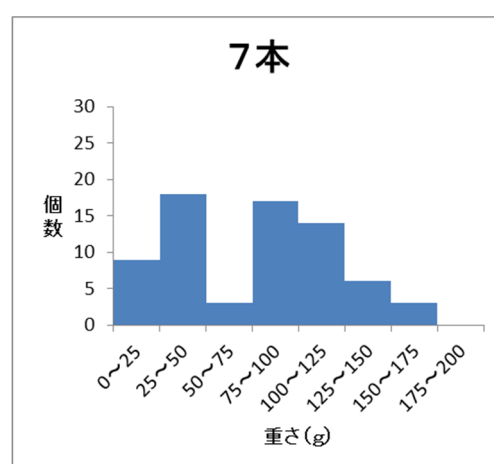


図5：苗が7本の場合

## (4) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	<p>1. 本時の課題を知る。</p> <p>T. 前時の復習をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に作成した度数分布表やヒストグラムについて振り返る。</li> </ul> <p>T. 本時の課題を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「度数分布表やヒストグラムに表したナスの収穫のデータに基づいて、最も適しているプランターに植える苗の本数を考えよう」</li> </ul> <p>T. 「どうやって苗の本数を考えればよいですか」</p> <p>C. 各々のヒストグラムを比べればいいんじゃないかな。</p> <p>C. 平均で比べればいい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・度数分布表やヒストグラムについて、振り返り、同時に、今までの学習内容などの復習もさせる。</li> <li>・課題をノートに書かせる。</li> <li>・何をどのように比べればよいのか、具体的に考えさせ、解決方法を考えさせる。</li> </ul>
展開1 (2分)	<p>2. 展開2に向けてデータの傾向をクラス全体で大まかに把握させる。</p> <p>T. 「度数分布表やヒストグラムから気づいたことはありますか」</p> <p>C. 5本の場合が一番収穫したナスの数が多い。</p> <p>C. 7本のヒストグラムだけ分布の仕方が違う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展開2において、個人解決がスムーズに行えるように、また、つまづく生徒を減らすために、大まかなデータの傾向を全体で共有する。</li> </ul>
展開2 (12分)	<p>3. 個人で課題を解く。</p> <p>T. 資料から分かることを読み取り、ノートに書かせる。</p> <p>C. 5本の場合や7本の場合と比べて、1本の場合と3本の場合の方は範囲が狭い。</p> <p>C. それぞれの平均値を比較して考えると、1本と3本の場合が重い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電卓等の計算機を配る。</li> <li>・つまづいている生徒がいた場合には、机間指導を行い、活動を促す。</li> <li>・「自分なら～」という意見を大切に扱う。</li> </ul>
展開3 (16分)	<p>4. 班で発表する。</p> <p>T. 自分が調べた内容を班で発表し、共有させる。</p> <p>T. 班で1つの結論にまとめさせる。</p> <p>T. 画用紙を配り、結論と根拠を書かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結論だけでなく、その根拠や本数を選んだ理由まで発表させる。</li> <li>・意見が1つにまとまらない場合は「どちらともいえない」とさせ、それぞれの意見をまとめさせる。</li> </ul>
展開4 (10分)	<p>5. 全体で発表する。</p> <p>T. それぞれの班の意見を代表者が発表し、補足があれば他の班員にも発表させる。</p> <p>C. プランターの表面積は同じなので、収穫量の最も多い5本がいいと思いました。</p> <p>C. 散らばり具合が一番小さく、100g以上のものしかないので、1本がいいと思いました。</p> <p>C. 1本の苗になる実が28.6本と最も多いので、3本がいいと思いました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇が～だから」を強調し、根拠や理由をできるだけ明確にするように促す。</li> <li>・意思決定を行う際の基準が様々であることに気づかせ、結論に至ったプロセスを共有させる。</li> <li>・発表後に、各班の基準の妥当性について考えさせ、改めて意思決定させる。</li> </ul>
まとめ (5分)	<p>6. 本時を振り返る。</p> <p>T. 学習感想をノートに書かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の授業の振り返りと、本時の学習が他のどのような場面でいかされるかを考え、書かせる。</li> </ul>

## 8. 本時の評価について

### 【数学への関心・意欲・態度】

データを度数分布表やヒストグラムに表したり、データの範囲や代表値、相対度数を求めたりして、資料の傾向を読み取ろうとしている。

### 【数学的な見方や考え方】

目的に応じて、データを度数分布表やヒストグラムに表したり、データの範囲や代表値、相対度数を求めたりして、資料の傾向を読み取り、説明することができる。

### 【数学的な表現・処理】

資料を度数分布表やヒストグラムに表したり、資料の範囲や代表値、相対度数を求めたりすることができる。

### 【数量・図形などについての知識・理解】

度数分布表やヒストグラム、データの範囲や代表値、相対度数の必要性や意味を理解している。

### 【追録】指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

本指導案では、技術科におけるナスの栽培の学習と連携することで、教科横断的な授業づくりを行った。そこでは、生徒が数学の授業で身につけた統計的な知識や技術を活用し、実際に、ナスの収穫データの傾向を捉え、それに基づいて意思決定を行った。これは、轍中学校の生徒が、数学の有能性を感じていないためである。こうした傾向は、日本の児童生徒全体にも当てはまることであり、数学教育研究の課題でもある。

本指導案のように、他教科との連携といったキャリア教育の視点を数学に取り入れることで、数学という教科の外で、数学で得た知識や技能が使えることを生徒が感じることができる授業の一提案ができたのではないかと考える。

また、筆者は、数学教育学研究室に所属しており、そこでは、確率分野について研究を行っている。学校数学における確率は、サイコロやコインといった題材で学習されることが多く、日常生活との関わりが薄いことが問題視されている。また、本指導案で扱った「資料の散らばりと代表値」は、中学2年生で学習する確率に、相対度数と統計的確率の関連づけ等で、直接関わる単元である。これらのことから、本指導案にキャリア教育の視点を取り入れることで、「資料の散らばりと代表値」はもちろん、中学2年生で学習する確率にどのような効果があるのかを考える良い機会になった。

(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻 1年 中原 朝陽)

## 理科指導案

轍中学校 教諭 高野 雅暉

## 〔轍中学校1年生理科におけるキャリア教育〕

まず、中学校理科教育とキャリア教育との接点を確認する。現行の学習指導要領における中学校理科の目標は、①自然の事物・現象に進んで関わること、②目的意識をもって観察、実験などを行うこと、③科学的に探求する能力の基礎と態度を育てること、④自然の事物・現象について理解を深めること、⑤科学的な見方や考え方を養うこと、とされている。これら5つの目標を前提にして、理科教育はどのようにしてキャリア教育に寄与しうなのか。①～⑤の理科教育の目標のうち、本時との関連が大きい②と④について、キャリア教育の視点から基礎的・汎用的能力との関わりで見てみる。

②について、理科教育の中心的活動の一つである「観察と実験」は、仮説生成や課題発見、計画立案、情報の理解と処理、評価・改善などを経るものであり、「課題対応能力」に関わる。また、グループでの活動が多いため、「コミュニケーションスキル」や「リーダーシップ」という面では「人間関係形成・社会形成能力」にも関わる。このように、教師の働きかけ次第では、観察と実験にキャリア教育とのかかわりを多く見出すことができる。

④について、「理解を深めること」は、知識を深く、体系的に学習することに加え、理科と日常生活や社会との関わりに気付くことも含まれる。それは、身の回りの自然や技術の根幹に理科で習う知識や法則があることを知り、理科の楽しさや有用性を実感することであり、「キャリアプランニング能力」の中の「学ぶことの意義の理解」である。科学的な概念のみならず、実世界との関わりについて気付かせる工夫が求められる。

次に、以上のような理科教育とキャリア教育との接点を踏まえ、本校1年生の理科におけるキャリア教育について述べる。理科の授業では、本校1年生のキャリア教育目標と対応させる形で、以下の2点に留意したい。

第1に、グループ実験の過程で、自身の役割や責任を自覚させる働きかけをする。上記の②に挙げたように、観察と実験はキャリア教育とのかかわりが深い。そこで、本校ではこの観察と実験という活動の中に、第1学年のキャリア教育目標である「しなくてはならないこと、すべきことに気づき、進んで計画的に取り組むことができる」の達成に向けた働きかけを取り入れていきたい。

第2に、理科で習う知識が生活・社会と関連していることを、すべての単元において強調したい。④で述べたように、知識を深める過程で日常や社会との関わりを扱うことで、理科の「有用性」と「楽しさ」に触れることができる。これは、第1学年のキャリア教育目標である「学校での学習と日常生活や将来とのつながりに気づき、可能な限り活かすことができる」と対応する。

これらのキャリア教育の視点は、轍中学校の「理科嫌い」軽減に対しても効果的と考える。質問紙調査の結果、轍地区の小・中学生は「理科の勉強は好きだ」という項目に肯定的な回答をする割合が全国平均を下回る。また、一般的に、理科が嫌いになる割合は小学校段階よりも中学校段階の方が高く、轍地区も例外ではない。そのため、授業には理科への抵抗感を減らす工夫が求められる。この「理科嫌い」解消という視点からみても、上記2点のようなキャリア教育の働きかけを通して、授業を活性化し、理科の「有用性」と「楽しさ」を伝えることは、まったく遠回りではなく、むしろ求められる工夫である。



1. 授業実践の日時： 平成28年度11月8日（火曜日） 5時限
2. 学級： 轍中学校1年2組32名（男子16名、女子16名）
3. 教科書： 大日本図書『理科の世界1年』（2016年度版）
4. 単元名： 音の性質

## 5. 単元の目標・ねらい

### （1） 本単元の目標・ねらい

#### ■自然事象への関心・意欲・態度

- ①音の性質に関心をもち、音の伝わり方と高さ・大きさについて積極的に調べようとし、観察や実験に積極的に参加する。
- ②音の性質について、自身の日常生活や社会とのかかわりでみようとする。

#### ■科学的な思考・表現

- ①音に関する事物・現象から音の性質について課題を立て、観察や実験を行ったり、規則性を見いだしたりして課題を解決する。

#### ■観察・実験の技能

- ①音に関する事物・現象を調べる観察や実験を行い、その基本操作や記録の仕方を身に付ける。
- ②観察や実験の結果から、自らの考えも含めた報告書を書いたり、発表したりする。

#### ■自然事象についての知識・理解

- ①音の性質について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

### （2） 本単元とキャリア教育との接点

本単元では、音の性質について、具体的には音の伝わり方、高さ、大きさについて学習する。音は日常にありふれているものであり、同時に、音響や楽器といった、音の性質を利用した技術もまた生徒たちにとって身近なものである。そのため、音を物理現象として理解することに限定せず、そうした音の性質と自らの生活や社会との関連性に気付かせるような工夫がしやすい単元である。

また、グループ実験の中に、本校のキャリア教育課題でもある「自らのすべきことへの気づき」を促す工夫をしていきたい。具体的には、ジグソー法の考えを取り入れ、各自が責任を持って担当の実験を行い、その結果をグループ内で報告し合い統合して、理解に至るという方法を取り入れた。この方法を取り入れた理由は、グループを単位として1つ実験を行うよりも、個人を単位としているため、より個人の役割と責任に意識させることができると考えたためである。

## 6. 単元全体の指導計画

### 第2章 音の性質（計4時間）

- ①音を伝えるもの
- ②音の速さ
- ③音の大きさや高さ（本時）
- ④ 単元のまとめ

## 7. 本時の指導

### （1） 本時の目標とねらい

- モノコードの実験を通して、音の大小や高低が振幅や振動数に関係していることに気付くことができる。
- 自分の役割と責任を自覚し、実験に取り組むことができる。



## (2) 展開

過程	時配	学習活動と学習内容	形態	指導上の留意点（☆キャリア教育の働きかけ）
導入	5分	【演示実験】 教師の演示実験を見る。 ・長いゴムを弦楽器の弦に見たて、音が弦の振動によるものであることを確認する。	一斉	課題につながる問題提起をする。 「音は振動によって発生する。では、音の『要素』は振動とどのようにかかわるのだろう」
展開(1)	18分	課題を知る。	一斉	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【課題】</p> <p>モノコードを使って、音の大きさ・高さと弦の振動との関係を調べよう。</p> <p>【実験の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きい音と小さい音はどうやったら出るのか。</li> <li>・高い音と低い音はどうやたら出るのか。</li> <li>・音の大小と高低によって、弦はどのように動くのか。</li> </ul> </div>  <p>【予想】</p> <p>実験の予想をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きい音と高い音を出す方法は何か。</li> <li>・弦はどのような動きをするか。</li> </ul> <p>【実験準備】</p> <p>実験についての説明を聞く。</p> <p>観点のことなる２つの実験のうち、どちらを行うかグループ内で役割分担を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点①：音の大小と弦の動き</li> <li>・観点②：音の高低と弦の動き</li> </ul> <p>実験班①②に分かれて実験を行う。</p> <p>【実験】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>実験①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えた方法で大きい音、小さい音を出す。</li> <li>・大きい音はどのような振動の様子のおきに出来るかを考えながら大きい音、小さい音を出す。</li> <li>・班報告に備えて実験結果をまとめる。</li> </ul> </div> <div style="width: 45%; padding: 5px;"> <p>実験②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えた方法で高い音、低い音を出す。</li> <li>・高い音はどのような振動の様子のおきに出来るかを考えながら高い音、低い音を出す。</li> <li>・班報告に備えて実験結果をまとめる。</li> </ul> </div> </div>	個人	予想の視点を与える。 ・弦のはじき方、はじく位置 ・弦の状態、種類 ・ことじの位置 ・おもりの重さ
			一斉班	各実験の手順について説明する。 ☆班の全員が自らの役割と責任を自覚しなければ成立しないことを伝える。【役割と責任の自覚】
			実験班	机間巡視を行う。うまく実験が進んでいない班があれば助言を行う。

展 開 (2)	15 分	<p>【実験結果の報告】</p> <p>元の班に戻り、実験①と②についてそれぞれ担当者が報告を行う。自分の担当した実験について、モノコードを使いながら実演して理解してもらう。また、自分の担当ではなかった実験について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の方法、他の人の方法、その結果の説明。</li> <li>・弦の振動の様子の説明。</li> </ul> <p>【実験結果の考察】</p> <p>音の大小と高低によって、弦の振動がどうなるのかを班で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようにしたら音が大きく（高く）なるのか。</li> <li>・それはなぜか。</li> </ul> <p>話し合った結論をホワイトボードに書き、黒板に張っていく。</p> <p>【実験のまとめ】</p> <p>教師のまとめを聞く。課題の答えを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振幅の大きいほど音は大きくなる。</li> <li>・振動数が多いほど音は高くなる。</li> </ul>	班	言葉だけではなく、実際にモノコードを用いて実演しながら説明するよう留意させる。
			班	考察の観点を与える。
			一斉	黒板に意見をまとめる。
			一斉	各班から出た、大きい（高い）音を出す方法やその結果について、振幅と振動数の観点から解説をする。
ま と め	7 分	<p>【日常との関連付け】</p> <p>学習内容と日常生活とのかかわりを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振動数の多さを利用した超音波技術。</li> <li>・振動の大きさを抑制する防音技術。</li> </ul>	一斉	☆学んだ内容に関係する技術が自分たちの生活を豊かにしていることを伝える。【理科の有用性】【学ぶ意義】

## 8. 本時の評価について

### ■自然事象への関心・意欲・態度

→音の大きさや高さや振動との関係について興味をもち、実験に積極的に参加しているか。

### ■科学的な思考・表現

→実験の予想が根拠をもってできているか。また、実験結果について適切に考察できているか。

### ■観察・実験の技能

→自らが担当した実験について、適切に実行し、その過程と結果を班員にわかりやすく報告できているか。

### ■自然事象についての知識・理解

→振動によって音の大きさや高さがどのように変化するか理解できている。

## 9. 資料


### ■まとめで用いるスライド

【授業まとめ】

今日学んだこと  
×  
生活

今日学んだこと

①音が大きい → 大きく振動する




ということは

振動を小さくすれば音は小さくなる


身近な活用例

音の振動を小さくする壁や天井の素材



今日学んだこと

②音が高い → たくさん振動する



人間が聞くことができる振動数

20Hz（ヘルツ） ～ 20000Hz

低い音 ← → 高い音


**超音波**

1秒間に20000回以上振動する

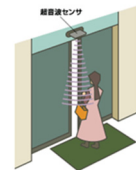
「人間に聞こえない音」

超音波を利用した技術

超音波カッター



自動ドア



画像引用： <https://www.youtube.com/watch?v=HmeRpa118I>

画像引用： [https://www.honda-el.co.jp/hb-3\\_33.html](https://www.honda-el.co.jp/hb-3_33.html)

**〔追録〕指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—**

今回、「キャリア教育に課題がある中学校の理科教諭」という設定で指導案を書かせていただいた。理科教育を専門としていない身ながら畏れ多いことだが、理科という教科をキャリア教育の視点で捉え直す過程で考え、指導案作成の際に工夫したことについて述べたい。

理科で扱う知識が、我々の生活を支える技術の基盤となっていることは言うまでもない。もちろん、本単元である「音の性質」についても同様である。しかし、あたりまえに思えるこの理科と社会との接点であるが、実際にその接点に気づき、理科に対して有用性を見出せる子どもはわずかである。そのため、「理科の知識と社会とをつなぐ」ということに焦点を当てた働きかけは、授業時間を少々割いても取り入れるべきであろうと考えた。以上を踏まえ、本時では実験から知識を導くということで終わらず、導いた知識と社会をつなげるという活動を最後の7分間に取り入れた。

実際に指導案を作る中で痛感したのは、言葉で理科とキャリア教育の「かかわりを述べる」とことと、授業において「実際にかかわらせる」とこととの差である。無論、具体的な方法や現実的な制約を考えなければならない後者の方が苦心した。しかし、キャリア教育が今後、ただのスローガンで終わらずに実を持つためには、後者が重要であることは言うまでもない。

(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻 1年 高野 雅暉)

## 音楽科指導案

轍中学校 教諭 江幡 知佳

## 〔轍中学校1年生音楽科におけるキャリア教育〕

轍中学校の生徒の現状を把握するため、全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査の結果を参照すると、歌里市平均および全国平均を下回る項目として、たとえば「家で自分で計画を立てて勉強している」、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」、「将来の夢や希望を持っている」、「今住んでいる地域の行事に参加している」等が挙げられる。そこで、1年生音楽科としては、「目標を立て、その達成に向けて計画的に取り組み、最後までやり遂げることに喜びを感じることができる」ことを目標に指導する。

以上を踏まえて、轍中学校の音楽科におけるキャリア教育では、以下3点を重視する。第1に、音楽の授業を通じて、学級単位でひとつの目標に向かい、計画的に取り組む機会を与える。轍中学校では、毎年10月に合唱祭が開催される。本番までの練習の過程で、生徒たち自身に、合唱曲の完成に向け、どのような計画を立て練習していけば良いのかを主体的に考えさせる。そのような経験は、生徒たちが集団のなかで自らの役割を認識しそれを果たすこと、また、社会生活を営むうえで他者と協力、協働すること、そしてそのような過程を通じてものごとをやり遂げることなどの喜びや大切さを理解するための機会になる。

第2に、表現と鑑賞の各活動を通じて、生徒たちが自己のイメージを他者に伝えるとともに、他者の意図や意見を積極的に理解し、共感できるようになることを目指す。音楽活動を通して得た感情やイメージを相互に伝え合うことで、他者の個性や自分との違いに気づき、理解する力や、コミュニケーション・スキルが育成される。

第3に、音楽の授業を通じて地域への参画の機会を持つことにより、学校での音楽の学習は社会につながるものであることに気づき、さらに、自らが地域において活躍できる主体であるということを実感させる。それにより、生徒の地域参画への主体性、積極性を形成し、今後の地域社会を担う一員としての自覚を醸成したい。

1. 授業実践の日時： 平成28年12月9日（金曜日）3時限
2. 学級：轍中学校1年4組32名（男子16名、女子16名）
3. 教科書：教育芸術社「中学校の音楽1」
4. 単元名：郷土の民謡に親しもう「歌里亜節」

## 5. 単元の目標・ねらい

### （1）本単元の目標・ねらい

- ・ 我が国や郷土の伝統音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞することができる。
- ・ 地域の民謡に関心を持ち、声や歌い方、言葉の特性を生かして歌う学習に主体的に取り組むことができる。
- ・ 地域の民謡の声の出し方や特徴ある歌い方を感じ取り、それらを生かして音楽表現を工夫することができる。
- ・ 音を正しく取り強弱に気をつけて歌うなど、音楽表現をするために必要な技能を身につけて歌うことができる。

### （2）本単元とキャリア教育との接点

本単元においては、第1学年のキャリア教育の目標（身につけさせたい力）のなかの、「④ 歌里亜市、とりわけ轍地区で働いている人々について知ることを通して、轍地区の良さや課題に気づくことができる」に焦点を当てる。

轍中学校の1年生は、毎年12月に開催される地域交流コンサートに参加し、合唱曲を披露するとともに、郷土の音楽である「歌里亜節」の歌唱を通じて地域の人々との交流を行っている。コンサート本番に向けては、歌里亜節保存会の方々の協力を得て、音楽の授業のなかで歌里亜節について学び、歌う練習をする時間を設けている。歌里亜市にある伝統芸能に触れることで、生徒たちは実生活に密着した音楽について学び、音楽の学習への関心、意欲を高めるとともに、自分の住む地域の良さに気づくことができる。また、地域の人々との交流を通じて、歌里亜市および轍地区に住む異世代の人々とのコミュニケーションへの積極性が育まれ、異世代への理解を深めるとともに、自らが地域における活動主体であることに気づく。

## 6. 単元全体の指導計画

### 第1時

- ・ 教科書に掲載されている「ソーラン節」、「江戸の鳶木造」、「金毘羅船々」など、各地域の民謡の多様性をつかみ、よさを味わう。
- ・ それぞれの民謡を聴いてわいてくる感情やイメージ、感じ取った音楽表現の豊かさや美しさを生徒たち同士で共有する。
- ・ 歌里亜節と、他の地域の民謡との違いを考える。

### 第2時（本時）

- ・ 地域交流コンサートに向けて、歌里亜節保存会の方々から「歌里亜節」について学び、音楽表現の特徴をとらえる。
- ・ 「歌里亜節」の独特な歌い方を生かして、地域の人と歌ってみる。

## 7. 本時の指導<sup>1</sup>

### （1）本時の目標・ねらい

- ・ 歌里亜市の民謡である「歌里亜節」のよさを味わう。

<sup>1</sup> 本単元は、美術科とのつながりを意識したものとなっている。地域交流コンサートのプログラムについては、美術科指導案を参照。

- ・ 「歌里亜節」のリズム、旋律、形式のうえでの特徴を意識しながら歌う。
- ・ 音楽を通して、地域への参画について考える。

## (2) 展開

時間	学習内容と活動	学習形態	指導上の留意点
導入 (10分)	ウォーミングアップとして、「世界にひとつだけの花」を歌う。  本時の学習内容と目標を確認する。 【歌里亜市に伝わる「歌里亜節」のよさを地域の人から学び、一緒に歌ってみよう。】  ゲストティーチャーとして、歌里亜市に住む有志から構成される歌里亜節保存会の方々を紹介し、「歌里亜節」の模範演奏を聴く。	一斉	合唱祭での1年4組の自由曲であった「世界にひとつだけの花」を歌い、合唱の際のよい姿勢や声の出し方を意識させる。  本時の学習内容と流れを確認させる。  前時で鑑賞した日本各地の民謡と比べて、「歌里亜節」の特徴やよさがどこにあるのかを、考えさせる。
展開 (32分)	歌里亜節保存会の方々から、「歌里亜節」にまつわる講話を聞く。  「歌里亜節」の模範演奏と講話を聞いて感じたこと、考えたことについて、グループに分かれ話し合う。  各グループの代表者1名が、「歌里亜節」ならではの特徴やよさ、歌里亜市の伝統とのつながりなどについて出された意見を全体で共有する。  全体で「歌里亜節」を合唱する。	一斉  グループ  一斉  一斉	講話を聞き、歌里亜市の伝統や生活が「歌里亜節」の音色、旋律、リズムにどのように反映されているのかを、生徒が理解できるようにする。  鑑賞を通じ、感じ取ったことや聴き取ったことを、根拠を明確にしながら、自分なりの言葉で表現させる。  自分の考えと他者の考えとの共通点、相違点を意識するように促す。  これまでの学習内容を意識しつつ、大きな声で歌うよう促す。適宜、歌里亜節保存会の方々からのアドバイスをいただく。
まとめ (8分)	教師のまとめを聞く。  感想をワークシートに記入する。	一斉	伝統芸能としての「歌里亜節」のまとめを、生徒の言葉を生かしながら行う。  本題材における学習活動を振り返らせる。

## 【生徒用配布資料①：1時間目に配布するプリント〔縮刷版〕】

2016年12月 日 時間目

1年 組

## 日本の民謡

日本の各地には、たくさんの民謡が伝えられています。それらの民謡の多くは、昔の労働や風習などに関連して、古くから人々に愛され歌いつがれてきました。全国各地の長い歴史の中で生まれ、育まれ、守り伝えられてきた民謡は、貴重な郷土の財産です。日本の代表的な民謡に触れ、そのよさを味わいましょう。

各地の民謡を声や楽器の音色、リズム、旋律などに着目して聴いてみよう。気づいたことや考えたことをメモして、話し合おう

ソーラン節（北海道）

江戸の鳶木造（東京都）

金毘羅船々（香川県）

歌里巫節（X 県）



今回の音楽の授業では、地域交流コンサートに向け、地域の方々と一緒にわたしたちの郷土に伝わる「歌里亜節」を学習します。「歌里亜節」は、歌里亜市の伝統のなかで、どのように生まれ、育まれ、守り伝えられてきたのでしょうか。おうちの人、近所の人に聞いてみましょう。

【生徒用配布資料②：2 時間目に配布するプリント〔縮刷版〕】

2016 年 12 月 日 時間目

1 年 組

歌里亜市に伝わる民謡

「歌里亜節」

前回の授業では、日本の各地に伝わる民謡を、声や楽器の音色、リズム、旋律などに着目して聴き、そのよさを味わいました。今日の授業では、歌里亜節保存会の方々から、わたしたちの住む歌里亜市に伝わる「歌里亜節」について学び、そのよさを味わい、歌ってみましょう。

【「歌里亜節」と昔の労働や風習、わたしたちの生活などに関連、音色、リズム、旋律の特徴】



どのようにリズム、旋律、形式に生かされているだろう？どのように表現に生かせるだろう？

【「歌里亜節」について学び、歌ってみての感想】

## 【資料：歌里亜節の歌詞】

歌里亜節（作詞：不詳\*）

夫婦(めおと)ありけり 妹(いも)は背(せ)を奉れども 背(せ)は妹(いも)を見ざりたり  
 四十九日(しじゅうくにち)の霧が晴れ 男はめのこと 繋がりし  
 藪(やぶ)の中に構えたり されど地は揺れ 山崩れ  
 めのこひとり 隠れたり めのこひとり 隠れたり

ピーントントン ピーントントン ピーントントン

男は楽(がく)をば奏でし 男は書をば嗜(たしな)みし 男は弓をば極めし  
 仕官の道を得むとして ただいたずらに 学びたり  
 人は男を褒めたるも 男の手を取る者 何処(いずこ)もなし  
 後に主(あるじ)を 得たれども 骸骨(がく)乞(こ)いたり 骸骨(がく)乞(こ)いたり

ピーントントン ピーントントン ピーントントン

童一人ありけり 父は俗世をかえりみず 堂の中に籠りたり  
 鎮守の森を抜けし時 盗人(ぬすつと)童をかどわかし 消え去りぬ  
 川(かわ)欠(か)わ(か)き後(のち)に 父(ちち)気(き)付(つ)きて探(さぐ)れども 足跡(そくせき)ぞ失(うしな)せたる  
 慟哭(どうこく)天(てん)に 届(とど)きたり 顔(かお)に丹(に)を塗(ぬ)り 笑(わら)いたり

ピーントントン ピーントントン ピーントントン

## &lt;解説&gt;

キャリア教育の要素、物語の要素、いずれも含んでいる。物語で言えば、男女・親子の関係もさることながら、自然災害や犯罪行為にも言及している。また、各節の順番を入れ替えても、物語は成り立つ事もポイントである。

キャリア教育の要素では、仕事の為に何が必要なのかを考えさせるきっかけを盛り込んでいる。その上で、「マッチング」についても考えられるようにしている。

三節目の「かえりみる」は、(節の並び順によっては)「顧みる」と「省みる」の掛詞になる仕掛けとなっている。

\*本歌詞は、野田紘史（人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻1年）が創作したものである。

## 8. 本時の評価について

## (1) 音楽科としての評価

## ① 音楽への関心・意欲・態度

- ・ 地域の民謡に関心をもち、声や歌い方、言葉の特性を生かして歌う学習に主体的に取り組んでいる。

## ② 音楽表現の創意工夫

- ・ 地域の民謡の声の出し方や特徴ある歌い方を感じ取り、それらを生かして音楽表現を工夫している。

## ③ 音楽表現の技能

- ・ 音を正しく取り強弱に気をつけて歌うなど、音楽表現をするために必要な技能を身につけて歌っている。

## (2) キャリア教育としての評価

音楽の学習を通じて、歌里亜市の良さに気づき、地域への参画について考えることができたかどうかは、音楽の授業および地域交流コンサートでの取り組みの様子とワークシートで評価する。

### 〔追録〕指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

本時の指導案を作成するにあたり、いかに生徒たちが音楽の授業を通じて、自分の住む地域の良さに気づき、愛着を持てるようになるかを重点的に考えた。そこで、地域の民謡を題材として取り扱うことにした。日本の地域の多くには、伝統的に伝わる民謡がある。そして歌里亜市では、音楽の授業における歌里亜節保存会の方々との交流および毎年開催される地域交流コンサートを通じ、その伝統が守られている。私自身が最後に音楽の授業を受けたのは中学校3年生のとき（8年前）であり、具体的な授業を構想するのは非常に難しかった。ただ、音楽の学習が、音楽の技能の向上だけにとどまらず、生徒が地域の良さに気づき、地域の伝統を守ることにも資するというアイデアが、（既に実践されている事例も多くあるであろうが、）日本各地で生かされれば幸いである。

また、キャリア教育学特講および指導案作成を通じ、最も印象的であったのが、キャリア教育とは、「働きかけを付け加える」のではなく、教科の学習のなかから「キャリア教育的な要素（宝物）」を見つけ出す作業である、ということである。今後、自分が学校段階を限らず、教育する側に立ったときには、意識しておきたいと思っている。

（人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻 1年 江幡 知佳）

## 美術科指導案

轍中学校 教諭 今村 舞

## 〔轍中学校 1 年生 美術科におけるキャリア教育〕

中学校 1 年生の美術科では、美術に親しみ情操を豊かにし美しく表現する能力を身につけることだけでなく、「伝わる」表現の構想を練られるようになることが目指される。美術は、その作品を通して伝えたい感情・情報と、その作品を観る他者がいないと成立しない。伝わる表現の構想を練るためには、まずは自分が伝えたいことを把握することと、作品を目にする他者を想像することが必要不可欠である。そこで轍中学校 1 年生の美術科では、実際に制作を始める前に自分の考えを明確にする準備作業を行うこと、制作の過程において作品を見てくれる人へも思いを巡らす時間を取ること、に注意しながら指導を行いたい。この「伝える」表現を考えるための作業は、キャリア教育とつながるものである。生徒は、自分の伝えたいことはなにかを考えることを通して自己を理解し、作品を見る人を想定することで、身の回りの社会の多様な人々の存在に気づくことができる。

そこで 1 年生の美術科では第一に、作品制作を通して自分の気持ちや伝えたいことはなにかをじっくり考え、自分の良さや特性に気づくことを目指す。制作を始める前に自分の伝えたいことを明確化させることにより、自分にも他者へ伝えたい・伝えられる思いがあることを自覚する。そしてその思いが伝わりやすい表現を考える。これにより、技術的な上手さだけでなく、美術作品における「伝えたい」という思いの強さや背景にあるメッセージの大切さを知ることができる。このことはキャリア教育の目指す、自己肯定感の獲得と重なってくる。

さらに美術作品は、見る人がいないと成立しない。そこで第二の目標を、自分の生きる世界を知ろうとし、つながろうとすることができることとする。美術作品は、たとえ公的に発表されないものであっても、様々な人の目に触れる可能性がある。それは学級内の友達や家族といった他者であるかもしれないし、何年か経った後の自分自身かもしれない。展示されるものであれば、不特定多数の見ず知らずの他者の目に触れる可能性がある。「どんな人が自分の作品を見るのだろうか」と考えることを通し、自分の生きる世界にはどんな人がいて、自分はどのようにつながりうるのかという疑問を持てるようになる。このような社会的側面から自己をとらえることはキャリア教育にとって不可欠な観点である。

1. 授業実践の日時：平成 28 年 11 月 14 日（月） 6 時限
2. 学級：轍中学校 1 年 4 組 32 名（男子 16 名 女子 16 名）
3. 教科書：日本文教出版 「美術 1 出会いとつながり」
4. 単元名：「記憶に残るシンボルマーク」

## 5. 単元の目標・ねらい

### （１）本単元の目標・ねらい

- ・デザインによって、自分の伝えたい内容を簡潔に表現できるようになる。
- ・デザインを目にする人々の立場に立ち、伝わりやすい表現を工夫できるようになる。
- ・流通しているシンボルマークのデザインの検討を通し、身近にあるデザインの人々への影響、込められた工夫、価値を理解する。

### （２）本単元とキャリア教育との接点

シンボルマークは、社会の中のいろいろな人々に向けてデザインされるものである。シンボルマークをデザインすることを通して、自分の暮らす地域社会にはいろいろな背景や条件を持った人々がいることを理解し、自分が地域社会に伝えたい内容、伝えるあり方について考えることができる。

地域社会で何気なく目にしているシンボルマークは、単に目を引くというだけでなく、「色覚特性の人が見にくい配色をさける」というような目にする人に対する配慮がある。そのような工夫の検討を通して地域社会にいろいろな人々がいることを理解することができる。自分に関わりのあるテーマについてのシンボルマークを実際にデザインすることで、地域社会の人々へ「何をどのように伝えられるか」を考えることができる。これらを通し、自分の暮らす地域社会の理解、自分がその一員であるとの自覚を持つきっかけを得ることができる。

また、何気なく目にしているシンボルマークに様々な工夫が込められていると学ぶことで、美術での学習の社会への応用の可能性を知り、現在の学習が自分たちの社会・生活と関わるものだと考えるきっかけとなる。

## 6. 単元全体の指導計画

12 月 17 日（土）に行われる地域交流音楽コンサートのシンボルマークを考える。

日時	学習内容
1 時間目 11 月 7 日（月）	地域やメディアで見つけた印象に残っているシンボルマークについて、それをなぜ良いと感じるのか、込められた工夫やメッセージを話し合ってみつける。（4 人グループ） シンボルマークをめぐる法について教員から話す。普段街中やメディアで目にするロゴやマークのデザインと、込められた工夫や企業の信用が法によって守られていることを伝える。それゆえに盗用は犯罪ということを実感できるようにする。知的財産権（著作権・産業財産権）、商標権・登録商標、意匠権などを扱う。
2 時間目（本時） 11 月 14 日（月）	地域交流音楽コンサートのシンボルマークのデザインを考える。 デザインを描き始める前に、ワークシートを通して、誰にどんなメッセージを伝えたいのかを考える。 最後に、シンボルマークの案の発表と意見交換を行う。（4 人グループ）
3 時間目 11 月 21 日（月）	前回の意見交換を踏まえ、デザインを完成させる。 歌里亜市内に掲示・配布するコンサートのチラシ（生徒用配布資料②）に自分のシンボルマークを清書する。（ひとりにつき 1 枚）

## 7. 本時の指導

### (1) 本時の目標・ねらい

表現意図に合う表現形式や技法について理解し、「伝える」という観点からデザインを検討し、他者との比較を通して、工夫を重ね、シンボルマークの完成に近づける。この作業を通して、「自分のどんな考えを人々にどのように伝えるか」について具体的に考えることができるようにする。歌里亜市のいろいろな人々の目に触れるシンボルマークの検討を通し、自分の暮らす地域社会には多様な人がいることを認識できるようにする。

### (2) 展開

時間	学習内容・活動	指導上の留意点 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと (◎) 評価 (☆)
3 分	前時の復習として、シンボルマークは美しく目立てばよいわけではないこと、盗用は著作権侵害になること、を確認する。	◎盗用はいけませんが、他者の良い点から学び、自分なりの工夫を加えていく重要性は伝える。 ○絵を描くことに苦手意識を持つ生徒を意識し、単純な記号・図の組み合わせでもデザインとして成立することを確認する。
20 分	地域交流音楽コンサートに関して伝えたいことをワークシートに書き込む。(誰にどんなことを伝えたいのか等) シンボルマーク案の簡単なスケッチをしてみる。	○具体的な書き方ができるようにアドバイスをしていく。 ○コンサート全体のことだけでなくうたう歌(各学級の合唱曲と歌里亜節)の内容や意味についても、シンボルマークの構想に込めることができることも伝える。 ◎どのような人が自分のマークを見うるのかを意識させる。 ☆よく考えながらワークシートに真剣に取り組み、マークの案を考えられていたか
15 分	4 人グループをつくり、その中で、各人のシンボルマーク案について発表し、意見交換を行う。(表現意図とスケッチとが結びついているかどうか等。)	◎伝わるかどうかという観点から、改善の方向性につながるような意見交換をするように促す。(単なる見た目の優劣の決定にならないようにする。) ☆自分に対する他の人の意見に耳を傾けていたか ☆他の人の案を積極的に検討し、議論に参加しているか
10 分	各グループの代表 1 名にどんな工夫があったかについて簡単に報告してもらい、全体で共有する。	○工夫の内容を板書して、確認させる。 ◎議論の重要な点がどこだったかを認識させる ☆他のグループの話をきけていたか
2 分	ワークシートの回収。 次回、完成させることを確認する。 各自の構想を踏まえ、必要な道具等についても確認する。	○美しく目立つことよりも、伝わるデザインであることのほうがより重要であることを再確認する。

## 8. 本時の評価について

授業中の態度とワークシートの記述によって評価を行う。

- ・シンボルマークを通して伝えたい内容について明確にできたか。
- ・自分の作品に対する他者の意見を聞くことができたか。
- ・他者のシンボルマーク案に対して積極的に検討し、意見を伝えることができたか。
- ・シンボルマーク案の作成において、色や形など、その意図や工夫を理解できたか。
- ・誰にどのように伝えるかを考えることで、地域社会にどのような人たちが暮らしているのか、その多様性について考えることができたか。

【生徒用配布資料①：2時間目（本時）ワークシート（縮小版）】

2016/11/14(月) 美術科

地域交流コンサートのシンボルマークを考えよう♪

1年組

■地域交流コンサートについて

□自分がうたう歌

(合唱曲)

歌里亜節

・歌の特徴

合唱曲の歌詞などについて音楽の授業で話し合ったことを思い出してみましょう。

歌里亜節について知っていることがある人はそれについても書いてみましょう

□お客様に対して

・特にどんな人に来てもらいたいのか

・歌を聴いた人にどんな気持ちになってもらいたいのか

・歌を通して伝えたいメッセージ

■シンボルマークの案

歌里亜市内に掲示されるチラシに描くシンボルマークを考えよう。

□シンボルマークを通して一番伝えたいメッセージ



☐ 下書き

☐ 工夫したところ

・色づかい

・形

☐ 他の人からもらった意見をもとに、改良したいところ

【生徒用配布資料②：3時間目にシンボルマークを清書する地域交流コンサートのチラシ】

## 第15回

# 轍中学校 地域交流コンサート

日時：2016年12月17日（土） 開演13時（12時45分入場開始）

会場：老人ホーム「わだちの里」ランチホール

出演：轍中学校1年生、吹奏楽部

特別出演：歌里亜節保存会のみなさま

入場：無料 どなたでも！

### プログラム

1. 轍中学校吹奏楽部全国大会出場曲「I Got Rhythm」
2. 1年1組合唱曲「with you smile」
3. 1年2組合唱曲「勇気ひとつを友にして」  
～休憩～
4. 1年3組合唱曲「君をのせて」
5. 1年4組合唱曲「世界にひとつだけの花」
6. 歌里亜節保存会のみなさま・1年全員「歌里亜節」

毎年恒例の地域交流コンサートです。

最後の歌里亜節はみんなで歌って踊りましょう♪

たくさんの方のおこしをお待ちしています！！

このコンサートのシンボルマーク

1年生が美術の授業で考えました

**〔追録〕指導案作成者から読者の皆様へーキャリア教育の視点から特に工夫したことー****・チラシへのシンボルマークの掲載**

本単元の指導案の作成に際しては、自分の作品を見る人を想定することに特に重点をおいた。そのため本単元のゴールとして、歌里市市内の公共施設で掲示・配架予定の地域交流コンサートのチラシへの自分が考えたシンボルマークの清書作業を3時間目に設定した。3都市の合併を経た現在の歌里市には、老若男女様々な人のための公共施設が存在すると思われる。その中には、合理的配慮が必要な利用者向けの施設も多数存在するだろう。自分のシンボルマークが公共の場で多様な人の目に触れることを想定することで、見る人への配慮を考えることが必要になり、自分の暮らす歌里市の人々の多様性を再確認することができるだろう。

**・著作権などの説明**

本時では触れていないが、1時間目に著作権などのシンボルマークをめぐる法について教員が説明する時間を設定した。これを通して、社会の中にあるシンボルマークなどの作品や商品に使われた工夫や技術は、法律によって守られる尊いものだという事、それを侵害することの問題性を示したい。さらに、現在自分たちが美術科で学んでいる内容が、それらの工夫や技術とつながっている尊いものだという事を実感してほしい。

細かく法律名を覚えさせることが目的ではないので、「具体的な法律は出さずに、デザインが法によって守られることの重要さだけ伝える」「2015年に話題になった2020東京オリンピックエンブレム問題を事例に説明する」など、教員の判断で学級の様子に合わせた工夫をしながら指導することができると考えている。

(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻 2年 今村 舞)

## 保健体育科指導案

轍中学校 教諭 カキモフ バザルハン

## 〔轍中学校1年生 保健体育科におけるキャリア教育〕

学習指導要領により中学校における保健体育の目標は心と体を一体として捉え、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に新しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てることである。

その中で保健体育科（保健分野）におけるキャリア教育の目標及び関連性は以下の通りまとめられる。

- 1) 自分らしさとはどのようにしてつくられるのかを、友達の行動を観察したり、自分の経験をもとに考えたりすることができる。
- 2) 思春期に起こる心身の変化を科学的に理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身につける。
- 3) 地域での健康の保持増進活動を理解し、健康を支えてくれる身近に利用できる医療機関やサービス機関を知る。
- 4) 生命を生み出す体へと成長する大切な時期であることを知り、生命尊重や異性尊重の精神を身につける。
- 5) 喫煙、飲酒、薬物乱用の身体に与える影響に気づき、適切な意志決定や行動選択ができ、これからの生活に生かすことができる。それが私たちの幸せにつながることを認識する。

1. 授業実践の日時：平成28年12月1日（木）5限、12月5日（月）3限
2. 学級：轍中学校1年1組32名（男子16名、女子16名）
3. 教科書：「新しい保健体育」東京書籍
4. 単元名：心身の機能の発達と心の健康

## 5. 単元の目標とねらい

（1）本単元の目標とねらい

- ① 心身の機能の発達と心の健康について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。
- ② 心身の機能の発達と心の健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。
- ③ 体の発達、循環器の発達、生殖機能の成熟、知的機能の発達、社会性の発達自己形成、心と体の関わり、欲求やストレスへの対処と心の健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解できるようにする。

（2）本単元とキャリア教育の接点

- ① 授業の時グループに分けて問題が解決するためのチームワーク。
- ② 自分自身活躍するために周りの人々の協力の重要性を理解する。
- ③ 自己と他者の違いに気づき、尊重しようとする反面、自己否定などの悩みが生じる。
- ④ 将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解しようとする。

## 6. 単元全体の指導計画

次	時数	テーマ	学習内容
1	1	体の発育・発達	体の発育・発達の違いと中学生期の特徴
2	1	呼吸器・循環器の発育・発達	呼吸数や脈拍数の年齢による変化と運動
3	1	生殖機能の成熟	思春期における生殖器の発達と体の変化
4	1	異性の尊重と生情報へ対処	異性を大切にする関係と生情報への対処
5	1	知的機能と情意機能の発達	知的機能の発達と脳との関わり
6	1	社会性の発達と自己形成	自己形成と社会の中での役割
7	1	心と体の関わり	心と体のつながり
8	1	欲求と欲求不満	欲求、欲求への対処
9	2 (本時)	ストレスへの対処と心の健康	中学生の悩み、ストレスの対処方法と心の発達・心の健康

## 7. 本時（2時間展開）の指導

## (1) 本時の目標とねらい

- 1) ストレスの原因について話し合い、中学生期の悩みについて関心をもつことができる。
- 2) 心と体の関わりやストレスが心と体に影響を与えることが理解できる。
- 3) ストレスへの対処方法について分かり、自分に合った対処方法を見つけることができる。

## (2) 展開

段階	学習活動	教師の指導	指導上の留意点	評価の観点など
つかむ (5分)	本時の目標を知る	「今日はストレスとの上手な付き合い方について勉強します。」	・本時の学習について提示する。	
導入、展開1 (45分)	悩みやストレスに気づく。	<p>「中学生は、どんなことで悩んだり、困ったりしているのか考えてみる」</p> <p>自分で5分考えて、付箋に書く。その後、班ごとに机をつける。</p> <p>【予想される主な意見】</p> <p>勉強、成績が伸びない、高校に入るか心配、友達ができない、親に叱れる、好き嫌いがあ、部活で思うような結果が出ないなど。</p> <p>画用紙に悩みを4つに分けて貼</p>	<p>・ブレインストーミングのやり方を確認する。②</p> <p>・自分の悩みだけではなく、他の人はこんなことで悩んでいるのではないかと思うことでもよいことを確認する。②</p> <p>【中学生のストレス3大原因】</p> <p>1位 勉強関係</p> <p>2位 親との関係</p> <p>3位 友達との関係</p> <p>・自分だけではなく、みんなが悩</p>	<p>グループは生活班8人ずつ4班に分ける。</p> <p>グループの活用は効果的か。</p>

		<p>る。教師が黒板に貼られた意見をグルーピングし、全体に意見を共有する。</p>	<p>みや心配を持っていることを確認する。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期は体の発達そのものがストレスになる。</li> <li>・環境の変化や疲労、人間関係などストレスの原因になるものをストレスという。</li> </ul>	
<p>展開 2 (35 分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスに対する反応について理解する。</li> <li>・対処法を考える。</li> </ul>	<p>・ストレスが長く続いたら、どんな状態になるか。心や体の変化に注目して考えてみる。(ワークシートに書く) ②</p> <p>【予想される意見】</p> <p>ドキドキ、イライラ、悲しい、息苦しい、頭痛、腹痛、吐き気、震える、反抗的になる、食欲がなくなる、元気がなくなる、ひきこもるなど</p> <p>・1班は「勉強が分からなくて困っている」、2班は「人前で発表しなければならなくて緊張している」、3班は「親に叱れて頭にきている」、4班「友達とけんかして悲しい」時どういう対処をするかを班で考える。</p> <p>・班から一人前に出て、班で考えた内容について発表する。</p> <p>まず自分で考えた後、班ごとに色紙に対処法を記入させる。</p> <p>【予想される意見】</p> <p>とりあえずやってみる、忘れる、寝る、人に話す、おふろにゆっくり入る、音楽を聴いて気分転換する、相談する、人に当たるなど</p> <p>班長は前に出て、自分たちの班で考えた内容を発表する。</p> <p>全員机を前向きに戻し、話を聞く。</p> <p>・ストレスに対処する方法の一つとして紙芝居で動作法を実</p>	<p>ストレスによって引き起こされる心や体に現れる反応をストレス反応という。</p>	<p>自分の心身の変化に注目し、その様子を書き出すことができたか。</p>

		<p>践する。①</p>	<p><b>【ストレスに対する対処法】</b></p> <p>1) 原因に対処する</p> <p>まずは解決策を考えてみる。③</p> <p>2) コミュニケーション</p> <p>親や友達、先生など信頼できる人に相談する。④</p> <p>3) リラクゼーション</p> <p>体をやわらげると心もほぐれる 体験を通して心と体の密接な関係を理解させる。①</p> <p>適度なストレスは発表を促し、心を強くする効果もあるので必要はないことを押さえる。</p> <p>体をやわらげると心もほぐれる 体験を通して心と体の直接な関係を理解させる。</p>	
<p>まとめる (15分)</p>	<p>自分に合ったストレス対処法を見つける。</p>	<p>自分のストレスに対して、その対処法を考えて、ワークシートに記入する。①</p>	<p>自分にストレスがないという人は、前の4つの課題から対処について考える。②</p>	<p>自分に合う対処法をワークシートに書くことができた力。</p>

## 8. 本時の評価について

- ① ストレスが心と体に影響を与えることが理解できたか。
- ② ストレス対処方法について分かって、自分に合った方法を見つけることができたか。

(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻 1年 カキモフ バザルハン)

## 技術・家庭科 技術分野指導案

轍中学校 教諭 村松 遼太

## 〔轍中学校2学年 技術・家庭科 技術分野におけるキャリア教育〕

第1学年のキャリア教育の目標作成にあたっては、小学校との接続を意識した。自らの将来と現在の学習がつながっていることを発見できるようになるためには、生徒が既習事項の活用を通して「気づく」ことが必要である。そのため、各教科および道徳の指導および評価にあたっては、「気づき」を手掛かりとして既習事項の活用を学習活動に盛り込むとともに、教科間の連携にも配慮する。技術分野においては①日常生活や将来とのつながりに「気づき」、可能な限り「活かすことができる」ことを目標に据える。そこで技術・家庭科技術分野の指導にあたっては、小学校段階との接続と教科間の連携について次のように配慮することで、技術分野におけるキャリア教育の効果を高めることを企図した。

まず、小学校段階との接続について、小学校図画工作科の工作に表す内容は、中学校技術・家庭科の技術分野と関連する内容である。小学校第5学年および第6学年において、児童は図画工作「A表現活動」において用途などを考えながら表し方を構想する活動を行っている。その際、指導にあたっては児童一人一人のそれまでの経験を活かせるようにするとともに、児童が思いついたことを進んで取り入れられるような柔軟な指導が行われてきている。ここから、中学校段階においても「用途」を意識させた指導は可能であり、また、生徒の一人一人の発想が取り入れられる柔軟な指導が望まれるものと考えられる。

次に、数学科との連携が不可欠であると考えた。生徒が「計画的」に活動するためには、計画の前に記録が必要である。記録には数量的な処理を伴う。数学科における数量的な処理には、技術科「Dコンピュータ」に関する領域の表計算ソフトの使用も考えられる。しかし、表計算ソフトのたんなる操作や表面的な理解だけではなく、数字の持つより本質的な意味を理解するためには、数学科との連携が考えられる。そこで、取り扱う題材を関連付けること検討し、結果、数学科において「ナスのプランター栽培について考えよう」というテーマで授業を行い、両者を通して生徒が学習内容の有用性を「気付く」ように配慮した。

轍中学校は、二つの小学校区が合流するため、第1学年では、生徒は同質性と異質性へと関心が向きがちである。「自らの良さ」と「自分なりの考え」を意識させるためには、「他人の良さ」「他人の考え」を尊重することが重要である。そのことを踏まえ、指導にあたっては、道徳の時間および特別活動を中心に「自他を尊重する態度」の形成に特段の配慮をする。技術・家庭科技術分野においては、「③しなくてはならないこと、すべきことに気づき、進んで計画的に取り組むことができる」に関して負うところが大きい。この役割を踏まえ、技術分野では、生徒一人一人が操作的に取り組む素地のあるナスの栽培を通して、計画的に取り組むことができる態度を身に付けさせることが可能であると考えた。



1. 授業実践の日時 平成27年9月1日(木) 5-6限
2. 学級 轡中学校1年3組(男子16名、女子16名)
3. 教科書 『新しい技術・家庭科 技術分野』(東京書籍)
4. 単元名 ハタケは自然の工場??

## 5. 単元の目標・ねらい

### (1) 本単元の目標・ねらい

- ①生物の生育環境の条件と育成環境を管理する方法について知り、適切な評価と活用ができるようになる。
- ②生物育成に関する技術を利用した栽培または飼育を計画的に行うことができる。

### (2) 本単元とキャリア教育との接点

生物の育成環境に関心を持ち、計画・観察・分析・対処のプロセスに課題意識を見出し、それを改善する工夫を考えたり、計画を立てたりすることは種々の能力に繋がることが期待できる。目的や条件に応じた栽培計画を立て、合理的に栽培または飼育ができるようにするとともに、成長の変化をとらえ、育成する生物に応じて適切な対応を工夫することを通してキャリアプランニング能力の基礎が養われると考えられる。

生物育成に関する技術の内容は、①生物の生育環境と育成技術、②生物育成に関する技術を利用した栽培または飼育、の二項目で構成されている。①では、生物育成に関する基礎的・基本的な知識及び技術について、②では学んだ内容を活用した生物の栽培または育成について指導する。また、①生物の生育環境と育成技術では、生物育成に関する技術の評価と活用について指導する。

生物育成に関する基礎的・基本的な知識および技術を習得するにあたって、生物育成に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深めることとされている。具体的には、食料、バイオエタノールなどの燃料、木材の生産、花壇や緑地等の背陰環境の整備など、多くの役割について理解させようと配慮することとされている。ここには、キャリアプランニング能力の下地となる知識が含まれると考えられる。これらの内容は、社会科公民分野とも密接に関連し、生徒が養う市民感覚の素地として大きな役割を担うものと考えられる。

生物の生育環境と育成技術について、生物を取り巻く生育環境が生物に及ぼす影響や、生物の育成に適する条件および育成環境を管理する方法を知ることができるようにするとともに、社会と環境のかかわりから、生物育成に関する技術を適切に評価し活用する能力と態度を育成することを狙いとしている。生物育成に関する技術は、自らのモニタリングとコンディショニングの基礎となる役割であると考えられる。生物の育成それ自体ではなく、生物の育成を通して養われる課題対応能力にこそ、生物育成に関する技術におけるキャリア教育の役割があろう。

目的とする生物の育成計画と立て、生物を育成できるようにするためには、育成する生物の各成長段階における肥料、資料の供給量や方法をはじめとした管理作業、それに必要な資材、用具、設備などについて知る。また、育成する動植物に発生しやすい主な病気や害虫等とともに、病気や害虫等に侵されにくい育成方法や、摘花などの手法は、高等学校専門学科農業科における作物や果樹の栽培にも通じる内容である<sup>1</sup>。さらには、ナスの栽培は、ベジタブル・ガーデンの運営など生活と農業との関連付けにも大きく関連する内容である<sup>2</sup>。これらの内容は、発展的な内容と関連させることで、中学校の学習内容が高等学校の学習内容や実生活にも関連していることに気付くことができる。

<sup>1</sup> 農山漁村文化協会『生物活用』2008年、pp.72-75 および実教出版株式会社『果樹』2008年、pp.58-59

<sup>2</sup> 農山漁村文化協会『生物活用』2008年、pp.76-78

## 6. 単元全体の指導計画

第1次：生き物を育てる技術について知ろう（2時間）

第2次：生き物を育てる計画と管理について知ろう（4時間）

第3次：ナスを育ててみよう（2時間）

第4次：生き物を育てる技術を評価しよう（2時間）（分割実施） ※本時は2時間

## 7. 本時の指導

### （1）本時の主題

「生き物を育てる技術を評価しよう」

### （2）本時の目標・ねらい

目的に応じて生物育成に関する技術を用いてきたことを振り返り、それらを評価し活用する能力の下地に、変化をとらえる記録の視点があることに気付き、適切に評価し活用する必要について理解を深める。

### （3）主題について

生物育成に関する技術を利用した栽培について、地域や学校の実態に応じて目的とする生物の育成を通して、生物の計画的な管理方法について知り、栽培または飼育の計画を立て、適切な管理作業ができるようにするとともに、育成する生物の観察を通して成長の変化をとらえ、適切に対応する能力を育成することを狙いとしている。この単元では、育成条件の統制・変化を想定して、容器栽培の手法を採用することとする。

生物育成に関する技術や社会に果たしている役割と影響について理解させるにあたって、生物育成に関する技術を適切に評価し活用する能力と態度を育成する必要がある。この学習では、生物育成に関する技術には、長い年月をかけて改良・工夫された伝統的な技術と、バイオテクノロジーなどの先端技術とがあることを踏まえ、自然の生態系を維持しよりよい社会を築くために、生物育成に関する技術を適切に評価し活用する能力と態度を育成する必要がある。ここで重要な事項は、それらを評価し活用する技術の背景には、変化をとらえる記録がある点である。

技術分野においては、花の摘み方や肥料の与え方、整枝によって実のなり方への影響があることについて扱ってきた。しかし、これらが単に既存の知識として伝わることは、技術分野の主題とは異なる。技術分野においては、これらの知識を如何にして蓄積するかこそ主題がある。そこで、数学科においては、これらの知識を蓄積するための方法として、プランターに植える苗の本数、つまり作付けの粗密について数量的に取り扱うことで、数学科の学習内容と関連付ける。



図 ナスの花



図 プランターに植えたナス

## (4) 展開

時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点
導入 (10分)	ナスの成長の様子などを振り返る	実際の作業の記録写真を振り返るようにする。
展開① (40分)	<p>食物の成長の状態に合わせて適切な管理作業を振り返る</p> <p>定植した苗が、種まきから発芽まで、温度、水、酸素の発芽条件を保って管理されていたことを復習する</p> <p>定植、花摘み、追肥、整枝について復習する</p>	<p>実際の作業の記録写真を振り返るようにする</p> <p>収穫量を増やすこと希望する時期に収穫できるように品種絵を選択し、管理していることを学ぶ</p>
展開② (40分)	<p>生育レポートをまとめる</p> <p>ナスがよく育つための必要な条件をまとめさせる</p> <p>生物の育成が、機械等の工場生産のように管理された環境の中で進められていることを理解する</p>	<p>育成記録をつけさせ、レポートにまとめさせる</p> <p>まとめる上で、数量的な条件を中心に整理するよう指導に留意する</p>
まとめ (10分)	生育レポートのうち、作付けを中心に考察する	<p>育成計画のためには、数量的な記録が重要であったことをまとめる</p> <p>数量的な処理の仕方について、より適切な理解が必要であることを、実ったナスの個数の「散らばり」から気付かせる</p>

## 8. 本時の評価について

(知識)

- ・育成する生物の各成長段階における肥料の給与量や方法をはじめとした管理作業およびそれに必要な資材、用具、設備などについての知識を身につけている。
- ・育成するナスに発生しやすい主な病気や害虫等侵されにくい育成方法や、薬品の使用量を少なくした防除方法についての知識を身につけている。

(技能)

- ・計画に基づき、適切な資材や用具を用いて、合理的な管理作業ができる基礎として、記録と集計作業ができる。

(関心)

- ・生育レポートのまとめを通して、新しい発想を生み出し、活用しようとしている。

(工夫・創造)

- ・生育レポートのまとめを通して、成長の変化をとらえ、育成したナスに応じた適切に対応を工夫している。

**〔追録〕指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—**

本指導案では、数学科における数量的な処理と連携することで、教科横断的な授業づくりを行った。技術科においては、作成すること自体が目的となりがちであり、作成することの背景にある技術の蓄積、さらには技術の蓄積への寄与まで学習を進めることが難しい。こうした傾向は轍中学校の生徒に限らず、技術科全般に抱える大きな悩みの一つであるように思われる。

数学科との連携は、技術科の学習内容を既存の知識ではなく、創造的に生み出す知識として捉え直すことが可能であると考え。本時指導案のように、他教科との連携は、学習内容を既存のものであるというイメージを突き崩し、学校で得た知識や技能が、使えるものであること、また、知識や技能は先人が生み出し蓄積されてきたものであり、さらにはそれらを自ら生み出し蓄積する側にならないことを生徒に気付かせるのではないかなと思う。

なお、筆者は技術家庭科の教員免許状を持っていない。授業時数上の無理や季節との対応に無理が生じないよう検討を重ねたつもりではあるが、不十分な点があれば学校および地域の実状にあわせて勘案していただければ幸いである。

(人間総合科学研究科 博士後期課程 学校教育学専攻 3年 村松 遼太)

## 技術・家庭科 家庭分野指導案

轍中学校 教諭 村松遼太

## 〔轍中学校 1 学年 技術・家庭科 家庭分野におけるキャリア教育〕

第1学年のキャリア教育の目標作成にあたっては、小学校との接続を意識した。自らの将来と現在の学習がつながっていることを発見できるようになるためには、生徒が既習事項の活用を通して「気づく」ことが必要である。そのため、各教科および道徳の指導および評価にあたっては、「気づき」を手掛かりとして既習事項の活用を学習活動に盛り込むとともに、教科間の連携にも配慮する。この学習では、他の領域の内容を関連させていくことが求められている。第一の足がかりとなる。中学校三年間を通して学ぶ家庭科の学習内容の有用性を「気付く」よう、「A 家族・家庭と子どもの成長」「B 食生活と自立」「C 衣生活・住生活と自立」の4領域に結び付くテーマを取り上げるようにしたい。

小学校段階においては、物や金銭の使い方と買物について、物や金銭の大切さに気付き、計画的な使い方を考えること、身近な者の選び方、買い方を考え、適切に購入できることが学習指導要領上の目的とされ、中学校技術・家庭科との円滑な接続のために、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るように配慮されている。小学校段階の家庭科において、金銭の使い方では、こづかいなど児童に取扱いが任された金銭に着目し、購入の時期や金額を考えたり、購入のための貯蓄をしたりして、無駄のない使い方を考えられるように指導されている。これを踏まえて、家庭分野では、現在任されている責任の範疇を踏まえ、さらに将来可能となる長期的な金銭の運用について理解を深めることを通して、自身の責任範囲の変化に気付かせるように配慮する。

第1学年は、部活動など新たな人間関係に直面する中で、地域・学校・家庭などの集団の一員としての役割を理解させる。第2学年において目指される「計画的・継続的に取り組むことができる」段階へ向けて第1学年では、「積極性」を重視する。生徒が計画的に活動するためには、計画の前に記録が必要である。③「計画的に取り組むことができる」ためには、日常のささいな記録・計画が基礎となる。第1学年は、生活における「具体例」を例示して指導するようにしたい。家庭分野においては、帳簿などの記録が学習主題として取り扱われている。指導にあたっては、中学生の身近な事例を取り上げ、主体的な消費行動につながるよう配慮する。具体的には、自分や家族の購買経験から、それぞれの販売方法の利点や欠点について話し合い、購入の目的に応じた販売方法を検討することが考えられる。また、物資・サービスの選択場面を想定し、適切な情報を収集、整理する活動が考えられる。これらの活動で自身の購買経験を振り返ることを通して、自己理解・自己管理能力の基礎を養いたい。

1. 授業実践の日時 平成27年6月12日(木) 5-6限
2. 学級 蕨中学校1年3組(男子16名、女子16名)
3. 教科書 『新しい技術・家庭科 技術分野』(東京書籍)
4. 単元名 大人の第一歩～消費者としてのボクたちワタシたち～(10時間)

## 5. 単元の目標・ねらい

### (1) 本単元の目標・ねらい

- ①自分や家族の消費生活に関心をもち、消費者の基本的な権利と責任について理解する
- ②生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入および活用を計画することができる

### (2) 本単元とキャリア教育との接点

「身近な消費生活と環境」の内容は、①家庭生活と消費、②家庭生活と環境、の2項目で構成されている。この領域では、消費生活や環境に関する実践的・体験的な学習活動を通して、消費生活と環境についての基礎的・基本的な知識および技術を左右徳するとともに、消費者としての自覚を高め、身近な消費生活の視点から持続可能な社会を展望して、環境に配慮した生活を主体的に営む能力と態度を育てることを狙いとしている。ここでは、①家庭生活と消費を取りあげて、単元計画を構成する。これらの内容の指導にあたっては、小学校段階の家庭科で学習した「D 身近な消費生活と環境」の内容に関する基礎的・基本的な知識と技能などを基盤にして、適切な題材を設定し、他のとの相互の関連を図り、総合的に展開するよう配慮することが求められている。

家庭生活と消費について、具体的には、中学生の身近な消費行動を振り返ることを通して、家庭生活における消費の重要性に気づき、消費者の基本的な権利と責任について理解を深めるとともに、物資・サービスの適切な選択、購入および活用ができるようにすることを狙いとしている。その際、単なる買物についての学習にとどまらず、自分や家族の生活の仕方や消費の在り方を改善することなど消費者としての自覚が持てるようにすることとされている。また、これらの知識は、将来を通して、消費に関するトラブルから身を守るとともに、事例検討を通して、また意識決定のプロセスを通して問題を解体しながら考察することは、課題対応能力の基礎を養うことが可能であると考えられる。

自分や家族の消費生活に関心をもち、消費者の基本的な権利と責任について理解するためには、中学生は、自分とのかかわりの深い事例を通して自分が物資・サービスを購入する主体であり、適切な消費行動をとる必要があることなどに気付くようにするとともに、消費者の基本的な権利と責任について理解し、消費者としての自覚を高めるようにする。消費者の基本的な権利と責任については、実際の消費背景とかかわらせて具体的に考えさせるとともに、消費者基本法の主旨を理解できるようにする。具体的には、中学生の消費行動とかかわらせて、商品を購入することには、選ぶ権利であるとともに、選んだことに伴う責任についても理解できるようにする。消費生活センターなどの各種相談機関や、クーリング・オフ制度を取りあげ、消費者としての自覚を高めるようにする。これらを通して得られる知識や技能、態度は、将来において賢い市民生活を可能とし、自己理解・自己管理能力につながるものと期待される。

販売方法の特徴について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入および活用ができることに関してここでは、中学生の身近な消費行動を振り返る学習を通して、販売方法の特徴を知り、生活に必要な物資・サービスを適切に選択、購入および活用ができるようにする。販売方法については、店舗販売と無店舗販売がある。両者の利点や問題点について具体的な事例を通して考え、適切な方法で購入できるようにする。特に、多様化している無店舗販売については、中学生にかかわりの深い販売方法として、通信販売がある。このように、指導に当たっては、情報社会における消費生活の変化に対応して、中学生の身近な消費行動と関わりのある具体的な事例を扱うよう配慮する。これらの活動を通して養われる能力は、自己理解・自己管理能力に結び付いているものと考えられる。

## 6. 単元全体の指導計画

第1次：消費者の権利と責任を知ろう（4時間）

第2次：消費生活をデザインしてみよう（4時間） ※本時は1時間目に相当

## 7. 本時の指導

### （1）本時の主題

第2次「消費生活をデザインしてみよう」その1

### （2）本時の目標・ねらい

自分や家族の消費生活については、小学校における物や金銭の使い方と買物の学習を踏まえ、自覚ある消費行動の基礎として、自分の消費に使える金銭には限りがあることや、優先順位を考えた計画的な支出が必要であることなどに気付く。

### （3）主題について

これまで、品質、機能、価格、アフターサービス、環境への配慮など、それぞれに応じた選択の視点が必要であることを理解させたり、それらに関連する品質表示やマークなどの表示の意味を知ったりする必要がある。選択、購入の際に、それらを適切に活用できるようしてきた。しかし、多くの情報の中から、適切な情報を収集整理し、物資やサービスの適切な選び方、買い方についてより理解を進めるためには、具体的に、生活に必要な物資・サービスの選択、購入に当たっては、本当に必要かどうかの判断が必要であることに気付かせる必要がある。

環境に配慮した消費生活と関連して、これからの生活を展望して、一人一人が環境に配慮した生活を送る必要性に気付かせ、循環型社会を目指して生活の在り方を工夫し、実践できるようにする。例えば、家庭生活で使用されている水、ガス、電気の利用状況を取りあげたりすることが掲げられている。しかし、轍中学校一年生にとって実生活の家計は関心の中心と言い難く、関心と乖離しがちな題材である。実際の消費生活と結び付け、消費者の権利や責任について理解するためには、経験や振り返りや補充が欠かせない。これらは家庭の経済状況とも深くかかわり、轍中学校一年生には未知の経験であるケースもあり、中学校生活が始まったこれからの支出に目を向けさせることが適当であると考えた。そこで、本時では意思決定のプロセスを示した補助資料を作成した<sup>1</sup>。商品購入についてシミュレーションをするためには、いつ何を購入する必要があるのか理解する必要がある。本当に必要かどうか判断することの大切さに気付かせるためには、その判断の根拠となる段取り（フロー）を用いて理解をする必要がある。意識決定のプロセスを明確にするため、補助資料を用いたシミュレーションを行う。小学校段階での取り扱いを踏まえて、家庭分野においては部活動に必要な資金を参考情報として学習する。2時間目からは授業をコンピュータ室で行い、多くの情報の中から適切な情報を収集・整理し、物資・サービスの適切な選択ができるようにすることを想定している。中学校三年生に、部活動において必要な資金に関する質問紙調査を行っており、そこから得られた情報を教材として集計し、集計結果を教材として学習活動を進めたい。

消費者の権利と責任については、中学生の消費行動や具体的な事例とかかわらせて考えさせることが効果的であると考えられる。消費者基本法の主旨を説明するためには、具体的な事例を出す必要がある。また、購入時の支払い方法については、二者間の契約を中心に引き上げ、即時払い・前払い・後払いのそれぞれの特徴について理解できるようにする。なお、プリペイド型の電子マネーが増加していることにも触れ、その適切な取り扱いについて指導する。

<sup>1</sup> 作成にあたって、以下の書籍に示された意思決定場面やトラブルを参考にした。

一橋出版『高等学校家庭一般』1991年、大修館書店『家庭一般 豊かな家庭を共に作る』1998年、開隆堂『技術家庭 [家庭分野]』2011年、教育図書『技術・家庭 家庭分野』2012年

[配付資料]

# 商品購入シミュレーション ～衝動買いしないための5つのステップ～





## (4) 展開

時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点
導入 (10分)	前回学習内容の復習する 消費活動に伴う責任について 消費活動に伴う権利について	
展開① (20分)	補助資料の矢印記号をなぞりながら、意思決定のプロセスについて理解を深める。	補助資料を配布する。  補助資料の矢印記号をなぞりながら、意思決定のプロセスについて説明する。 プリペイド型の電子マネーが増加していることにも触れ、購入時の判断の慎重さ／気軽さを振り返らせる。
展開② (20分)	意思決定のプロセスを示した補助資料をもとに、商品購入のシミュレーションを行う。	小学校段階での取り扱いを踏まえ、こづかいの使途を振り返らせる。 部活動に必要な費用などを挙げさせる。 購入後のトラブルについて、既習事項である消費者の権利と関連させて指導する。
まとめ (10分)	部活動に必要な個人経費と運営経費の違いから、規模の大きな金銭の運用について理解を深める 資金が足りない物品の購入について理解を深める 購入後の対応について復習する	

## 8. 本時の評価について

(知識)

- ・消費者の基本的な権利と責任について理解している
- ・消費者基本法について理解している

(技能)

- ・意思決定のプロセスに基づき、適切な資料や判断材料を用いて、合理的な購買計画を立てることができる。

(関心)

- ・購買計画のまとめを通して、自らの購買傾向に気付き、気付きを活用しようとしている。

(工夫・創造)

- ・購買計画のまとめを通して、自身に任された責任の変化をとらえ、拡大した責任に応じて適切に購買計画を工夫している。

**〔追録〕指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—**

本指導案では、家庭科における「家庭生活と消費」における意思決定のプロセスを重視した授業づくりを構想した。意思決定のプロセスは、単一のフローチャートのように書き起こそうとすると極端に複雑なフローチャートになる。しかし、現実には、いくつかのステップの繰り返しが発生する。

そこで、課題学習の進め方を参考にして5つのステップに刻んだ補助資料を作成した。意思決定の分岐点の極端に少ないフローチャートよりもより生徒の思考を働かせ、かつ、段階を分割したことで授業進度・場面に応じた使用が可能となり、商品購入における意思決定についてより生徒の理解が深まるのではないかと思う。

なお、筆者は技術家庭科の教員免許状を持っていない。授業時数上の無理や季節との対応に無理が生じないように検討を重ねたつもりではあるが、不十分な点があれば学校および地域の実状にあわせて勘案していただければ幸いである。

(人間総合科学研究科 博士後期課程 学校教育学専攻 3年 村松 遼太)

## 英語科指導案

轍中学校 教諭 小出 和代

## 【轍中学校1年生英語科におけるキャリア教育】

外国語（英語）科では、これからの国際社会に生きる日本人として、他国や他地域の言語や文化に対する理解を深め、世界の人々と強調し、国際交流などを積極的に行っている資質・能力を養う観点から、コミュニケーション能力の基礎を総合的に育成する。外国語（英語）は、コミュニケーションを図るための1つの手段なので、外国語（英語）を活用することは、必然的にコミュニケーション能力（人間関係形成・社会形成能力）を高めることになり、ひいては、自他の理解の能力（自己理解・自己管理能力）につながっていく。また、扱う題材によっては、キャリア教育におけるその他の諸能力（課題対応能力、キャリアプランニング能力）の育成にも関与する。

外国語（英語）科の学習においては、言語や文化に対する理解を深めたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成したりすることとともに、聞くことや話すことにおいて話し手や書き手の意向を理解することや、自分の考えなどを話したり書いたりすることを重視している。外国語（英語）科の目標における「コミュニケーション能力の基礎を養う」ことは、キャリア教育の充実を図るための、社会的自立や職業的自立を目指したその基盤となる「基礎的・汎用的能力」の育成に直接つながるものといえる<sup>1</sup>。

中学校の特別活動の目標では、望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うとある。英語で身に付けた「話すこと・聞くこと的能力」が、特別活動においてよりよい生活や人間関係を築き、集団としての意見をまとめたりするための話し合い活動に実践的に働く。また、特別活動で養われることになるよりよい生活を築くために話し合ったり、言葉で表現したり、まとめたり、発表しあったりしようとする自主的、実践的な態度が、英語科における「話すこと・聞くこと的能力」「書くこと的能力」を養うための学習に生かされる。友達とのかかわりを大切にした体験的なコミュニケーション活動を一層効果的に展開していく必要がある。

「他者とのコミュニケーションを通して自己理解や他者理解ができるようにする」ことを目標とするために、本授業では、「自分や友達の好きなことを理解し尊重すること」をテーマに授業を考える。外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。そして、自分の考えを適切に伝えることのできる能力を身に付けるとともに、相手の考えを受け止める態度を英語の授業を通して行う。

<sup>1</sup> 文部科学省（2011）『中学校キャリア教育の手引き』教育出版株式会社、p.176

- 1 授業実施の日時： 平成28年6月20日（月）2時限
- 2 学級： 轍中学校 1年2組 32名（男子16名、女子16名）
- 3 教科書： 東京書籍『NEW HORIZON English Course 1 Book 1』
- 4 本時の単元名： Lesson 3 「私の好きなこと」“I like / study / play / ...”

## 5 本単元の指導目標とねらい

### （1）本単元の指導目標

- ① 自分の好きなことについて、一般動詞を用いて、まとまった文を用いて話すことができる。
- ② 相手の好きなことについて、一般動詞を用いて、質問することができる。質問を通して会話を続ける。
- ③ Retelling 等のアウトプット動で習った内容を簡単な英語で伝えられるようにする。
- ④ 既習の文法事項を文脈の中で理解させ定着させる。
- ⑤ 自己紹介では、プラスワンの情報を用いて、皆の知らない新たな自分を見せる。

### （2）教材観

中学校第1学年用の教材であるが、表現は小学校の「外国語活動」の教科書 *Hi, Friends* で既習済み。また、小学校の特別活動の時間で、意見の異なる人と折り合いをつけ、他者と議論して集団としての意見をまとめたりする話し合い活動や、体験や調べたことをまとめて発表しあったりする活動を展開した。この集団活動を通して培われた自発的、自主的な態度が、教科の知識や技能の習得により影響を与えている。そこで、本時の使用教材の題材を自分の興味・関心に結びつけて読解、聴解、retelling 等のアウトプット活動にも適していると考えた。標準的な表現で生徒の興味や関心を引き付ける内容を扱い、写真等も充実している本教科書を採択した。

### （3）指導観

授業そのものを英語のコミュニケーションの場と考え、英語でのインタラクションを意識的に多くする。教師はできるだけ英語で授業を進め効果的に日本語を使用する。生徒にもできるだけアウトプットをする活動を与える。教師の Teacher Talk、生徒の Students Talk を生徒の intake 活動と捉えて重視する。コミュニケーション能力を自動的な暗示的知識と捉えクイックリスポンスを要求する活動を多用する。認知心理学の見地からも語彙、表現、教材の内容等を繰り返し、時間をあけながらスパイラルに使用させ、復習することでそれらが長期に記憶されるようにする。語彙力と文法力を基礎力と考え様々な活動を通して定着させる。

### （4）本単元とキャリア教育との接点

1年生のキャリア教育の目標の「②自他の良さや個性に気づき、それに基づいて将来進むべき方向性について自分なりに考えることができる」、に焦点を当てる。本時はまとめの単元の活動なので、外国語（英語）の目標にある、聞くこと、話すことに焦点をあて、コミュニケーション活動で、自分と相手のことについて理解を深めることとする。本指導案では、他者とのコミュニケーション活動を通して、自己理解や他者理解を深め、お互いに尊重しあう態度を育成する。この学習の積み重ねを通して、キャリア教育の充実に必要な社会的自立や職業的自立を目指したその基礎となる「基礎的・汎用的能力」の育成に直接的につながるものと考え。特に、自己紹介の発表では、今まで相手が知らなかったプラスワンの情報を用いて、自分をアピールする。また聞き手の生徒は、今まで知っていた以上の情報を聞きとり、相手を深く理解する。新たな自分を他者に理解してもらうことを大事にした。

## 6 本単元の授業計画と評価規準

## (1) 本単元全体の授業計画

時間	内容	主な言語材料	アウトプット活動
1 時間目	Part 1 好きなことについて話そう	動詞の単語の帯活動①、一般動詞の肯定文	Q and A、Retelling
2 時間目	Part 2 質問をしよう	動詞の単語の帯活動②、一般動詞の Y/N Question	Q and A、Retelling
3 時間目	Part 3 質問を続けよう	動詞の単語の帯活動③、一般動詞と 3 つの文	Q and A、Retelling
4 時間目	Listening Activity、まとめ	動詞の単語の帯活動④、既習事項の確認	Q and A、会話を続ける
5 時間目	Practice「自己紹介」①「発表にむけて」	Worksheet 1: 自己紹介(挨拶、本文、結び)に使う表現	Q and A、Writing
6 時間目	Practice「自己紹介」②「発表にむけて」	Worksheet 2: スピーチ原稿書き	Q and A、Writing
7 時間目	Practice「自己紹介」③発表練習【★本時】	動詞の単語の帯活動①～④、自己紹介文	Speaking
8 時間目	Practice「自己紹介」④発表		Speaking、評価

## (2) 本単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現 (話す S、書く W)	ウ 技能 (聞く L、読む R)	エ 知識・理解
①自分が好きなことを積極的に話そうとしている。 ②相手が習慣的にすることを積極的に尋ねたり、答えたりしようとしている。	①自分の好きなことなどを話すことができる。(S) ②習慣的にしていることやしていないことについて話し合うことができる。(S) ③自分の好きなことについて、習慣的にしていること、していないことについて、まとまった文を書く。(W)	①自己紹介を聞いて、その内容を聞き取ることができる。(L) ②対話を聞いて、習慣的にしていることを聞き取ることができる。(L) ③対話を聞いて、習慣的にしていることやしていないことを聞き取ることができる。(L)	①I like [play] ...の文の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。 ②Do you...?の文の形とその答え方・意味・用法に関する知識を身に付けている。 ③I do not ...の文の形とその答え方・意味・用法に関する知識を身に付けている。 ④一般動詞の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。

## 7 本時の指導

## (1) 本時の目標・ねらい

言語活動を通して相手の気持ち(好き嫌い)を聞く。ペア活動、グループ活動など、集団の活動を通して、本単元で学習した、「自分の好きなこと」について、まとまった文を用いて表現することができる。クラスの仲間(他者)の好きなことについても、質問文を用いて質問し、クラス全員に好きなことを尋ねることができる。クラスのいろいろな人と対話する事で、その人の考えを聞き理解することができる。単元のまとめの Project の「自己紹介」の発表では、友達に「ねえねえ私の知らない一面を知って」が伝わるように、皆の知らない、新たな自分について、英語で表現し、他者に紹介する。発表を聞いている生徒は、今まで知らなかった友達の一面について理解する。この活動を通して、話し手は、友人に自分をより深く知ってもらい、聞き手は、友人について深く知ることができるようにする。

## (2) 展開 Teaching Plan (\*生徒の様子を見て一部変更することがある。)

	時	学習活動	指導上の留意点
Warm up	4分	○ Small Talk と本時の目標を説明 ・天気や、体調などの質問に応える。 ・本時の目標と内容について触れる。 ・提出した発表原稿を受け取る。	・教師の質問に大きな声で素早く答えさせる。 ・短く答えさせる。英語を話す雰囲気を作る。 ・本時の内容と目標を理解させて授業を始める。 ・発表原稿を生徒に返却する。
復習1	4分	○授業で学習したことを振り返る ・前時授業の帯活動で使用した絵カードを用い、授業で出てきた動詞を、動詞+目的語のフレーズで答えて、振り返る。 ・科目の好き嫌いについてY/N Questionで質問し、一番好きな科目を答える。 例) 絵カードを見せて、絵の動作を英語で答える。 Teacher: What does he/she do? Students: play basketball, sing a song, practice the guitar, study English, …	・教師の質問に大きな声で素早く答えさせる。 ・本単元の動詞の表現を十分に確認する。 ・英語のフレーズを全員がすらすら言えるように、支援する。
復習2	5分	○ リズム (うた) で既習語彙の発音の確認 ・Lesson3 で出てきた語彙の発音をリズム (うた) に合わせて発音して、読み方を振り返る ・リズムに合わせて、テンポよく答える。 ・全体で発音練習をして、ペアで練習をさせ、テンポよく、クラス全体で数人の発音を 例) ベースボール/baseball、テニス/tennis、バスケットボール/basketball、アイスクリーム/ice-cream、ピザ/pizza、コーラ/coke・cola、ミルク/milk、ピアノ/piano、ギター/guitar、バイオリン/violin	・教師の質問に大きな声で素早く答えさせる。 ・前時の内容を十分確認する。 ・発話する時は、テンポよく答えさせる。 ・日本語の発音にならないように注意させる。 ・ペア練習の時は、A が日本語、B が英語でテンポよく、英語らしく発音させていく。
展開1	5分	○ペア読み 自分の原稿を大きな声で読みあう ・お互いに、発音や、英語らしい表現になっているか、イントネーションがおかしくないか確認する。	・日本語の発音にならないように注意させる。 ・ペア練習の時は、英語でテンポよく、英語らしく発音させていく。
展開2	25分	○発表原稿の発表準備 自己紹介文を繰返し読んで内容を覚える (ワークシート2-②「スピーチ原稿②」) ・会話の始まりは、Hello. Hi. などの挨拶、会話の終わりは、Thank you. を忘れず言う。 ・繰返し読むことで、内容を覚える。 ・大きな声で発話する。 ・相手の知らない自分を英語で伝える。 ・紙面にない、ジェスチャーをつけて聞く人に伝わるように工夫する。	・自分のことについて、6文以上書いた内容の原稿を見ないで発表できるよう十分な練習時間を確保する。 ・ありきたりの自己紹介にならないように、他の人が知らない自分のプラスワンの情報を入れる。 ・聞き手が知らない自分を英語で理解させる。 ・聞き手に理解してもらえよう、大きな声で、ジェスチャーなどを入れて気持ちを込めて発表させる。 ・顔を上げて、聴衆の目を見て、発表させる。 ・聞き手は、相手の話に耳を澄まして、知らない情報を英語で聞き取り、相手を理解する。
まとめ	3分	○ 本時の振り返り、次時の説明、挨拶 ・本時の振り返りをする。 ・次時の授業内容が発表であることを説明する。 ・宿題は、発表原稿を覚えること。 ・授業終了の挨拶をする。	・本時の振り返りから学習したことを内在化させる。 ・発表の諸注意をし、順番を確認させる。 ・発表に向けて原稿の内容を覚えてこさせる。 ・元気づく挨拶させる。

【資料】My Project「自己紹介」 Worksheet 1① モデル文の紹介、Worksheet 1② 自己紹介で使える表現  
Worksheet 2① 「スピーチ原稿①」、Worksheet 2② 「スピーチ原稿②」  
※本時では、Worksheet 2②「スピーチ原稿②」を使用して発表準備を行う。

## My Project 「自己紹介」 ① : モデル文紹介

Career City, Wadachi JHS1  
Project 1, Worksheet 1①

## 自己紹介をしよう

クラスみんなに英語で自己紹介をしましょう。趣味や特技、クラブ活動のことなどを、これまでに学習したいろいろな表現を使って発表しましょう。あなたはどんなことを話してみたいですか。

- はじめに、2つの自己紹介を聞きましょう。
- 今聞いた自己紹介 A と B の英文を読んで、下の「自己紹介の構成」になっていることを確かめましょう。

A	B
Hello, everyone.	Hi, class.
I'm Sato Taro.	I'm Tsukuba Hanako.
I'm a student at Kita Junior High School.	I'm a Minami Junior High School student.
I'm from Tsukuba city.	I'm twelve years old.
I like shogi.	I live in Wadachi city.
I'm in the shogi club.	I like volleyball.
I practice shogi every day.	I'm on the volleyball team.
Thank you.	Thank you.

## 自己紹介の構成

導入	はじめのあいさつ
本文	名前・学校名 + (a. 出身地・住所 b. ペット c. 趣味・好きなこと d. 部活動 e. 年齢)
結び	終わりのあいさつ

- もう一度英文を読んで、それぞれの「本文」部分に書かれている内容を a～e から選び、話に出てくる順に並べましょう。

㊦ (本文) : 名前・学校名 + ( ) ⇒ ( ) ⇒ ( ) ⇒ ( )

㊧ (本文) : 名前・学校名 + ( ) ⇒ ( ) ⇒ ( ) ⇒ ( )

**My Project 「自己紹介」 ②: 自己紹介で使う表現**

**Career City, Wadachi JHS1  
Lesson 3, Worksheet 1②**

1 あなたのスピーチ原稿を書きましょう。はじめに、今まで学習した自己紹介に使える表現を教科書から探して書き取り、復習しましょう。新しい自己紹介の表現も使ってみましょう。

● 名前・学校名

I am \_\_\_\_\_. (私は～です。)  
My name is \_\_\_\_\_. (私の名前は～です。)  
I'm a \_\_\_\_\_. (私は～中学校の生徒です。)

● 出身地・住所

I'm from \_\_\_\_\_. (私は～出身です。)  
I come from     (Tsukuba)    . (私は(つくば)出身です。)

● 兄弟・姉妹

I have \_\_\_\_\_. (私は～がいます。)

● 趣味・特技、好きなこと(歌手、スポーツ、食べ物、音楽、教科など)

I love soccer (the best) (私はサッカーが(一番)大好きです。)  
I like \_\_\_\_\_. (私は～(食べ物)が好きです。)  
I like \_\_\_\_\_. (私は～(教科)が好きです。)  
I play \_\_\_\_\_. (私は～(スポーツ)をします。)  
I play \_\_\_\_\_. (私は～を遊びます。)  
I speak \_\_\_\_\_. (私は～を話します。)  
I study \_\_\_\_\_. (私は～を勉強します。)  
I practice \_\_\_\_\_. (私は～を練習します。)  
I'm good at baseball. (私は野球が得意です。)  
I'm not good at baseball. (私は野球が得意ではありません。)

● 部活動

I'm a member of the school band. (私は吹奏楽部の一員です。)  
I'm in[on] the \_\_\_\_\_ club[team]. (私は～部に入っています。)  
※ 和英を使って所属している部活動を書いてみよう。

2 導入の所と、結びの表現は次のいずれかから選びましょう。

● 導入

Hello. / Hi, Everyone. / Hello, Everyone. / Hi, class.

● 結び

Thank you. / Thank you for listening.



Career City, Wadachi JHS1  
Lesson 3, Worksheet 2①

①」

Worksheet 1②の表現を参考にして、あなたのスピーチ原稿を書きましょう。

## 導入 「はじめのあいさつ」を書きましょう。

**本文** あなたが話したいことを6つ選んで○をつけ、話す順に番号を( )に書き入れましょう。

話したいこと	順番
<input type="checkbox"/> 名前	( )
<input type="checkbox"/> 学校名	( )
<input type="checkbox"/> 住所・出身地	( )
<input type="checkbox"/> 年齢	( )
<input type="checkbox"/> 住んでいるところ	( )
<input type="checkbox"/> 兄弟・姉妹	( )
<input type="checkbox"/> ペット	( )
<input type="checkbox"/> 姉妹	( )
<input type="checkbox"/> 趣味	( )
<input type="checkbox"/> 特技	( )
<input type="checkbox"/> 好きな歌手・タレント	( )
<input type="checkbox"/> 好きな食べ物	( )
<input type="checkbox"/> 好きな音楽	( )
<input type="checkbox"/> 好きなスポーツ	( )
<input type="checkbox"/> 好きな科目	( )
<input type="checkbox"/> 部活動	( )
<input type="checkbox"/> その他…内容【 】	( )

## 結び

「終わりの挨拶」を書きましょう。

Class	Number	Name
-------	--------	------

My Project 「自己紹介」 ④ : スピーチ原稿②

Career City, Wadachi JHS1  
Lesson 3, Worksheet 2②

## 「スピーチ原稿 ②」

Worksheet 2①「スピーチ原稿①」で準備した内容をもとにして、自己紹介の文を書きましょう。

### 導入

はじめのあいさつ

---

### 本文

話したい事

内容

( )

---

---

( )

---

---

( )

---

---

( )

---

---

( )

---

---

( )

---

---

### 結び

終わりの挨拶

---

Class    Number    Name

## 8 本時の評価規準

- 1 自分の好きなことについて、興味・関心を持ち、積極的に対話ができたか。（関心・意欲・態度）
- 2 動作動詞の絵などを参考にしながら、自分のことを相手に会話を通して言う（伝える）ことができたか。（表現）
- 3 一般動詞の文の作り方、否定文、疑問文に関する知識を身に付けている。（知識・理解）
- 4 英語の質問に素早く反応して答えたり、大きな声で英語を読んだり話したりできたか。（表現）

### 【追録】 指導案作成者から読者の皆様へ ―キャリア教育の視点から特に工夫したこと―

英語の基本は話す・聞くことなので、よりよい人間関係の下、集団の活動を通して、自分の考えを相手に適切に伝えることのできる能力を身に付けるとともに、相手の考えを受け止める態度を英語の授業の中で行うことができることを大事にした。特に生徒同士が、自分の考えや相手の考えを恥ずかしがらずに、話し合ったり、言葉で表現したり、まとめ・発表しあったりすることを大切にする授業となるように考えた。本指導案でキャリア教育の視点から特に工夫したことは、普段実施している英語の授業に、キャリア教育における諸能力のコミュニケーション能力である人間関係形成能力と社会形成能力を高めることができる指導案となるよう工夫した。キャリア教育は、特別なことではない。生徒の自己紹介の発表に、「今までとは違う新たな自分を紹介すること」で、他者に新たな自分を理解させるようにした。発表原稿を作る時に、プラスワンの情報を入れることを大事にした。英語が苦手な生徒は定型文を用いるが、上級者には、定型文にプラスワンを入れることで内容が広がるように指導するようにした。英語はコミュニケーションの道具なので、話すこと・聞くときのマナーを学ぶことは、普段の生活に必要なことを身に付けさせることができると考えた。そして、キャリア教育の視点を普段の授業に付加することは、生徒の学習が深い学びへと進化すると考えた。

（修士課程 教育研究科 スクールリーダーシップ開発専攻 1年 小出 和代）

### 【文献】

文部科学省（2015）『Hi, Friends 2!』東京書籍

笠島準一編著（2015）『NEW HORIZON English Course 1』東京書籍

東京書籍、『「NEW HORIZON 年間指導計画作成資料」平成28年度用 NEW HORIZON 年間指導計画作成資料1年』、<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/chu/keikaku/eigo/index.htm>

（2017年8月30日最終閲覧）引用

文部科学省（2011）『中学校キャリア教育の手引き』教育出版株式会社

文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説 特別活動編』

文部科学省（2008）『中学校学習指導要領解説 特別活動編』

文部科学省（2008）『中学校学習指導要領解説 道徳編』

文部科学省（2008）『中学校学習指導要領解説 外国語』

## 道徳の時間(特別の教科 道徳)指導案

轍中学校 教諭 宮本 慧

### 〔轍中学校1年生 「特別の教科 道徳」におけるキャリア教育〕

轍中学校第1学年の道徳の時間(「特別の教科 道徳」の試行的先行実施)においては、本校1年生の四つのキャリア教育の目標のうち、「自分が多くの人とのつながりの中で生活していることを理解し、将来の夢や目標につながるような、自らの関心や良さを発見することができる」という目標を中心に据える。「特別の教科 道徳」における、キャリア教育に係る年間指導計画は以下の通りである。

平成28年度 歌里亜市立 轍中学校 1年生 キャリア教育年間指導計画「特別の教科 道徳」

4月	相互理解, 寛容 (傾聴スキルを身につけるソーシャル スキルトレーニングを用いた道徳教育)	10月	
5月		11月	
6月		12月	
7月		1月	向上心, 個性の伸長 (世界に一つだけの花『中学生の道徳 かけがえのない きみだから1年』、自 分らしく生きるとは?)
8月		2月	社会参画, 公共の精神, 勤労 (1月に発見した自らの関心や良さを振 り返り、社会参画のあり方をより具体的 にする)
9月		3月	

入学したばかりの生徒は、まだ学校生活に慣れていない。そこで4月の活動では、生徒がお互いに打ち解けあい、相手とよりよいコミュニケーションができることを目的として、傾聴スキルを取得するソーシャルスキルトレーニングによる道徳教育を行う。具体的には、まず導入において、相手が発言することに全て「そうだね」という「そうだねゲーム」や、友達の話したことに「!」か「?」のカードとジェスチャーのみで相槌をうつ「!?ゲーム」などを行い、緊張をほぐす。次に先ほどの活動を踏まえ、相手に気持ち良く話を聞き、また聞いてもらうにはどうすればよいか、生徒の発言を中心に考えていく。最後に、こうして発見した傾聴スキルをまとめるとともに、日常で生かせるよう継続的に指導する。

1月の主題「自分らしく生きるとは?」は、国語科で1月に予定されている「読書に親しむ」へのつながりを意識して実施する。特に、道徳科指導計画の第2時の活動と、国語科指導計画の第2時の活動を連携させていきたい。本実践では、自分らしく生きるとはどういうことか、自分の良さや関心はどこにあり、どんな夢や目標をもってキャリア設計をしていくかを、授業を重ねていく中で深めていけるように構想している。

2月の活動では、9月に探求した自身の関心や良さを振り返るとともに、個人の長所を生かした社会参画のあり方について、歌里亜市の人々の生き方を学ぶことによって、将来の自分像を具体的に深める。

これらを通して、2年次の職場体験活動、3年次の進路決定を見据えて、1年次のこの段階で自身のキャリアへの関心を高め、学習意欲や学校生活の充実度を向上させていきたい。

1. 授業実践の日時：平成 29 年 1 月 16 日（月）
2. 学級：轍中学校 1 年 2 組 32 名（男子 16 名、女子 16 名）
3. 資料：「世界に一つだけの花」学研『中学生の道徳 かけがえのない きみだから 1 年』24-27 頁。
4. 主題名：あなたらしさってなんだろう？

## 5. 主題の目標・ねらい

### (1) 本主題の目標・ねらい

- 第 1 時 自分らしく生きるとはということかについて、クラスメートの考えを尊重しながら、自分の考えをもつことができる。
- ◎A 主として自分自身に関すること 個性の伸張
  - B 主として人との関わりに関すること 相互理解，寛容
- 第 2 時 自分らしく働くとはということかについて、実際の人々の生き方から自分の考えをもつことができる。
- ◎C 主として集団や社会との関わりに関すること 勤労，公共の精神
  - B 主として人との関わりに関すること 友情，信頼
- 第 3 時 クラスメートを尊重し、その人の良さやキャリアについて考えたことを、誠実・公平に伝えることができる。
- ◎B 主として人との関わりに関すること 親切，思いやり
  - C 主として集団や社会との関わりに関すること 公正，公平，社会正義
- 第 4 時 自分の良さや関心について発見し、これからのキャリア設計を考え、それに向けて努力しようとすることができる。
- ◎A 主として自分自身に関すること 希望と勇気，努力と強い意志
  - C 主として集団や社会との関わりに関すること よりよい学校生活，集団生活の充実

平成 27 年 3 月に告示された「中学校 特別の教科 道徳」では、平成 20 年 3 月版の目標に掲げられた「道徳的価値」から「道徳的諸価値（下線筆者注）」へと転換がなされている。そのため本実践も、中心となる道徳的価値、それを補完する道徳的価値を設定した。

### (2) 本主題とキャリア教育との接点

轍中学校 1 年生のキャリア教育の目標の中でも、「②自分の良さや個性に気づき、それに基づいて将来進むべき方向性について自分なりに考えることができる」を「特別の教科 道徳」における中心的な目標としている。

## 6. 主題全体の指導計画

時	活動名	学習内容・活動	留意点及び評価の観点
1 本 時	自分らしく生きるとは	「世界に一つだけの花」を読み、自分らしく生きるとはということかについて、自分の考え、意見を発表しあう。	自分らしく生きることについて、自分の考えをもち、そのことに関心を抱くことができる。（個性の伸張） お互いを尊重しながら考えを聞き、発表することができる（相互理解，寛容）
2	自分らしく生きている人を探してみよう	歌里亜市教育委員会が小学校 3・4 年の社会科の副読本として配布している「わたし	自分や周りの人にとって、働くことの大切さを知ることができる（勤労，公共の精神）。 「自分らしさ」を見つける活動において、生

		たちの歌里亜市」を活用して地域について学習した後、教員が作成した資料を用い、キャリア形成について関心を深める。	徒がお互いに助け合えるような場を設定する（友情、信頼）。 国語科「読書案内」と連携させ、必要な情報を読み取る能力を養う。
3	あなたらしさを見つけてみよう (1)	クラスメートの良さをみつけ、その人の「自分らしさ」を踏まえてキャリア設計をする。	相手のことを思いやり、良さをみつけて伝えることができる。 (親切、思いやり) どのクラスメートとも分け隔てをせず、その人の良さを真剣に探し、伝えることができる。 (公正、公正、社会正義)
4	あなたらしさを見つけてみよう (2)	前時の活動を踏まえて、自分らしさを再発見し、将来の夢や目標について考える。	自分の関心や良さに気づき、自らの夢や目標を抱く。夢や目標がまだ見つからない者は、それを見つけようとする。 そして、それに向かって希望をもって努力しようとすることができる。 (希望と勇気、努力と強い意志) お互いの夢や目標をみつけ、達成するために、これからの学校生活を充実させようと努める。 (よりよい学校生活、集団生活の充実)

全体計画の第二時に活用する「わたしたちの歌里亜市」は、各市町村の小学校で活用されている社会科の副読本を想定している<sup>1</sup>。こうした副読本は、その情報量の多さから小学校で十分に活用されていない場合も考えられる。そこで、初めにこれらを活用して、小学校の学習を振り返ると共に、地域についての知識を深める。次に、これらに記載されている地域の発展につくした人々に焦点を当てて、その人々の生き方に関する資料を教員が提示する。その人々の生き方について学ぶことにより、郷土愛を育み、地域の人々の生き方について関心を高める。

## 7. 本時の指導

### (1) 本時の目標・ねらい

初めに、本時の目標は次の通りである。

自分らしく生きることについて、自分の考えをもち、そのことに関心を抱くことができる（個性の伸張）。お互いを尊重しながら考えを聞き、発表することができる（相互理解、寛容）。

次に、本時のねらいについて述べる。平成27年7月告示の『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』には、「向上心、個性の伸長」の指導の要点において「中学校の段階では、入学して間もない時期には、他者との比較において自分を捉え、劣等感に思い悩んだり、他者と異なる不安から個性を伸ばそうとすることに消極的になったりすることもある」と論じている。ここでいう個性とは「その人固有の持ち味」を指し、個性を伸ばすとは「固有の持ち味をよりよい方向へ伸ばし、より輝かせること」と定義される。そして「個性を生かし伸ばしていくこと」は「人間の生涯をかけての課題」であり、「他者との関わりの中で自分らしさを発揮している生き方」、「自分自身が納得できる深い喜びを伴った意味ある人生を生きる」という「充実した生き方」を追求することが学習目標として掲げられている<sup>2</sup>。本校では「将来の夢や希望を持っている」と答えた生徒の割合が全国平均を下回っているという実態がある。

そのため、彼らが希望をもって「充実した生き方」を目指せるよう指導することは、本校の実態、道德教育の目標、生涯を通じたキャリア形成の観点から極めて重要であるといふ。

しかしながら、「個性の伸長」を指導する上で見落としとしてはならないことがある。それは、各自が実践する「充実した生き方」が、他者にとって許容される生き方とは限らないということである。例えば、長い間多くの人々に愛されたとある音楽ユニットが、メンバーの考え方の違いから解散の危機に陥っているとする。メンバーにおいて、解散を望む者は「脱退した方が自分の個性が生かせる」、存続を望む者は「グループが残った方が自分の良さが生きる」とそれぞれ意見が対立し、話し合いが延々平行線を辿る。こうした緊張状態は当人たちの間だけにとどまるのではなく、所属している事務所や、彼らを支える様々な職種の人々、そしてメンバーを心配するファンなどに大きな影響を与えている。これはあくまでも仮想の事例だけれども、あらゆる「個性の伸長」が社会において全て無条件に認められるわけではないということは示せたのではないだろうか。

また別の事例を示すと、学校での勉強やテストは自分の個性をだめにする、だから学校には行かないと主張する生徒がいたとする。彼は、自分の個性は学校では測れないところにあり、世界を放浪した方が「充実した生き方」ができると考えている。そういう生徒に「そうだね。君の生き方を尊重するから、学校にこなくていいよ」とためらいなくいえる教員はそれほど多くはないだろう。その理由として

- ・ 勉強やテスト程度でだめになる個性は、個性ではない
- ・ その生徒の個性観と、教員が把握しているその生徒の個性にズレがある
- ・ 学校に通わずに世界を放浪して生きていけるほどの個性があるとは思えない

など様々な回答が予想される。ここで重要なのは、

- ・ 個性はみる人によって変わる、すなわち価値中立的な個性はありえないということ
- ・ 他者の個性を判断するときに、望ましい個性とそうでない個性に分類する作業からは逃れられない
- ・ あらゆる個性が無条件に許容されるわけではない

ということである。ここを踏まえ、他者を尊重した独りよがりにならない「個性の伸長」を目指さないと、自己実現のためには周りの人はどうでもいいという自分勝手な「個性の伸長」をしてしまうことになりかねない。そこで本実践では、「個性の伸長」の大切さを踏まえた上で、どのような「個性の伸長」が望ましく、また望ましくないのかを生徒に考えさせる授業を行う。具体的には、本時の前半において「自分らしく生きること」の大切さを認識する。それを踏まえ、本時の後半では「自分らしく生きられれば何をしてもよいのか？」を中心発問とし、「よく生きる」とはどういうことかについて生徒に考えさせることによって「道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことをねらう。

## (2) 資料観

本資料のタイトルにある「世界に一つだけの花」とは、2003年にリリースされたアイドルグループSMAPの楽曲であり、その歌詞は本教材の途中に挿入されている。以下ストーリーの概要を簡潔に述べる。

本資料は、「あなたらしさって何ですか？」という問いかけから始まる。中学に入学したばかりの「ぼく」はこの問いに「何て答えたらいいのかわからなかった」。なぜなら、「授業中、特に積極的に発言するわけでもなく」、「部活のサッカーも、レギュラーになれるほど上手じゃない」として、「何のとりえもなく、いてもいなくても変わらない」と考えていたからである。しかし、ある出来事がきっかけで沙友理さんや先生に「ぼくらしい」ところを見つけてもらい、「新しい自分を発見」する。そのとき、テレビから流れてきた「世界に一つだけの花」を聴いたことで「ぼくらしく生きること」の大切さに気づき、一人ひとりが輝いて見えるようになった。そして、「もっと輝かなくちゃ。ぼくらしく……」というメッセージを伝えるところで本資料は終了となる。

さて、このストーリーにおいて、おさえておくべき要点は二点ある。第一に「ぼく」の自分らしさは、友人の「沙友理さん」や先生といった他者の言葉をきっかけに発見したということである。先生は、後片付けを褒められた「ぼく」が自分だけじゃないと答えたことを、「佑樹（「ぼく」のこと。著者注）らしい答え方だな」と述べている。また「沙友理さん」は、「きちんと自分の仕事をやり通すところが、

佑樹君らしい」と述べている。これらの言葉をきっかけに、「ぼく」は「自分らしさ」を発見するのである。つまり、他者や社会との関係の中で個性が発見されるということが本資料から読み取れる。こうした他者の重要性を生徒に認識させることによって、「自分らしさ」とは独りよがりに見つかるものではないということを伝えたい。なお、本要点において注意すべきことが二点ある。一点目に、発見した「自分らしさ」が他の人と一致しても構わないということである。二点目に、クラスがお互いの良さについて伝えあえるような雰囲気でない、あまり生徒の道徳性の向上に寄与しないということである。また、クラスに孤立していた生徒がいた場合、彼彼女は誰からも「自分らしさ」について発見してもらえず、自信をなくしてしまう恐れがある。

第二に、「ぼく」は「世界に一つだけの花」の歌詞をきいて、「ぼくらしく生きること」の大切さに気づくということである。そのため、こうした経緯を踏まえつつ、歌詞のどこが「ぼく」を「はっと」させたのかをおさえる必要がある。本ストーリーの展開と歌詞を照らし合わせて考察すると、今まで他者と比べて自分を卑下してばかりいた「ぼく」が、「一人一人違うのにその中で一番になりたがる」ことのおかしさに気づき、自分自身の「花」＝個性、良さを咲かせることだけに「一生懸命になればいい」という考えに至る。なぜなら「No.1 にならなくてもいい」、「もともと特別な Only one」なのだから。そうして「ぼくらしく生きていく」と、「毎日が楽しい」ものになり、周りの仲間も「一人ひとりがとても輝いて見えるように」なった。つまり、優劣をつけるような比較ではなく、個々人の個性、良さを認め尊重することによって「自分らしさ」を発見することができ、人生が豊かなものになるというメッセージが読み取れるといえよう。

なお、本要点においても注意すべきことが三点ある。一点目は、本資料は努力しなくてもいいということを推奨しているわけではないということ、二点目は、学校の教育活動から競争はなくなならないという現実である。「自分らしく生きること」を、嫌な現実から逃避する口実にしてはならない。具体的には、「勉強なんてしなくていいよ。どうせぼくは頭が悪いから。人と比べなくても、もともと特別な Only one だからいいじゃないか」として、ありのままの自分を肯定するという名目で、逃避としての現状維持を正当化することは避けなければならない。また、「No.1 にならなくていい」というのも、ある種理想論的な側面があることを教師は留意しておかななくてはならない。なぜなら、テストで順位をつけたり、部活動で優勝を狙ったり、偏差値の高い高校進学を希望するなど、教育活動において競争を推奨する場面は枚挙にいとまがないからである。一位を目指すことが必要な場合もある、競争自体が絶対悪というわけではないと教師が認識しておかないと、本実践が嘘くさいものになってしまう危険がある。

そして三点目は、「自分らしく生きること」と身勝手に生きることは違う、ということである。厳密には人それぞれ考えが異なるであろうが、学校現場においてはこのことを十分に押さえておかなければならない。そうでないと、「ぼくらしく生きていくから先生は口出ししないでください」という生徒の意見に大義名分を与えてしまう。この点は、「いかに生きるか」という生徒一人ひとりの道徳的实践に関わってくる。本時の後半では、このことを中心に議論を深めていき、授業後に道徳の実践意欲と態度を高められるように授業を展開していきたい。



## (3) 展開

	学習活動と予想される生徒の反応 (○は教師の発問。・は予想される生徒の反応を指す)	授業 形態	指導上の留意点と評価
導入 5分	① 全体の見通しと、本時の学習内容を確認する。 ② どうして「自分らしく生きること」が大切なかを生徒に問いかける。 ○ どうして「自分らしく生きること」が大切なのだろうか？ ・ 「自分らしさ」がよく分からない ・ みんな同じ生き方だとつまらないから ・ 一度きりの人生を後悔しないため	一斉	① 全体の見通しとして、これから4時間の活動で、将来の夢や目標を探して発表することを生徒に伝える。また、そのために本時は「自分らしさ」について考えることを伝える。 ② 「自分らしさ」の大切さを考えるにあたり、具体的な「自分らしさ」を発言していく。教師自身の考えを述べたり、友達の良さについて発言させてもよい。考えさせるのが目的のため、あまり意見がでなくてもよい。
展開 I 15分	③ 資料「世界に一つだけの花」を読み、「自分らしく生きること」の大切さについて考える。 ○ 「ぼく」はこの歌詞のどこに「はっとした」のだろうか。それはどうしてだろう。 ・ 「もともと特別な Only one」というところ。 ・ 今まで人と比べていたから、比べなくていいというところに「はっとした」と思う。 ○ どうして「自分らしく生きること」が大切なのだろうか？ ・ No.1 だけしか目指していないと、なれなかったときに辛いから。 ・ いつも誰かと比べていると、順番をつけることができない、その人の良さが見えなくなるから。 ・ ・ 比べないことで見えるよさがあるから。	個人  一斉	③ 途中に「世界に一つだけの花」の歌詞が挿入されているところがある。そこで、SMAPの楽曲「世界に一つだけの花」を流す。  ・ どうして「ぼく」は「自分らしさ」を見つけられたのかを問いかけ、他者の存在の重要性にも気づかせる。  ・ No.1 を目指しても目指さなくてもいい。それよりも大切なことは、自分や友達の良さをみつけて、「輝いて」生きること、ということを生徒に気づかせる。  ・ ・ 「競争に勝つことが自分らしさだ」という意見も多様な生き方の一つとして肯定する。クラスメートが様々な生き方を志向していると知ること学習の一環と捉える。
展開 II 20分	④ 「自分らしく生きること」ができれば何をしてもよいか問いかけ、「よく生きること」について考えを深める。 ○ 「自分らしく生きること」ができれば、何をしてもいいのだろうか？ ・ 人に迷惑をかけるような生き方はよくないんじゃないかな。 ・ でも、迷惑をかけてでもやりたいことがあったらどうするの？ ・ どうしてもやりたいことがあったら、我慢しなくてもいいと思う。 ・ わがままに生きることと、「自分らしく生きること」は違うよ。 ○ 「自分らしく生きる」にはどうしたら	一斉	⑤ 展開Iで「自分らしく生きること」の大切さを抑えた上で、具体的な生き方について考えを深める。 ・ 「一人一人違う種を持つ」、「もともと特別な Only one」だから、誰に何を言われようと好き勝手に生きればいいのか？と問いかける等をして生徒の考えを深める。 ・ 話し合いが深まらない場合は、「身勝手に生きること」がなぜいけないのか、生徒に具体例を出させながら考えさせる。 ・ 展開I・IIともに、生徒の発言とのやりとりや、その発言を全体に投げかけることを通して、クラス全体で考えを共有し深めて

	いいのだろう？ ・ クラスメートとの関わりの中で「自分らしさ」を見つける。 ・ 今の生き方が身勝手な生き方じゃないか考える。 ・ 誰にも譲れない大事なものを探して、それを大切に生きていく。		いけるように努める。 ・ 「自分らしく生きること」は自分一人だけの問題ではないということ、他者との関わりや社会の中でどのように生きていくかを考えることが大切だと気づかせる。最終的に、生徒一人一人がどういう生き方をしたいか、自分自身のこととして考えさせたい。
終 末 10 分	⑤ 最後に、これからの活動を再度予告し、今日の授業を通じて考えたこと、感じたことを道徳ノートに書かせる。	個人	⑤ 何を書いたらいいかわからない生徒に対しては、本授業を振り返り、これからどんな生き方をしたいかについて書かせる。

## 8. 本時の評価について

自分らしく生きることについて真剣に考え、自らの考えを発表したりノートにまとめたりしているかを、評価の対象にする。文部科学省が再三指摘しているように、道徳の評価は特定の考えを押しつけたリ、入試で利用するものではない。特に、生徒が記述した内容を元に、自らの夢や目標を見つけられるよう「励まし」、「伸ばす」積極的な評価を行う<sup>3</sup>。また、轍中学校では生徒一人一人に「道徳ノート」を作成させ、授業において活用している。この試みは平成29年度4月から歌里市内の小中学校全体で共通に実施される。このノートは授業中に考えをまとめ、感想を記述するだけでなく、日々の生活において道徳的実践を行ったことや道徳について考えたことも適宜自由に書くよう指導している。教師はこのノートを定期的に回収して閲覧することにより、生徒の良さを発見するのみならず、メッセージを書き込むことで「励まし」、「伸ばす」積極的な評価を行うことができる。さらに今後は、小中9年間にわたってノートが積み重なることにより、生徒が自分自身の成長を実感し、自己肯定感を高めることや、キャリアパスポート<sup>4</sup>の材料に生かすことも構想している。

資料 道徳ノートの例

1/16 自分らしく生きるとは

① 「自分らしく生きること」の大切さ

- ・はといた ... 特別な Only one が
- ・Na! だけを目指す と 大変。  
なれなかつたとき辛い

・課題  
 ・板書した 中心発問  
 ・感想  
  
 の項目は、ノートに書くよう指導ね

→ いろいろ生き方もある (オリンピック選手)

・比べないことで見えるよさがある

② 自分らしく生きる ⇒ 何をしてもいい?

何をしてもいいわけではない

- ・もし自分の将来の夢に家族が反対したら

素直に受け止めた方がいい。  
信用されるようにする → 勉強をがんばる

中心発問の相聞は、  
 必ずしもノートに書かなくてよい。  
 なぜなら、ノートに書かずとも、  
 生徒は頭の中で真剣に  
 考えているかもしれないからである。

・もし生徒が何を言いたか  
 よいかと返している ならば、  
 自分の考え、友達の意見で  
 気になった点をメモするよう  
 アドバイスをする

③ 感想

みんな 色々な生き方があって驚いた。  
 中川さんの「比べるだけでは見えない良さがある、という考えは  
 見習いたいと感じた。」

私は、「自分も周りの人も幸せになるような生き方」をしたい。

なぜなら、それは身勝手な生き方とは違い、  
周りの人のことを大切に、自分の夢を叶える生き方だからだ。

感想は必ずノートに  
 書くよう指導ね

大事なことに  
 気づけたね。  
 いつもクラスの和を  
 大切にしている田中  
 さん、とても実践で  
 ます! Fight!

良さを見つけ、メッセージを書き込み、  
 后々また仰はす

### 【追録】指導案作成者から読者の皆様へーキャリア教育の視点から特に工夫したことー

本指導案の目的の一つとして、道德の教科化を念頭において作成された資料を用いて、キャリア教育の要素を含んだ道德の授業を構想することが挙げられる。また、いわゆる分かりきった答え当てゲームのような展開ではなく、生徒一人ひとりの生き方に訴える「考える道德」、「議論する道德」を重視した展開になるよう腐心したつもりである。道德の教科化自体は未だ賛否両論があり、筆者自身の立場も揺れ動いているのが正直なところである。しかしながら、実際に教科化は決定してしまい、資料の好悪に関わらず「教科書」を用いて道德を教えなければならない状況となってしまった。それならば、そうした制約を受け入れつつも、どう工夫すれば生徒の生き方に響く授業ができるか考える方が大切なのではないだろうかと思ひながら、本指導案を作成していた。拙作が、実際に現場で教育に携わる先生方の一助になれば幸いである。

(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻 1年 宮本 慧)

### 【註】

<sup>1</sup> 「歌里亜市」は架空の自治体であるため、今回は、三重県松坂市の「わたしたちの松坂市」、神奈川県で作成された「わたしたちの神奈川県」などを参考とした。

「わたしたちの松坂市」

<http://fukudokuhon.jp> (2016年8月23日最終確認)

「わたしたちの神奈川県」

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f531430/> (2016年8月23日最終確認)

<sup>2</sup> 平成27年度7月告示『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編』29～30頁。

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_\\_\\_icsFiles/afieldfile/2015/07/29/1356257\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/___icsFiles/afieldfile/2015/07/29/1356257_2.pdf) (2016年8月23日最終確認)

<sup>3</sup> 文部科学省「道德の評価はどうなる??」

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/doutoku/\\_\\_\\_icsFiles/afieldfile/2016/06/17/1222218\\_001.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/___icsFiles/afieldfile/2016/06/17/1222218_001.pdf)  
(2016年8月23日最終確認)

<sup>4</sup> 文部科学省は、「特別活動については、(中略)自己の生き方・キャリア形成につなげていく仕組みを導入する観点から、特別活動の学級活動・ホームルーム活動に『一人一人のキャリア形成と実現(仮称)』を位置づけるとともに、『キャリアパスポート(仮称)』の活用を図ることを検討する」とある。ここでは特別活動を想定しているものの、「特別の教科 道德」の領域で同様の試みをすることも可能である。

文部科学省「資料3-1 次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ(素案) (総論部分)」2016年8月1日、44頁。

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/\\_\\_\\_icsFiles/afieldfile/2016/08/03/1375316\\_3\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/___icsFiles/afieldfile/2016/08/03/1375316_3_1_1.pdf) (2016年8月23日最終確認)

## 総合的な学習の時間指導案

轍中学校 教諭 野田 紘史

## 〔轍中学校 1 年生総合的な学習の時間におけるキャリア教育〕

## 1. 接続を踏まえつつ、轍地区の事について知る。

学習指導要領において、総合的な学習の時間では、日常的な生活（地域での生活も含む）の中で、教科横断的に、自主的な input/output（言語活動を含む）をする事が求められている<sup>1</sup>。また、本学では 2 年生になると、轍地区の事業所で職場体験活動をする事が必須となっている。

上記の事や学年の目標等から、1 年次の総合的な学習の時間では、小学校との接続を意識しつつ、轍地区そのものについて、様々な切り口から「学ぶ」事が求められる。轍地区についての様々な知見を獲得する事で、本地区についての良さや課題を、当事者意識を持って考えられるようになると共に、2 年次の職場体験でも、当事者意識を持つ事ができるようになる。また、小学校での地域学習をより深める効果もある（問題解決の視点を持って考えることができるようになる、等）。

## 2. 日常の学習を活かして、自らの手で探究する。

「学び」とは、従来のような教員が一方的に話して生徒がそれを聞き取って覚える形式によってではない。生徒達自身が、その切り口から自身の関心・興味に照らして、何を探究し・何を伝えたいのかを明確化し、それらを実行する中で獲得する。それを実行する事で、自身が行うべき事について自覚し、進んで計画的に取り組む事ができる。

日常の学び（教科学習）についても、この時間の中で、「活かせる」モノであると意識できるようにする。それによって、「剥落する知」ではなく、「身に付いたそれを、自覚的・非自覚的を問わず、効果的に活用できる知」となる学習になる事が期待される（これには、各教科担当の先生方の協力は不可欠であり、教科を横断した学際的協力体制の構築が求められる）。

## 3. 「学び」そのものや、地域学習を通して、自他を知覚し尊重する。

轍中学校には、2 つの小学校区から生徒が来ている。その為、一年次には、異なる性質を持つ集団同士が入り混じり、それぞれの校区についても考え合わせると、「多様性のある集団」が出来上がることになる。この為、「多様性」と『（自らとは異なる）「他者」の尊重』を意識して、「排除」ではなく「共生」を選択できるような生徒になる教育を必要とする事になる（生徒指導上も、これは必要となる）。少なくとも、「他者」と「学び合う」仕組みの構築は不可欠である。総合的な学習の時間では、その「多様性」の根本原因となる「地域」を扱う事で、それに取り組む。生徒が相互に、それぞれの「地域」について学ぶ事で、自らとは異なる「他者」の知覚と受容を学ぶ。

また、それを行う為に、まず自らの地域を知り、それと共に自己の Identity を知る（全てではなくても良い）。これによって、自己肯定・自己受容が得られ、「他者」受容の基盤となる。

## 【年間指導計画】

4～7 月：轍地区の防犯・防災マップを作ろう

9～1 月：轍地区の観光マップを作ろう



## 平成 28 年度 1 年生 総合的な学習の時間 年間指導計画

月	総合的な学習の時間	内容
4	<p>轍地区の防犯・防災マップを作ろう。</p> <p>⇒防犯については、例えば、通学路や買い物等で使う道路の街灯の数や、過去に何か事件・事故があったのか、(何も無くても) 注意すべき事は何か、についての探究(原因と(あるのであれば,) 再発防止策も)。その上で、自分達で対策を考え、発信する。</p> <p>防災については、例えば、住んでいる場所周辺で、過去に何か自然災害があったのか、(何も無くても) 注意すべき事は何か(自治体での取り扱いはどうなっているのか)、についての探究(原因と(あるのであれば,) 再発防止策も)。その上で、自分達で対策を考え、発信する。</p> <p>「歌里亜節」のような地域の伝統・伝承に含まれる防災要素も題材として取り上げる。</p>	<p>最初の 1 時間は(通学路や日常で使用する道路での) 防犯(交通安全を含む) の基礎事項を説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全</li> <li>・変質者</li> <li>・ひったくり</li> <li>・強盗</li> </ul> <p>等</p> <p>次の 1 時間は、(学校や自分の住んでいる場所の) 防災についての基礎事項を説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水害</li> <li>・土砂崩れ</li> <li>・地震</li> <li>・火災</li> </ul> <p>等</p> <p>自分が住んでいる所/自身の通学路(通学バス使用者はバス停までの。それも距離が無ければ、日常的によく使う区間の道について) について地図(マップ) に纏める。その際、沿道にどのような施設・事業所があるのかを盛り込む。</p> <p>⇒話し合いで、ここを足した方が良い・ここはどういう意味か、といった事を交流させる。その後、1 時間を用いてミニ発表。</p>
5	<p>⇒生徒の安全確保、(生徒達による) 小グループによる話し合いとミニ発表による学び合い、最終回近くでの「発信」による言語活動、探究や対策作り等の中での学びの活用・地域の知見獲得、などがねらい。</p>	<p>4 月に纏めたマップに左記の防犯要素・防犯対策/防災要素・防災対策について盛り込んでいく。図書館での調べ学習もする。参考資料の配布もする。</p> <p>⇒1～2 時間、3. 11. の話をする(コミュニティについての話も含める)。</p> <p>⇒話し合いで、ここを足した方が良い・ここはどういう意味か、といった事を交流させる。その後、1 時間を使って、ミニ発表。</p>
6	<p>※「発信」・・・警察署の地域課の方/歌里亜市の防災担当部署の方を招き、模造紙や「レジュメ」で発表をさせる(グループで)。それについての講評も貰う。</p> <p>※マップ・・・轍地区の道路だけが書かれた白地図に、「ポイント」の印と、そこに各要素/対策が纏められた吹き出しのようなものを付けたもの。個人情報に配慮し、自宅の位置については印を付けず、自宅のある地区に印を付ける形にする。</p>	<p>7 月の「発信」に向け、準備を開始する。「地域」が多様になるように、4 人ずつのグループを組み、作業させる。この際、「仕事」が「分担」されるように、予め教員が割り振る等の「配慮」もする。</p> <p>⇒話し合いで、ここを足した方が良い・ここはどういう意味か、といった事を交流させる。</p>
7		<p>「発信」をする。その講評を元に、個人で最終レポートを纏める。</p>
8		

9	<p>轍地区の観光マップを作ろう。</p> <p>⇒轍地区の観光マップを作る事を通して、同地区の事業所や産業/伝統工芸や伝統芸能などを知る事ができる。そして、地域の資源とそれを活かそうとする為に、考えを巡らす事ができるようになる。</p>	<p>最初の2時間は、「観光になりうるもの」や「観光マップの例（どのようなマップが見やすく行きたくなるか）」についての説明をする。</p> <p>自分が住んでいる所/自身の通学路（通学バス使用者はバス停までの。それも距離が無ければ、日常的によく使う区間の道について）に沿道のスポットに焦点を当てて、その中から観光スポットになりそうなものを選んで纏める。7月までの成果も活用。</p>
10	<p>ここでは、既存の観光スポットを紹介するのではなく、身近なスポットを観光の対象とする。</p> <p>※「発信」・・・歌里市市の観光担当部署の方等を招き、模造紙や「レジュメ」で発表をさせる（グループで）。それについての講評も貰う。</p>	<p>どうしても、無いという生徒には、歌里市や外開とのアクセスなどを考えてもらう。</p> <p>図書館での調べ学習もする。参考資料の配布もする。</p>
11	<p>※マップ・・・轍地区の道路だけが書かれた白地図（場合によっては、歌里市全体）に、「ポイント」の印と、そこに「要点が纏められた吹き出し」、又は、「紹介文章のようなもの」を付けたもの。</p>	<p>⇒話し合いで、ここを足した方が良い・ここはどういう意味か、といった事を交流させる。その後、1時間を使って、ミニ発表。</p>
12		<p>1月の「発信」に向け、準備を開始する。「地域」が多様になるように、4人ずつのグループを組み、作業させる。この際、「仕事」が「分担」されるように、予め教員が割り振る等の「配慮」もする。</p> <p>⇒話し合いで、ここを足した方が良い・ここはどういう意味か、といった事を交流させる。もし、あった時には、「○○（看板等）があったらもっと良い」等の主張を反映させる。</p>
1		<p>「発信」をする。その講評を元に、個人で最終レポートを纏める。</p>
2		
3		

## ▲配慮事項

- ・生徒達の意見の発信や、通常の調査段階において、人間関係トラブルが起こり得る事は「想定される」。そこで、注意深く（各教員の協力で）観察を続ける必要がある。
- ・配布の参考資料等は、中学1年生向けに編集する必要がある。
- ・「正解は無い」事を必ず伝え、浸透させる事。
- ・（特に2学期）、轍地区を扱う際、どうしても轍地区の「外」にも触れたいと生徒が主張した時、又は、轍地区の「外」に触れさせざるを得ない時には、柔軟に対応する。

1. 授業実践の日時：平成28年5月17日（火）6時限
2. 学級：轍中学校1年4組32名（男子16名、女子16名、計32名）
- 3-1.大単元名：轍地区の防犯・防災マップを作ろう。
- 3-2.小単元名：東日本大震災と地域コミュニティ

## 4.単元の目標・ねらい

## (1) 大単元・小単元の目標・ねらい

大単元での目標・ねらいは3つある。1つは、生徒への早くからの安全教育である。轍中学校では、小学校より長距離を通う生徒が多くなる事で、生徒達の安全へのリスクが高まる。そこで、そのリスクを回避する為に行う。2つ目は、通学路や地域といった題材が、身近かつ必要性の感じられる題材の1つである為である。3つ目は、小中高の接続を考慮する上で、この題材はそれについての方針等が出されており、接続も踏まえた教育の意義が保証されている点である。

小単元では、2011年3月11日に発生した東日本大震災後に、地域コミュニティ・の災害時における存在意義が注目された事に焦点を当てる。そして、(主に防災の面で)地域コミュニティがどのような役割を果たすのかについて、生徒に理解してもらう事を目指す。

## (2) 教材観(題材選択理由)

年間で扱う二つの大単元は、教科横断的な内容にしやすいものである。勿論、各教科の流れを阻害しない配慮は必要であるが、身近な題材を用いつつ、自身の成果が活用できる事による自己肯定感の高まりや、教科学習への効用への高まりが期待できる。

その中で、地図というコンテンツに焦点を当て、年間を通して扱う理由は、地図を用いる能力を身に付ける必要性・小学校段階での学びとの接続の他、視覚情報による分かりやすいプレゼンテーションを行えるようになるというねらいがある。特にプレゼンテーションは、パワーポイントの使用が近年の主流であるが、それ以外にも用いる事のできるコンテンツがある事を知っておく事で、将来、多様な形で説明方法を用いる事ができるようになる。

## (3) 大単元・小単元とキャリア教育との接点

大単元については、1年次のキャリア目標である「轍地区の良さや課題に気づく」・「自他の良さや個性に気づく」を達成する為の、1つの切り口として用いる。前者は、防犯・防災の地域での経緯や取り組みを通して獲得する。後者は、2小から生徒が来る事によって起きる、生徒の地域的多様性の中で、相互の地域学習による学び合いを通して獲得する。

小単元は、キャリア目標の「轍地区の良さや課題に気づく」の達成を目指すステップの1つである。東日本大震災が発生した直後やその後に起きた事象を学ぶ事を通して、歌里市轍地区の人間として、災害時にどのように振舞うか・地域コミュニティの意義を自らで咀嚼しどう活用するか、などの事を考えられるようにする。

## 5.単元(小単元)全体の指導計画

回	時間数	内容	備考
1	1	東日本大震災について説明し、特にその時「地域」で何が起こったのかを理解する。 下記留意点に配慮した、参考資料等を準備して用いる。 被災時、及び、被災直後の事象を、「自助」「共助」「公助」に分けた後、「共助」「公助」の面で、地域コミュニティにどのような機能があったのかを話す。 また、「地域コミュニティ」が震災によって崩壊してしまった地域では、具体的にどのような変化と影響があったのか、という事も話す。	社会科などへ「越境」しない為に、被災直後に何が起き・どう対処が為されたのかといった事に重きを置く。 【授業道具】 ワークシート
2 (本時)	1	初めに、轍地区では大地震が起きた際にどのような事が起き得るのかを考える。 次に、教員が作成した、「轍地区での地域防災の取り決め(事	【授業道具】 ・ワークシート ・教員作成参考



	<p>業者と自治体との協定を含む)・「事業者や個人が公にしている地域での取り組み」などが纏められた参考資料を配布し、説明を加える。</p> <p>そして、生徒達に、</p> <p>① 作成したマップにおいて、教員の配布した資料の内容はどのように関係するか（それらの取り組みなどに関係する箇所はあるか。無かったとしたら、何故無いのかを考えてみる）。</p> <p>② 轍地区のそれら取り組みは十分か不十分か（後者ならどうすれば良いか）。</p> <p>の二点を個人で考えてもらう。小グループで意見交換をした後、個人の考えを再度纏めてもらう。</p>	資料
--	---	----

(留意点)・被災地から避難してきた生徒は、本学級にはいない。

・参考資料等については、予見し得る生徒の心情に配慮して選定・構成される。

・もう1コマ増やせるのであれば、ゲストスピーカーをお呼びすることを検討する。地域の事業所で何らかの取り組みをしている人・取り決めに結んでいる人や、社会福祉協議会や民生委員など防災に関わっている組織の方。

## 6.本時の指導

### (1) 本時の目標・ねらい

轍地区の地域コミュニティとその取り組みある事について知り、防災の面でどのような意義と課題を持つのかを考える事ができる（キャリア目標と関連）。それらの問題点を考え、その問題理解を前提とした改善策を考えてみるという作業を通して、地域に対する当事者意識を高めると共に、考えを交流する事による他地域・他意見との接触から、自他の良さに気付けるようになる。

### (2) 展開

時間配分	学習内容と活動	指導上の留意点
導入 5分	轍地区で地震が起きたら、どんな事が起き得るかを生徒に問いかける。	発言してもらうのがベスト。どうしても無い時は、教員からの提示。
展開1 10分	教員作成の参考資料を配布し、「轍地区での地域防災の取り組み(事業者と自治体との協定を含む)・「事業者や個人が公にしている地域での取り組み」について、説明を加えて説明する。	
展開2 10分	ワークシートを用いて、生徒達にワークをさせる（上記単元展開の①②部分）。	①において、場所が分からないなどで手間取っている生徒がいたらサポートする。
展開3 12分	小グループで考えを交換させる。	教員は巡視しつつ、意見の促しや、活かすべき意見への気付きの補助などをする。
まとめ 13分（7分+6分）	再度、個人で考えを纏めさせる。 自己評価シートの作成をさせる。	

(3) ワークシート

## ワークシート

5月17日 1年\_\_\_\_組\_\_\_\_番 名前\_\_\_\_\_

- ① 自分で作ったマップをみて、今日の話で出た取り組みなどに関係している場所あったでしょうか。あったとしたら、どのように関係しているでしょうか。また、無かったとしたら、何故無いのでしょうか。


討論後	

- ② 轍地区の防災は、それらの取り組みで、十分でしょうか。十分でない（不十分）ならば、どうすれば良いでしょうか。


討論後	

## 7-1.本時の評価について

自己評価シートによる自己評価。

1年次の総合的な学習の時間では、各ターム（小単元）の区切りとなる時点で、生徒達による自己評価をさせる。タームごとに、目標となる課題が設定されており、生徒達自身に、どれくらいそれに取組めたか・どれくらい達成できたかを評価してもらう。数直線評価<sup>2</sup>と、説明を書いてもらう。それらの関連性・詳細性を評価する。

尚、それらは纏めて、1年次の終わりにファイリングして生徒に返却し、生徒に自身の成長を自覚させる。生徒の人生におけるキャリア全体の中での、自己を振り返る為の資料でもある。

## 7-2.自己評価シート

## 自己評価シート

\_\_\_\_月\_\_\_\_日 1年\_\_\_\_組\_\_\_\_番 名前\_\_\_\_\_

(1) 他の人の意見を活かして自分の考えをまとめられた。

できなかった

できた




(2) 轍地区の防災への取り組みが理解でき、その意義・課題・改善策などが考えられた。

できなかった

できた




[追録] 指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

本時の指導案を作成する上で留意したのは、「中学1年生の総合的な学習の時間であること」「小学校段階との接続を考える必要があること」「生徒達のバックグラウンドが多様であること」の3点である。また、2年生では職場体験活動をする事が定められており、それとの接続を考える必要もあった。それらの結果として、内容や方法に多くの配慮をし、本指導案ができあがった。

内容自体は、斬新なものではないが、一つのテーマを長期的に扱える利点を活かし、深い内容と多様な方法を用いた計画を設計した。これによって、中学一年生段階における他者との学び合いについての教育も、時間をかけて行う事が可能となった。生徒達が「継続的に物事を最後までやり遂げられる」「成果を残せる」という体験ができる事も、本指導案の意義の一つである。

最後に、歌里亜市の交通網（大单元「轍地区の観光マップを作ろう」に関わる）について記載しておく。歌里亜市の交通網は、大変整っている。例えば、隣の外開市にある国際線も就航している空港から歌里亜市内の駅まで、「快速エアポート外開」が15分に1本ずつ運行されている（別に、リムジンバスもあり）。また、JR線には、外開市と隣接していることから、「ホームライナー歌里亜」や「歌里亜快特」「歌里亜急行」など優等種別も運行されている。また、土休日には観光客向け臨時列車も存在する。高速バスについても、外開市との関係で多くの路線があり、各都市と連絡している。路線バス網も、歌里亜市の重点施策に取り上げられた事で、歌里亜市の運営する路線や、民営企業の路線、デマンド型交通など、多様な形で整備されている。

（人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻 1年 野田 紘史<sup>のだ こうじ</sup>）

[註]

<sup>1</sup> 文部科学省『中学校 学習指導要領』（[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/sougou.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/sougou.htm) 最終閲覧：20160724）。

<sup>2</sup> 数直線画像引用元

（<http://www.bing.com/images/search?q=%e6%95%b0%e7%9b%b4%e7%b7%9a&view=detailv2&&id=45FA70C8B16EB0D8E36A72CEAA72112AB513B08F&selectedIndex=50&ccid=Htsf3sef&simid=607991817755102979&thid=OIP.M1edb1fdec79f18f02480235cdbe95a9co0&ajaxhist=0> 最終閲覧：20160819）

[文献一覧]

- ・『「防災まちづくり・くにづくり」を考える』（内閣官房国土強靱化推進室）  
[http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo\\_kyoujinka/pdf/textbook.pdf](http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/pdf/textbook.pdf) （最終閲覧 20160731）
- ・『学習教材「防災まちづくり・くにづくり」教師用参考資料』（内閣官房国土強靱化推進室）  
[http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo\\_kyoujinka/pdf/kyousi\\_sankou.pdf](http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/pdf/kyousi_sankou.pdf) （最終閲覧 20160731）
- ・『わたしたちの美郷町』（美郷町教育委員会教育推進課）  
<http://www.town.misato.akita.jp/fukudokuhon/809.html> （最終閲覧 20160731）
- ・『わたしたちの掛川市』（掛川市教育委員会）  
<http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/data/open/cnt/3/1908/1/0all.pdf> （最終閲覧 20160731）

## 学級活動指導案

轍中学校 教諭 小牧 叡司

### 〔轍中学校1年生学級活動におけるキャリア教育〕

特別活動WGでは第一学年のキャリア教育の目標と学習指導要領における特別活動の目標を踏まえ、以下の目標を設定する。

- (1) 学校での学習を日常生活や将来の生活と結びつけて考えることができる。
- (2) 集団活動を通して、自分の良さや個性に気づき、それに基づいて将来進むべき方向性について自分なりに考えることができる。
- (3) 学校生活においてなくてはならないこと、すべきことを見つけられたか振り返り、進んで取り組み、特に割り当てられた役割の中で状況の改善ができる。
- (4) 轍地区の行事とそれを支える人びとについてインタビュー調査等によって調べたことをもとに、学級において理解を深め、轍地区の良さや課題に気づくことができる。

第一学年のキャリア教育の目標を達成するために、特別活動においては、以下の四点を重視した。第一に、特別活動が他の教科等におけるキャリア教育の中核的な活動となること。第二に、「自分の良さや個性に気づく」ことを特に学級での集団活動を通して促すこと。第三に、学校生活の振り返りの時間となること。第四に、人々の社会における役割を広くとらえ、会社等で「働く」以外にも、地域のために「働く」ことに目を向けさせ、地域の人の役割についてインタビュー等を通して調査し、学級において理解を深め、轍地区の良さや課題に気づくことができることである。

特別活動とりわけ学級活動はキャリア教育の中核としての役割を持つ。したがって、学級活動においては、生徒の学校生活全体を通したキャリア教育を行うことが重要である。そのため、学級活動は、各教科等における生徒の学びの中核にとどまらず、部活動や委員会活動、係活動等を含めた生徒の学び全体の中核として機能するよう配慮する。そのためには、例えば学級活動における学校生活の振り返りの際は、係活動や委員会活動の振り返り等も行うこととする。

## 特別活動・キャリア教育の指導計画

時期	時数	主な学習活動	キャリア教育との関連	学校行事
4月	1	・学級組織づくり、係・委員会活動の目標の設定	・目標（3）学校生活における役割	始業式 入学式 新入生歓迎会
	1	・クラスメイトを知ろう、学級目標、個人目標の設定	・目標（2）自分の良さや個性	部活動集会
5月	1	・この1か月の振り返り	・目標（1）学校での学習と日常生活	
	2	・体育祭に向けて		
6月	1	・体育祭の振り返り		体育祭 期末テスト
7月	1	・係・委員会活動の振り返り	・目標（3）学校生活における役割	球技大会
	1	・夏休みに向けて		
8月				
9月	1	・夏休みの振り返り		中間テスト
	1	・合唱祭に向けて		
	1	◎どうして勉強をするの？	・目標（1）学校での学習と日常生活	
10月	1	・校外学習に向けて	・目標（3）学校生活における役割	合唱祭
	1	・合唱祭の振り返り		
11月	1	・校外学習の振り返り	・目標（1）学校での学習と日常生活	校外学習
12月	1	・私の大切にしたいこと	・目標（2）自分の良さや個性	期末テスト 新入生1日体験入学
	1	・地域の行事を支える人びと	・目標（4）輻地区の行事	生徒会役員選挙
1月	2	・地域の行事のインタビュー	・目標（4）輻地区の行事	
2月	1	・卒業生を送る会に向けて	・目標（3）学校生活における役割	期末テスト
3月	1	・自分を知ろう	・目標（3）学校生活における役割	卒業生を送る会
	1	◎1年生の振り返り	・目標（1）学校での学習と日常生活	卒業式 終業式

※ ◎印は指導案に掲載した題材を示す。

1. 授業実践の日時：平成 28 年 9 月 26 日（月）3 時限
2. 学級：轍中学校 1 年 1 組 32 名（男子 16 名、女子 16 名）
3. 題材名 どうして勉強をするの？

#### 4. 題材について

##### （1）生徒の実態

本校生徒は、全国学力・学習状況調査では全国平均とほぼ同じかそれ以上の成績である。しかし、小学生のころから国語・算数・理科の勉強が好きな生徒は全国平均を下回る。特に 1 年生から 3 年生にかけて学習内容の抽象度が増すと、授業内容の理解が困難になる生徒が増え、同時に学習に対する意欲も低下する傾向をみとることができる。

1 年生に焦点を絞れば、比較的学習に対する意欲は高く、学習に積極的に取り組む姿も見られる。しかし、学習内容の抽象度が高くなるにつれて、意欲が低下することを踏まえれば、2 学期に入ってから意欲の低下がみられることが予想される。

##### （2）題材設定の理由・目標

上述の生徒の実態を踏まえ、本題材は 9 月に扱う。9 月は夏休み明けで学習への「切り替え」をしなければならず、かつ、全教科において学習の抽象度が高くなるとされる時期である。このような時期に学校でのすべての学びが日常生活においても、将来においても重要であることに気づかせる機会を設定する。その理由は、自らの学びが将来の生活において意味があるということに気づかせることで、生徒の学習意欲を喚起するためである。

本題材では、「勉強をしたくない」仮想人物を設定し、その人物の将来の生活と学校での学びとの関連性について考えさせる。この活動を通して、学校での学びが将来の生活につながっていることを、生徒に実感をもって理解させることを目標とする。

なお、本題材における具体的な人物設定は以下の二点を重視したものであり、学級の様子や生徒の実態をもとに変更する必要がある。第一に、全教科に言及していること。ただし、担任の担当教科である社会科は、班の数と教科の数を合わせることで、生徒に余計な気をつかわせることになることを回避するために除いた。第二に、生徒が実感を持てるような考えを例示していることである。

#### 5. 題材指導の目標・ねらい

##### （1）本題材の目標・ねらい

本題材は 1 時間の活動であるため、本題材の目標が本時の目標と一致する。前述の題材の目標を達成するために、以下の目標を設定した。

- 学級における話し合い活動に主体的に取り組むことができる。
- 将来の社会における役割を学校での学びと結びつけて考えることができる。
- 学校での学習を日常生活や将来の生活と結びつける意義について理解することができる。

##### （2）本題材とキャリア教育との接点

本題材のように、自身の将来と現在の学びの結びつきを考えさせ、生徒の学習意欲を喚起することは、各教科やその他の領域を通して生徒の社会的な自立を促すことにつながる。その点に本題材はキャリア教育と接点を持つ。

また、キャリア教育の中核的な活動として特別活動を位置付けることで、各教科での学びを総括的に捉えさせることも本題材では意識している。

## 6. 評価の視点と本授業における評価基準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級における話し合い活動に主体的に取り組もうとしている。	将来の社会における役割を学校での学びと結びつけて考えている。	学校での学習を日常生活や将来の生活と結びつける意義について理解しようとしている。

## 7. 本時の展開（50分）

## （1）えいし君の設定

I. 勉強をしたくない→単に面倒であるとか、ほかにしたいことがあるということではなく、自分がすることになっている「勉強」が果たしてどのような意味があるのかわからず、意欲がわからない。

## II. 各教科に対するえいし君の考え・疑問

国語	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語
話すことができるのにわざわざ勉強をする必要があるの？	パズルみたいで面白いと思うし、簡単な計算は買い物のときに必要だけど、xとかyとかの計算は人生に必要？	小学校のころの実験は楽しかったけど、植物の構造を覚えてなんの意味もないでしょう。	みんなの前で歌うのは恥ずかしい。将来にどう必要なのかわからない。	僕は芸術家になりたいわけではないから、わざわざ勉強する必要はないと思う。	スポーツは好きだから良いんだけど、嫌いなスポーツをやるのはいやだな。	技術物は買えばすむのに何で作ったりするんだろう？家庭習っていることがどう勉強になっているのかわからないなあ。	外国の人と話せるようになるのは良いことだと思うけど、外国の人と会う機会って僕には多分ないよ。

## （2）展開

	活動内容	指導上の留意点	評価基準と方法
導入 (六分)	勉強をしたくない「えいし君」の説明	具体的な人物設定を行い、全教科及び教科外を踏まえた「えいし君」の考えを提示する。 なぜ勉強をするのか、生徒に意見を出させる。「将来のため」や「良い暮らしのため」等の意見から「学校での学びは実生活とのつながりがあるのではないか」という問題提起をする。	



展開 (二八分)	各教科の学びはえいしくんの将来とどのようにつながっているだろうか？		
	自分の考えをまとめる(8分)	議論を具体化させるために、各教科における学びについてそれぞれ分担して考えさせる。	【関心・意欲・態度】 【思考・判断・実践】 自分の考えをまとめているか、また、話し合う姿勢・態度はできているかみとる。
	班ごとに話し合う(10分)	1班：国語、2班：数学、3班：理科、4班：音楽、5班：美術、6班：保健体育、7班：技術・家庭、8班：外国語	
まとめ (二六分)	クラスで自分たちの考えを話し合う(10分)		
	各教科の先生が考える学びと将来との結びつきについてのメッセージを読む	各教科についての考えを示すことで、生徒の各教科についての自分なりの考えを大切にしながら、考え方や視野を広げられるよう配慮する。	【知識・理解】 ワークシートの記述。
	ワークシートへの記述 今日の時間に考えたことを自分の言葉でまとめる。	学級における話し合いを踏まえて自分の考えを書かせる。 フィードバックは教室内の掲示によって行う。	

### 〔追録〕指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

今回は「どうして勉強をするのか」という題材を取り扱った。この題材について一般の学校の先生方はどう思われるのだろうか。この類の質問は、できればされたくない「厄介な」質問なのではないだろうか。その「厄介な」質問に真っ向から取り組んでいくことは非常に難しく、またリスクの高いことであると思われるだろう。私は、公立校に教育実習に行った際に「教師は、どうして勉強をするのかと生徒に問われた際の答えを用意しておくべきだ」という指導をいただいた。「教師」は字のごとく「教える師」であるから、なんでも教えたい気持ちは理解できるし、なんでも教えるべきだという信念があるのなら、それも理解はできる。しかし、なんでも教えるということを私は好まない。それは、教えられることと教えられないことが世の中には存在すると信じているからだ。

一般的には「どうして勉強をするのか」という問いに対して「うまく答える」ことが求められると思う。実際、インターネットで検索すると、子供にどうして勉強をするのかと問われたときの親の望ましい対応などは山ほどヒットする。しかし、そこで「うまく答える」ことは本当に子どものためになるのだろうか。確かに「自分の進んでいこうとしている道は間違いではない」と自信をつけさせてやることも重要だろう。だが、それで本当に子どもの社会的・職業的な自立を促すことはできるのだろうか。

筆者は子どもたち自身が「どうして勉強をするのか」という問いに対して自分なりの考えをもって生きていくことが重要であると考え、「どうして勉強をするのか」という問いに対する答えは教えられないことである。ここで教えなければならないのは、その問いに答えようとする態度や、考え方、その問いに答えを出すための手掛かりの見つけ方であると思う。中学校1年生の段階では、その考えを広げてやることに特に重要で、自分なりの答えを持つことと同時に視野を広げられるような題材として本題材の作成に取り組んだ。

(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻 1年 小牧 徹司)

[ワークシート]

## どうして勉強をするの？

月 日  
( )

組 番 名前 ( )

**大人は「君の勉強は将来とつながってるんだ」というけど、それって本当？**

( ) 班 考える教科 ( )

### 個人の意見

この教科はえいしくんの将来とつながって( いる ・ いない )と考える。

その理由は、

からだ。

### 班の意見

この教科はえいしくんの将来とつながって( いる ・ いない )と考える。

その理由は、

からだ。

### 結局、どうして勉強をするの？

クラスでの話し合いや実際の仕事の内容をふまえて自分の意見をまとめよう。

## 学級活動指導案

轍中学校 教諭 小牧 叡司

1. 授業実践の日時：平成 29 年 3 月 13 日（月）3 時限
2. 学級：轍中学校 1 年 1 組 32 名（男子 16 名、女子 16 名）
3. 題材 1 年生の振り返り
4. 題材について

## （1）生徒の実態

本校生徒は、物事を最後までやり遂げてうれしかった気持ちを経験したことが全国平均に比して少ない。その原因には、以下の二つが考えられる。すなわち、第一に目標を設定することをまずしていないために、やり遂げるゴールが見えず、達成感を感じるものが少ないこと。第二に、そのような機会を小学生のころから設けてこなかったことである。

## （2）題材設定の理由

上述の生徒の実態から、第一学年の特別活動では、「目標を立てる→振り返る」という形で一貫して授業を進めてきた。その集大成に本題材は位置づいている。これまでの学校行事や、教科における学習、部活動、係活動、委員会活動等、振り返るべき点は多くある。そこで、これまでに立ててきた目標や振り返ってきた内容を材料にして、この 1 年間を振り返らせる。

本題材を取り扱うにあたって、主なねらいは以下の二点である。

第一に、集団活動を通して、自分の良さや個性に気づき、それに基づいて将来進むべき方向性について自分なりに考えることを促すことである。そのために、集団での活動を取り入れる。本題材では、自分の一年間をじっくりと振り返るために、二人ペアでの活動を行う。お互いの一年間をもとに振り返ることを通して、自他を尊重する態度の形成を促すことを第一の狙いとする。

第二に、この一年間で自らが記入してきた目標と振り返りのワークシートを用いながら振り返りの活動を行うことで、漠然とした振り返りではなく、実感をもって自らとクラスメイトの成長を感じること、自己肯定感を高めさせることである。

加えて、生徒が作成したワークシートを教師との面談や個別の進路指導における資料として活用することも前提としている。

## 5. 題材指導の目標・ねらい

## （1）本題材の目標・ねらい

本題材は 1 時間の活動であるため、本題材の目標が本時の目標と一致する。前述の題材のねらいを達成するために、以下の目標を設定した。

- 学級生活の向上に関心を持ち、自身の生活の振り返りに自主的・自立的に取り組むことができる。
- 学級・学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、振り返りを適切にできる。
- 自身の役割と責任を自覚し、1 年間で果たしてきた役割等について振り返ることの意義について理解できる。

## （2）本題材とキャリア教育との接点

本題材とキャリア教育との接点は、以下の二点である。第一に、自身のこれまでの足跡を明文化して振り返ることで、計画的に学習等に取り組む態度を育てることである。第二に、自身の活動を振り返る活動を継続的に行うことで、長期的な資料として本題材で作成した記録を活用することができるようになることである。

## 6. 評価の視点と本授業における評価基準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級生活の向上に関心を持ち、自身の生活の振り返りに自主的・自立的に取り組もうとしている。	学級・学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、振り返りを適切にしている。	自身の役割と責任を自覚し、1年間で果たしてきた役割等について振り返ることの意義について理解しようとしている。

## 7. 本時の展開（50分）

## （1）展開

	活動内容	指導上の留意点	評価基準と方法
導入 (五分)	この一年の振り返り  これまでのワークシートの配布	入学式から時系列で写真を用いて振り返りを促す。 「これまでのワークシート」とは特別活動で生徒が作成してきたワークシートを各自ファイリングしたものである。	
展開 (二三分)	自分の考えをまとめる(15分)        自分たちの考えを話し合う(8分)	生徒がこれまでに作成してきた目標についてのワークシートを資料として用いさせる。 10段階の点数をつけさせる際には、各活動で具体的にどのようなことをしたか振り返らせる。 学級目標は抽象的であるため、生徒なりの解釈で具体的にどのようなことをしたのか記述させる。 2人1組で自分のできたこと・できなかったことを話させる。 その際、「達成できたこと」に焦点をあてさせ、お互いを認め合う態度を持たせるよう指導する。	【関心・意欲・態度】 自分の考えをまとめているか、また、話し合う姿勢・態度はできているかみとる。  【思考・判断・実践】 パートナーとの振り返り
まとめ (二二分)	パートナーの紹介(5分) 話し合いをした相手がどのようなことを達成できたのか、それについて自分はどう感じたかを2～3ペア発表させる。 ワークシートへの記述(15分) 一年を通して達成できた目標と、今日の時間で見えてきた来年度に向けての課題を自分の言葉でまとめる。 教師の言葉(2分)	パートナーを紹介するときは、達成できたことを紹介させる。       今回作成したワークシートを含めたこれまでのワークシートをもとに、全生徒に対する個別の指導を別の時間に行うことを伝える。その際、生徒の成長についての教師の見とりを伝える。生徒が自身の成長に確信が持てるよう配慮する。	【知識・理解】 ワークシートの記述

[ワークシート]

# 1年間のわ・だ・ち

わたしたち・だいすき・チャレンジ！！

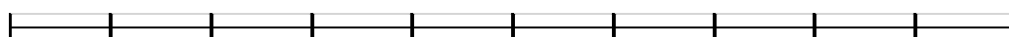
月 日

名前( )

◇ あなたは以下の活動の目標についてどのくらい達成できましたか？

【学級目標】 和を以て貴しとなす

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



全くできなかった

まあできた

とてもできた

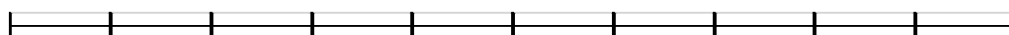
具体的に言うと、私は

できた。 / できなかった。

【個人の年間目標】 4月に立てた目標を振り返りましょう。

私の目標は、

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



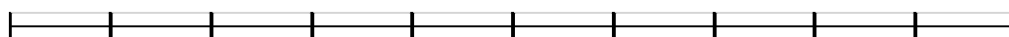
全くできなかった

まあできた

とてもできた

【委員会活動】

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



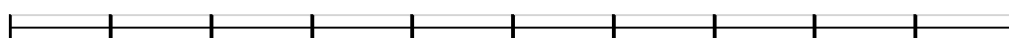
全くできなかった

まあできた

とてもできた

【係活動】

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



全くできなかった

まあできた

とてもできた

◇ この1年間で達成できたことは何ですか？

**わたしが達成できたことは…**

◇ 達成できなかった目標は何ですか？また、その理由は何だと思えますか？

**それでも達成できなかったのは…**

**で、その理由は…**

◇ となりの人が達成できたことを書き、それを聞いておもったことを書きましょう。

(                      )くん/さんが達成できたのは、

**で、わたしは…**

◇ まとめ

**〔追録〕指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—**

キャリア教育＝「進学指導」ではない。キャリア教育＝進路指導でもない。キャリア教育は、すべての教育活動に通底するある種の理念であると筆者は捉えている。キャリア教育をあまり狭義にとらえすぎないことが肝要である。

今回、特に工夫した点は、実際の中学校をイメージし、教員の負担が大きくなりすぎないように、キャリア教育の要素を探しながら、教材開発にも取り組んだ点である。時間は有限であり、一人の教員は常に教員として生きているわけにもいかない。また、教員としても様々な役割やなすべき仕事があって、教育の内容としてなんでもかんでも盛り込むわけにはいかない。そこで、すべての教育活動に通底するキャリア教育の要素を適確にみとり、効果的に扱う必要がある。加えて、特別活動の時間はキャリア教育の中核となる時間で、内容の融通も利きやすいために、キャリア教育に重点的に取り組む際の教材開発とその実践を行うことは適切かつ妥当である。

すべての教育活動を通じて、生徒の社会的・職業的自立を促すことは学校教育の目標とも重なる。キャリア教育とその中核としての特別活動の重要性を意識して指導案を作成した。

(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻 1年 小牧 叡司)